



THE NATIONAL  
ART CENTER, TOKYO  
国立新美術館

NACT REPORT  
APRIL 2006-MARCH 2007  
平成18年度 活動報告

平成18年度  
国立新美術館 活動報告

NACT REPORT  
April 2006 - March 2007  
The National Art Center, Tokyo

# 目次 Contents

1	国立新美術館沿革	History	5
2	平成18年度主要記事	Record of Events April 2006 – March 2007	9
3	開館に向けての準備	Preparations for the Opening of the Center	11
3-1	開館周知活動	Public Relations Activities	12
3-2	事業の準備	Preparation for the Center's Operations	14
3-3	施設、入館者サービスの整備	Facilities and Visitor Services	15
4	展覧会	Exhibitions	17
4-1	展覧会一覧	Exhibitions List	18
4-2	展覧会記録	Exhibition Details	19
5	美術団体等への展覧会会場提供	Provision of Exhibition Venues to Artist Associations	55
6	教育普及	Education and Public Programs	57
6-1	プレ・オープニング企画	Pre-opening Events	58
6-2	講演会等	Lectures, etc.	58
6-3	ワークショップ	Workshops	60
6-4	インターン、ボランティア	Internships and Volunteering	60
6-5	その他の教育普及事業	Other Education and Public Programs	60
7	情報資料収集・提供	Collection and Provision of the Library and Information Services	61
7-1	美術関連資料の収集と公開	Collection and Provision of the Library Materials	62
7-2	JACプロジェクト	JAC Project	63
7-3	展覧会情報の収集と提供	Collection and Provision of the Information Services	64
8	広報・出版	Publicity and Publications	65
8-1	印刷物	Publications	66
8-2	ホームページ	Website	69
8-3	その他の広報事業	Other Publicity Activities	69
8-4	掲載記事、放映	Media Publicity	70
9	調査・研究	Research	71
10	記録	Records	73
10-1	予算	Expenditure	74
10-2	国際交流	International Exchanges	74
10-3	名簿	Board of Trustees and Staff	77

※本PDF版では、刊行された『平成18年度 国立新美術館年報』の誤記等を一部修正、変更しております。また、「サポート・スタッフ名簿」、「資料寄贈者一覧」は掲載しておりません。



# 1

## 国立新美術館沿革

History

---

昭和53(1978)年4月	北村西望氏を代表とする日本芸術院会員43名の有志より、砂田重民文部大臣に対し「東京国立現代美術館建設に関する要望書」が出される。	平成12(2000)年2月	建設コンサルタント選定委員会が、「公募型プロポーザル方式」により、黒川紀章・日本設計共同体を設計者として選定。
昭和63(1988)年8月	日展、日本美術院、二科会等の有志からなる「国立現代美術館建設を促進する会」(会長:吉井淳二)より、金丸信議員、小淵恵三官房長官等に対し「国立現代美術館(ナショナル・ギャラリー)設立に関する陳情書」が出される。	平成12(2000)年3月	設立準備委員会において、「基本設計において考慮すべき主要事項」(同施設整備専門委員会)及び「管理運営等に関する主な検討課題」(同管理運営専門委員会)が了承される。
平成元(1989)年4月	平成元年度予算に、文化施設整備等の一環として「新しい美術展示施設等総合文化施設の在り方に関する調査研究」を既定経費の組み替えにより予算計上。	平成12(2000)年3月	文部科学省が黒川紀章・日本設計共同体と基本設計業務契約締結。基本設計に着手。
平成元(1989)年4月	国立美術館の学芸職員等からなるプロジェクト・チームを設置し、新しい美術展示施設の在り方に関する調査研究を開始。	平成12(2000)年11月	文化庁長官及び東京大学総長に対して、(社)日本建築学会会長から「旧歩兵第三聯隊兵舎(東京大学生産技術研究所・東京大学物性研究所)」の保存再生に関する要望書」が出される。
平成元(1989)年10月	「新しい美術展示施設等総合文化施設の在り方に関する調査研究協力者会議」を設置。	平成13(2001)年1月	設立準備委員会において、「基本設計」が了承される。
平成7(1995)年6月	「三党合意の検証の上に乗って新たに付け加えるべき当面の重点政策」(自由民主党政務調査会長:加藤紘一、日本社会党政務調査会長:関山信之、新党さきがけ政策調査会長:菅直人)において、「絵画・工芸部門等の全国的な公募展開催の施設などの建設を進める。」こととされる。	平成13(2001)年1月	黒川紀章・日本設計共同体と実施設計業務契約締結。実施設計に着手。
平成7(1995)年9月	平成7年度第二次補正予算において「東京大学六本木地区の物性研究所等の移転等再配置計画」が認められる。以後、当該移転跡地(生産技術研究所及び物性研究所:用地面積約4.8ha)の一部を建設用地として、設立準備を進めることとされる。	平成13(2001)年3月	文化庁長官に対して、(社)日本建築家協会関東甲信越支部支部長及び保存問題委員会委員長から「旧東京大学生産技術研究所・東京大学物性研究所(旧歩兵第三聯隊兵舎)保存活用に関する要望書」が出される。
平成7(1995)年10月	「新しい美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)に関する調査研究会」(座長:平山郁夫)を設置。	平成13(2001)年4月	東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立国際美術館が統合し、独立行政法人国立美術館を設置。
平成8(1996)年3月	「新しい美術展示施設設立の基本構想」(新しい美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)に関する調査研究会)を策定。	平成13(2001)年4月	文化庁文化部長から、(社)建築学会及び(社)日本建築家協会に対して、生産技術研究所建物を後世に伝えるため「記録として保存する」「建築模型を作成する」「保存措置の可能性について検討する」こと等を回答。
平成8(1996)年12月	「新しい美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)に関する基本計画検討協力者協議会」(座長:平山郁夫)を設置。	平成13(2001)年4月	文化庁が、「東京大学生産技術研究所(旧陸軍歩兵第三聯隊兵舎)建物の記録保存に関する協力者会議」を設置。
平成11(1999)年3月	「新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)基本計画」(新しい美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)に関する基本計画検討協力者会議)を策定。	平成13(2001)年5月	文化庁長官に対して、「旧歩兵第三聯隊兵舎(東京大学生産技術研究所・東京大学物性研究所)をナショナル・ギャラリーとして活用する国会議員の会」(超党派、発起人:河村たかし、松浪健二郎ほか7名)から「旧歩兵第三聯隊(東京大学生産技術研究所・東京大学物性研究所)に関する要望書」が出される。
平成11(1999)年9月	「新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)設立準備委員会」(座長:平山郁夫)を設置。(以下「設立準備委員会」と表記。)	平成13(2001)年6月	文化庁が、建物の一部(外観意匠について特徴的な中庭への通路口及びその周辺)を現敷地内において保存活用することを決定(新聞報道)。
平成11(1999)年10月	設立準備委員会の下に、専門的な事項を検討するため「施設整備専門委員会」(主査:内山武夫)、「管理運営専門委員会」(主査:辻村哲夫)を設置。	平成13(2001)年12月	設立準備委員会において「実施設計」が承認される。
平成11(1999)年10月	文部科学省が「新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)建設コンサルタント選定委員	平成14(2002)年3月	「東京大学生産技術研究所(旧歩兵第三聯隊兵舎)建造物記録保存調査」報告書を作成。
		平成14(2002)年4月	独立行政法人国立美術館に関する中期目標、中期計画及び業務方法書の一部を変更(新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)の開設準備を追加)。
		平成14(2002)年4月	文化庁文化部長から「新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)設

	立準備室」を設置。	平成17(2005)年2月	平成19年度国立新美術館展示室(公募展用)及び野外展示場使用申込み受付(申込数:127団体)。
平成14(2002)年7月	文部科学省が国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)新営工事入札を執行。	平成17(2005)年4月	東京メトロ千代田線乃木坂駅との連絡通路工事着工。
平成14(2002)年9月	建築工事(躯体)に着工。	平成17(2005)年5月	独法設立準備室において、平成19年度施設使用に関する抽選会を実施、68団体を決定。
平成14(2002)年11月	設立準備委員会の下に、「名称選考委員会」(主査:辻村哲夫)を設置。	平成17(2005)年8月	独法設立準備室において、平成19年度施設使用の決定した美術団体等に対して「国立新美術館建築施設案内会」を実施(～9月。6回、64団体、255名参加)。
平成14(2002)年12月	名称の全国公募の実施(～平成15年1月、応募総数:1,006点)	平成17(2005)年8月	独法設立準備室に、「ロゴ・シンボルマーク選定委員会」を設置。
平成15(2003)年4月	独立行政法人国立美術館内に国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)設立準備室を設置。(以下「独法設立準備室」と表記。)	平成17(2005)年12月	独法設立準備室において、2団体の辞退を受け、平成19年度施設使用について追加申込み受付(申込数:19団体、うち野外展示場のみ1団体)。
平成15(2003)年4月	設立準備委員会において、「国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)管理運営等に関する検討結果報告書」(管理運営専門委員会)を決定するとともに、名称選考委員会での検討をもとに名称のあり方について検討。	平成17(2005)年12月	独法設立準備室において、佐藤可士和氏デザインのロゴ・シンボルマークの採用案を決定。
平成15(2003)年6月	独法設立準備室において、「企画展プロジェクトチーム」を設置。館主催の展覧会事業、教育普及事業、情報収集提供事業等の基本方針に関する検討を開始。	平成18(2006)年1月	独法設立準備室において、平成19年度施設使用に係る追加申込みに関する抽選会を実施。
平成15(2003)年6月	文化庁が、設立準備委員会における審議結果を踏まえ、正式名称を「国立新美術館」と決定するとともに、「管理運営の考え方」をまとめ、公表。	平成18(2006)年1月	独法設立準備室において、「国立新美術館レストラン等出店業者」を公募。
平成15(2003)年6月	文化庁及び独立行政法人国立美術館内に置かれた、国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)設立準備室を「国立新美術館設立準備室」に名称を変更。	平成18(2006)年2月	独法設立準備室において、公募団体が使用する展示室等にかかる作業を円滑かつ安全に行うため「バックヤード等設備・備品等の運用に関するワーキンググループ委員会」を設置。
平成16(2004)年3月	独法設立準備室に、国立新美術館の開館準備に係る重要事項について検討するため「国立新美術館運営協議会」(座長:高階秀爾)を設置。	平成18(2006)年2月	独法設立準備室において、平成19年度施設使用にかかる追加3団体(うち野外展示場のみ1団体)を決定、平成19年度使用団体69団体を最終決定。
平成16(2004)年8月	独法設立準備室において、施設の貸出に関する記者発表を実施(於:国立新美術館建築現場、33社・56名出席)。	平成18(2006)年3月	独法設立準備室において、公募により「国立新美術館レストラン等出店業者」として株式会社ひらまつを選定。
平成16(2004)年9月	独法設立準備室において、施設の貸出に関する説明会を実施(於:東京国立博物館、2日間、214団体、350名出席)。	平成18(2006)年3月	独立行政法人国立美術館法の一部改正(追加出資規定の整備)(4月施行)。
平成16(2004)年11月	独法設立準備室において、財団法人国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリーより、展覧会カタログ約20,000冊の移管を受ける。	平成18(2006)年3月	文化庁が、国立新美術館設立準備室を廃止し、「国立新美術館開設連携支援室」を設置。
平成16(2004)年11月	独法設立準備室において、「準備室ニュースNo. 1」を作成。教育委員会、大使館、大学等約1,500団体に配布(以後、No. 4(18年3月)まで作成・配布)。		
平成16(2004)年12月	独法設立準備室企画展プロジェクトチームにおける検討結果を踏まえ、国立新美術館運営協議会において、館主催の展覧会事業、教育普及事業、情報収集・提供事業等の基本方針を検討。		
平成16(2004)年12月	独法設立準備室において、「平成19年度国立新美術館展示室(公募展用)及び野外展示場の使用に係る募集要項」を184団体に配布。		
平成17(2005)年2月	独法設立準備室において、建築施設案内会を実施(5回、122団体、222名参加)。		





# 2

## 平成18年度主要記事

Record of Events April 2006 – March 2007

---

- 平成18(2006)年5月 31日 国立新美術館竣工。  
独法設立準備室において、平成20年度施設使用団体を決定(69団体)。
- 6月 独法設立準備室において、一般競争入札により「国立新美術館管理運営業務(設備運転監視、常駐警備、受付業務、看視・発券・検札、緑地管理業務等を包括的に実施)業者」として鹿島建物総合管理株式会社を選定、業務開始。  
14日 文化庁が、国立新美術館竣工式典を実施。小坂文部科学大臣をはじめ関係者約300名が出席。
- 7月 1日 独立行政法人国立美術館業務方法書の一部改正(独立行政法人国立美術館が設置する美術館に「国立新美術館」を追加)。国立新美術館を機関設置。  
1日 独立行政法人国立美術館 国立新美術館初代館長に林田英樹が就任。  
4日 林田英樹初代国立新美術館長の就任記者会見を開催。開館を平成19(2007)年1月21日とすること、開館記念展として『20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語(仮称)』を開催すること等を公表。
- 8月 平成19年度使用団体への建物見学会の実施(～11月。延べ約1,200名参加)。
- 9月 13日 国立新美術館評議員会第1回を開催(17名で構成。会長に高階秀爾氏、副会長に澄川喜一氏を選出)。  
14日 開館記念展『20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—』及び共催展『異邦人たちのパリ 1900-2005 ホンピドー・センター所蔵作品展』の記者発表会を実施。  
14日 報道関係者に対して、六本木アート・トライアングル(サントリー美術館、森美術館との連携協力)設置についての資料提供。  
15日 建物御披露目会を実施。  
29日、30日 プレ・オープニング企画「日豪アートフォーラム」を実施。  
公募により「国立新美術館ミュージアムショップ出店業者」として、株式会社ジョージズファニチュアを選定。
- 10月 13日、15日、19日、21日 プレ・オープニング企画「建築ツアー」を実施。  
26日、27日 「建築ツアー」落選者に対する建物見学会を実施。
- 11月 30日 プレ・オープニング企画「オペラ・コンサート2006」を実施。
- 12月 16日 公開シンポジウム「色で結ぶ美術と科学」を開催。  
24日 プレ・オープニング企画「クリスマス混声合唱コンサート2006」を実施。
- 平成19(2007)年1月 20日 開館記念式典及び開館記念祝賀会を実施(主催：文化庁、独立行政法人国立美術館)。安倍内閣総理大臣、伊吹文部科学大臣をはじめ関係者347名が出席。天皇皇后両陛下が祝賀会に御臨席。  
開館記念展内覧会及びレセプションを実施。  
21日 国立新美術館一般公開。  
国立新美術館開館記念展『20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—』とともに、『黒川紀章展—機械の時代から生命の時代へ』、『文化庁メディア芸術祭10周年企画展 日本の表現力』を同時開催。
- 2月 7日 『異邦人たちのパリ 1900-2005 ホンピドー・センター所蔵作品展』開始(～5月7日)。



1月20日 開館記念式典



1月20日 開館記念祝賀会

# 3

## 開館に向けての準備

Preparations for the Opening of the Center

### 3-1 開館周知活動

Public Relations Activities

### 3-2 事業の準備

Preparation for the Center's Operations

### 3-3 施設、入館者サービスの整備

Facilities and Visitor Services

## 3-1 開館周知活動 Public Relations Activities

開館に向け国立新美術館を広く周知する活動として、建物御披露目会や記者発表会の実施、施設概要パンフレットの制作・配布を行ったほか、プレ・イベント等を開催した。

御披露目会やプレ・イベントの開催を通じて黒川紀章氏設計の施設を積極的に公開し、美術館事業や所在地の周知に努め、佐藤可士和氏デザインのシンボルマーク・ロゴを前面に出した広報活動で、先進的で独創的な活動を展開していく新しい美術の「場」であることを広くアピールした。

ウェブサイト上においては、平成16(2004)年12月より「国立新美術館設立準備室ホームページ」を開設、美術館の事業を紹介してきたが、平成18(2006)年7月の「独立行政法人国立美術館 国立新美術館」機関設置にともなって、美術館ウェブサイトをリニューアルし、以後は「国立新美術館ホームページ」(<http://www.nact.jp>)にて各種展覧会や施設利用案内等の迅速な情報提供を行っている。

To publicize The National Art Center, Tokyo to a wide audience, a range of pre-opening events was held, including a ceremony to unveil the building and a press conference. Leaflets outlining the Center's facilities were also produced and distributed.

Through the unveiling ceremony and pre-opening events, we actively made public the facilities designed by Kishō Kurokawa and worked to publicize the Center's programs and location. The NACT symbol and logo designed by Kashiwa Satō were placed front and center as we conveyed the purpose of the museum as a new art venue engaged in progressive, original activities.

The National Art Center, Tokyo preparatory office launched a homepage introducing the Center's activities in December 2004. When the Center was officially established under the umbrella of the Independent Administrative Institution National Museum of Art in July 2006, the site was relaunched as The National Art Center, Tokyo homepage <<http://www.nact.jp>>, since when it has provided speedy, up-to-date information on the Center's exhibitions and facilities.

## 開館および展覧会の広報、周知活動

## ■ 展覧会記者発表、建物御披露目会等

## 開館記念展記者発表会

日時:9月14日(木)14時~15時20分

出席者数:250人

内容:国立新美術館開館記念展「20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—」、『異邦人たちのバリ 1900—2005 ポンビドー・センター所蔵作品展』、『黒川紀章展—機械の時代から生命の時代へ』、『文化庁メディア芸術祭10周年企画展 日本の表現力』の開催告知

## 建物御披露目会

日時:9月15日(金)14時~16時

出席者数:818人

内容:地元関係者、美術団体等を対象とした施設の公開

## 開館記念式典及び開館記念祝賀会

日時:1月20日(土)14時~16時30分

主催:文化庁、独立行政法人国立美術館

出席者数:347人 祝賀会に、天皇后両陛下が御臨席

## 開館記念展内覧会及びレセプション

日時:1月20日(土)18時30分~20時30分

出席者数:1,366人

## ■ 施設の貸出、提供

## オーディ新車発表会

日時:9月21日(木)13時30分~21時(参加者数:915人)、

22日(金)15時~21時(参加者数:836人)

貸与先:オーディ

内容:新車発表・試乗会

## オーストラリア・フェスティバル オープニングレセプション

日時:9月29日(金)18時30分~21時30分

参加者数:228人

提供先:オーストラリア大使館ほか

## ■ 印刷物

## 国立新美術館施設概要

A4判、16ページ、22,000部

デザイン:佐藤可士和

ご挨拶/建築、シンボルマーク・ロゴ/施設概要、沿革、活動方針、事業内容/施設/フロアプラン/建築概要/基本情報

## 国立新美術館開館告知ポスター

B1判、〈建築写真〉4000部、〈シンボルマーク〉1000部

デザイン:佐藤可士和



1月20日



1月21日

## プレ・オープニング企画、プレ・イベント

開館を4ヶ月後にひかえた平成18(2006)年9月より、六本木の地に新しく誕生する国立新美術館をより広く周知するために、一般から参加者を募り、建築ツアー等のイベントを実施した。

### ■ 国立新美術館プレ・オープニング企画 日豪アートフォーラム

日豪美術関係者会議(非公開)

日時: 9月29日(金)10時~18時、30日(土)10時~12時  
出席: 34人(2日間) アリソン・キャロル(メルボルン大学、アジアリンク、アーツ・プログラム)、建島哲(国立国際美術館館長)ほか

日豪アート交流シンポジウム「オーストラリアと日本—美術の現在と未来」

日時: 9月30日(土)14時~17時  
講演: アナ・ワルドマン(オーストラリア・カウンシル、ビジュアル・アーツ委員会ディレクター)、北川フラム(大地の芸術祭—越後妻有アートトリエンナーレ、総合ディレクター)ほか  
主催: 国立新美術館、アジアリンク、豪日交流基金、オーストラリア大使館  
協力: 独立行政法人 国際交流基金  
参加者数: 147人



### ■ 国立新美術館プレ・オープニング企画 建築ツアー

日時: 10月13日(金)11時~、14時30分~、19時~  
10月15日(日)11時~、14時30分~  
10月19日(木)11時~、14時30分~、19時~  
10月21日(土)11時~、14時30分~

参加者数: 637人(全10回)

内容: 開館前の美術館施設を見学するツアー

### ■ 国立新美術館プレ・オープニング企画 建物見学会

日時: 10月26日(木)14時~17時、27日(金)14時~17時

参加者数: 1,290人(2日間)

内容: 建築ツアー落選者を対象とした施設の公開



### ■ 国立新美術館開館プレ・イベント オペラコンサート2006

日時: 11月30日(木)18時30分~

制作: 新国立劇場

出演: 新国立劇場オペラ研究所修了生及び研修生

参加者数: 184人

内容: 1階アトリウムでのオペラコンサート



### ■ 国立新美術館開館プレ・イベント クリスマス混声合唱コンサート2006

日時: 12月24日(日)17時~

制作・協力: (財)合唱音楽振興会

出演: 東京混声合唱団

参加者数: 199人

内容: 1階アトリウムでの合唱コンサート



## 3-2 事業の準備 Preparation for the Center's Operations

### 美術団体等への展覧会場提供事業の準備

国立新美術館では、全国的な活動を行っている美術団体等が実施する、美術の振興普及及び発展を目的とした展覧会の場として、平成19(2007)年4月より展示室等の提供を行う。平成16年度より施設の貸出に関する広報、募集を開始し、平成18(2006)年2月までに平成19年度の使用団体69団体を決定した。

平成18年度は、平成19年度公募展開催に向けて、団体間の利用調整や関連施設案内会の実施など諸準備を進めた。

In April 2007 The National Art Center, Tokyo will begin providing exhibition spaces and other facilities for exhibitions aimed at art promotion, dissemination, and development held by artist associations engaged in nationwide activities. The Center began publicizing and soliciting applications for rental of the facilities in fiscal 2004, and as of February 2006 some 69 associations were scheduled to use the facilities in fiscal 2007.

In fiscal 2006 preparations were made for holding these exhibitions, such as by coordinating the use of the facilities among the associations and holding meetings to introduce related facilities.



施設案内会の様子

### 情報資料提供事業の準備

開館後の情報提供・資料公開に向けた準備として、平成16(2004)年4月より、東京国立近代美術館フィルムセンター3階スペースを借りて資料のデータ登録及び装備を行い、処理を終えた原本は国立新美術館への移転まで民間倉庫に保管を委託した。

平成18(2006)年7月に六本木へ移転した後も、地下の審査室において資料のデータ登録及び装備を引き続き行う一方、民間倉庫で保管していた資料を随時館に搬入し、3階アートライブラリー及び閉架書庫で配架作業を行った。

In preparation for opening the Art Library, The National Art Center, Tokyo had rented a corner space on the third floor of the National Film Center to work on organizing and cataloging various library materials. Cataloged materials had been stored at a private-sector storage facility commissioned for the purpose until the completion of the Center's own building.

Organization, classification and cataloging of the Library materials went on at the Judging Rooms in the basement after moving into the brand-new facilities in Roppongi. Materials held at the outside storage were brought in according to the planning of the stacks, and the collection was finally shelved in the Art Library's public area and the closed stacks.



アートライブラリー

### 3-3 施設、入館者サービスの整備 Facilities and Visitor Services

#### 施設の整備

平成18(2006)年5月末に国立新美術館建物が竣工し、7月に「独立行政法人国立美術館 国立新美術館」が機関設置されたことを受け、庶務・学芸機能が六本木の美術館内へ移転した。これより、開館に向けた施設や入館者サービスの整備が本格化し、什器の設置や、レストラン、ミュージアムショップ等の開店準備が進められた。

広い館内を巡る入館者に配慮し、各所に休憩用の椅子を設置、また各階にレストランやカフェなどの飲食スペースを配備した。パブリック・スペースの什器には、アルネ・ヤコブセンやハンス・ウェグナーらデンマークのデザイナーによる、機能的で見た目にも美しい家具を採用、優れたデザインの普及を図っている。

With the completion of construction work on the NACT building in May 2006 and the establishment of The National Art Center, Tokyo as an institution under the Independent Administrative Institution National Museum of Art in July, the Center's administrative and artistic functions were moved to within the NACT itself. This facilitated an acceleration in work on readying the facilities and visitor services for the opening of the museum, such as installing equipment and preparing the restaurants and museum shop for opening.

In consideration of the visitors who will walk around the Center's extensive facilities, chairs for resting have been placed in each section, and restaurants and cafes on each floor provide ample opportunities for refreshment. Public spaces in the Center feature functional, aesthetically pleasing furniture created by Danish designers including Arne Jacobsen and Hans J. Wegner, enabling visitors to experience examples of outstanding design

#### 入館者サービス、観覧環境の整備

##### ■ レストラン、カフェ

館内にはレストラン1カ所、カフェ3カ所が開店し、株式会社ひらまつにより運営されている。

- レストラン【3階】：ブラスリー ポール・ボキューズ ミュゼ
- カフェ 【2階】：サロン・ド・テ ロンド
- 【1階】：カフェ コキーク
- 【地下1階】：カフェテリア カレ



レストラン

##### ■ ミュージアムショップ

地下1階には、ミュージアムショップ『スーベニア フロム トーキョー (SFT)』がオープン、CIBONE(株式会社ジョージズファニチュア)によって運営されている。また、ショップにはギャラリー・スペース『SFTギャラリー』が併設され、平成19年度より、主に若手アーティストやデザイナーを取り上げて作品やプロダクトを紹介していくこととなっている。



ミュージアムショップ

##### ■ 観覧環境の整備

- ・障害者トイレ(7箇所)、障害者エレベータ(4基)を整備
- ・貸出用車椅子13台を配置
- ・障害者用駐車場(3台分)を整備
- ・貸出用ベビーカー9台を配置
- ・地下1階に授乳室を開設
- ・各展示室に休憩室、椅子を設置
- ・講堂に磁気ループシステムを設置し、磁気ループ専用受信機を10台用意
- ・館内サインにユニバーサルピクトサインを採用
- ・ホワイエ等に設置している館内ディスプレイに展覧会や講演会などの情報を表示



授乳室



# 4

## 展覧会

### Exhibitions

---

#### 4-1 展覧会一覧

##### Exhibitions List

#### 4-2 展覧会記録

##### Exhibition Details

## 4-1 展覧会一覧 Exhibitions List

国立新美術館開館記念展 20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—  
Living in the Material World – ‘Things’ in Art of the 20th Century and Beyond

会期:平成19(2007)年1月21日(日)~3月19日(月)  
 日数:51日  
 入場者数:89,475人(1日平均1,754人)  
 入場:有料  
 種別:自主企画展

黒川紀章展 — 機械の時代から生命の時代へ  
KISHO KUROKAWA: From the Age of the Machine to the Age of Life

会期:平成19(2007)年1月21日(日)~3月19日(月)  
 日数:51日  
 入場者数:166,793人(1日平均3,270人)  
 入場:無料  
 種別:共催展

文化庁メディア芸術祭10周年企画展 日本の表現力  
The Power of Expression, JAPAN

会期:平成19(2007)年1月21日(日)~2月4日(日)  
 日数:14日  
 入場者数:52,093人(1日平均3,721人)  
 入場:無料  
 種別:共催展

エトランジェ  
異邦人たちのパリ 1900-2005 ポンピドー・センター所蔵作品展  
Paris du monde entier : Artistes étrangers à Paris 1900-2005.  
Exposition organisée par le Centre Pompidou

会期:平成19(2007)年2月7日(水)~5月7日(月)  
 日数:79日(うち18年度:46日)  
 入場者数:190,333人(3月31日まで)(1日平均4,138人)  
 入場:有料  
 種別:共催展



## 4-2 展覧会記録 Exhibition Details

### 国立新美術館開館記念展 20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語— Living in the Material World – ‘Things’ in Art of the 20th Century and Beyond

国立新美術館開館記念展として企画された本展は、20世紀から現代までを射程に入れ、工業化社会の成立にともなって身の回りに溢れ始めた「物」の世界と美術との関係を、ダイナミックに問う内容である。19世紀の産業革命に始まる工業製品の生産は、20世紀に入ると本格化し、都市を中心とする新しい生活環境が生まれた。さまざまな物にあふれた世界に身を置く経験は、前衛を自認する美術家たちを刺激し、美術の境界が積極的に拡大されていく契機となった。

展覧会は、歴史編とも言える第I部と第II部に、現代作家のグループ展という形をとる第III部を加えた構成である。ヨーロッパで長い伝統をもつ静物画を扱う第I部第1章では、表現された物の諸相という観点で、セザンヌやピカソが実現した革新的な表現から現代の作品に至るまでを検証した。続く第2章では、ミニマル・アートやもの派など、物を直接的に提示することにより、物の存在自体を人間世界から屹立させた作品群が展示された。第II部では、視点を変えて、人間の生活や社会と美術との関係を主題とした。20世紀前半を中心としたマシン・エイジに焦点を当てた第1章では、都市という新しい生活環境に相応しい美術、そしてデザインや工芸がユートピアの熱狂とともに探求されたことを検証し、続く第2章では、戦後の大量消費社会の成立を背景に、商品や広告のイメージを批判的に扱ったポップ・アートやコンセプチュアル・アートなどを取り上げた。最後を締めくくる第III部では、現代の物質文明の中での美術の位置やあり方に関心を抱く現代作家を6人集めて、グループ展の形で紹介した。

出品作品は、テーマの包括性を反映して630点にも及んだ。6,000m<sup>2</sup>の展示面積を有するこれまでにない規模の展覧会が実現したのは、国内外の多くの美術館やコレクションからの多大な協力によるものである。展覧会構成が示すとおり、物と美術の関係は多面的であり、今回のように質と量を揃えた展示によってこそ見えてくる諸相がある。また、20世紀を俯瞰する第I部と第II部に、今日の美術を紹介する第III部が続くことにより、デジタル化社会と言われる現代に生きる私たちの世界もまた、物の世界に結びついた歴史と地続きであることが再認識された。開館記念展ということで幅広い層の来館者が想定されたが、展覧会は作品の質、量、そして今日的な問題意識という点で、その期待に応えようと目論んだものであり、様々な地域の様々なジャンルの作品を体験できるまたとない機会となった。

This exhibition, which was organized to commemorate the opening of The National Art Center, Tokyo, dynamically questioned the relationship between art and the ‘things’ that began to flood into people’s everyday lives as industrialized society became established, covering the 20th century to the present day. The industrial production of goods, which began with the Industrial Revolution of the 19th century, gathered momentum in the 20th century and gave rise to a new living environment, particularly in urban areas. The experience of living surrounded by so many things stimulated artists who saw themselves as avant-garde and served as an opportunity to actively push the boundaries of art.

This exhibition consisted of three parts: The first and second might be described as the historical parts, while the third featured a group show of contemporary artists. The first chapter of the part 1 focused on still-life paintings, which have a long history in Europe. In terms of the various aspects of things that were expressed, the chapter illuminated a range of art, from the revolutionary renderings achieved by Cézanne and Picasso to contemporary works. The second chapter featured exhibits that make the very existence of things stand out from the human world by presenting the things directly, such as minimalist and the Japanese Mono-ha. Changing perspective, the second part dealt with the relationship between art and human lifestyle and society. The first chapter of this part focused on the machine age, in particular the early 20th century, exploring how art, design, and crafts suited to the new urban living environment were pursued in tandem with utopian fervor. The second chapter featured pop art, conceptual art, and other works that dealt critically with products and advertising images against the backdrop of the postwar mass-consumption society. The third and closing part was a group exhibition showcasing works by six contemporary artists who are interested in the status and function of art in today’s material culture.

Some 630 works were exhibited in a floor space of 6,000m<sup>2</sup>, reflecting the theme’s comprehensiveness. It was only possible to hold an exhibition on such an unprecedented scale thanks to the generous cooperation of numerous art museums and collections both in Japan and overseas. As the exhibition shows, the relationship between art and things is multifaceted, and some aspects only become visible through exhibitions of both quantity and quality, such as this one. By following the first two parts, which provided a sweeping view of the 20th century, with a third part introducing the art of today, the exhibition reaffirmed that the so-called digital society in which we live now is an extension of the historical links between the human and material worlds. Conceived to appeal to a wide range of visitors as the Center’s inaugural exhibition, the event more than lived up to expectations in the quality, quantity, and contemporary awareness of the works presented, becoming an unparalleled opportunity to experience various type of art works from diverse regions.

会期:平成19(2007)年1月21日(日)~3月19日(月)  
日数:51日  
会場:国立新美術館 展示室1A、1B、1C、1D、企画展示室1E  
入場者数:89,475人(1日平均1,754人)  
入場:有料  
主催:国立新美術館  
助成:オーストラリア・カウンシル  
協力:日本航空



講演会等:

●シムリン・ギルによるアーティスト・トーク

日時:1月21日(日)14時~15時

講演:シムリン・ギル(出品作家)

会場:国立新美術館 企画展示室1E

参加者数:80人

●マイケル・クレイグ=マーティンによるアーティスト・トーク

日時:1月21日(日)15時30分~17時

講演:マイケル・クレイグ=マーティン(出品作家)

会場:国立新美術館 講堂

参加者数:189人

●田中功起によるアーティスト・トーク

日時:3月18日(日)13時~14時

講演:田中功起(出品作家)

会場:国立新美術館 講堂

参加者数:41人

●高柳恵里によるアーティスト・トーク

日時:3月18日(日)15時~16時

講演:高柳恵里(出品作家)

会場:国立新美術館 講堂

参加者数:49人

●インターンによるギャラリートーク・シリーズ

2月22日(木) 13時30分~「素材でたどる戦後の美術」金子美環

15時30分~「日常と非日常のあいだ」豊田直香

3月1日(木) 13時30分~「アヴァンギャルドと民藝運動」嶋田華子

15時30分~「静物画から始まる旅」山下樹里

3月7日(水) 13時30分~「静物画から始まる旅」山下樹里

15時30分~「日常と非日常のあいだ」豊田直香

3月8日(木) 13時30分~「デュシャンから見る引用の美学」遠藤綾子

15時30分~「マテリアル・ワールドによろこそ」吉田朝子

3月14日(水) 13時30分~「デュシャンから見る引用の美学」遠藤綾子

15時30分~「アヴァンギャルドと民藝運動」嶋田華子

3月15日(木) 13時30分~「マテリアル・ワールドによろこそ」吉田朝子

15時30分~「素材でたどる戦後の美術」金子美環

会場:国立新美術館 展示室1A、1B、1C、1D、企画展示室1E

参加者数:249人(全12回)

カタログ:『国立新美術館開館記念展 20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—』

A4変型、400ページ、図版カラー745点・白黒106点、11,000部

ポスター:B1判、3,000部

B3判、12,500部

B3変型、1,100部

チラシ:A4判、140,000部

フロアガイド:A4判、二つ折、130,000部、英語版:5,000部

関連記事:

日本経済新聞/平成19(2007)年1月24日

読売新聞/2月1日/高野清見

朝日新聞/2月7日/田中三蔵

毎日新聞/2月22日/手塚さや香

芸術新潮 1月号/1月1日

大人のウォーカー 1月号/1月26日

Pen /3月15日/赤坂英人

東京カレンダー 3月号/3月1日

新日曜美術館(NHK教育)/1月28日

たけしの誰でもピカソ(テレビ東京)/3月16日

他 多数



1月21日 シムリン・ギルによるアーティスト・トーク



20世紀美術探検  
—アーティストたちの  
三つの冒険物語—

出品リスト

第1部 20世紀美術における物とその表現	東京国立近代美術館	静物—緑と茶 1965 油彩/板紙 55.0×68.0 東京国立近代美術館
第1章 物を描く—静物画の革命	I-1-11 恩地孝四郎 静物 Ⅱ (リンゴ赤) 1922頃 油彩/カンヴァス 45.5×37.9 東京都現代美術館	セクション2. オブジェの発見
セクション1. 静物の解体/再構築	I-1-1 ポール・セザンヌ ラム酒の瓶のある静物 1890頃 油彩/カンヴァス 54.2×65.7 ポーラ美術館 (ポーラ・コレクション)	I-1-22 ジョルジョ・デ・キリコ 少女の愉しみ 1915年後半 油彩/カンヴァス 47.5×40.3 ニューヨーク近代美術館
I-1-2 パブロ・ピカソ テーブル 1910 エッチング 20.0×14.2 京都国立近代美術館	I-1-12 岡本唐貴 静物 1923 油彩/カンヴァス 53.4×41.2 東京国立近代美術館	I-1-23 マン・レイ イジドル・デュカスの謎 1920/1971 アサンブラージュ 50.0×57.0×22.0 財団法人 セゾン現代美術館
I-1-3 パブロ・ピカソ 静物、瓶(マール瓶のある静物) 1911 ドライポイント 50.0×30.6(64.0×46.5) 国立西洋美術館	I-1-13 新海覚雄 抽象 1924 油彩/カンヴァス 37.0×65.0 広島県立美術館	I-1-24 マン・レイ 贈り物 1921/1963 アイロン、鉄 17.0×10.0×11.0 財団法人 セゾン現代美術館
I-1-4 中村彝 静物 1916 油彩/カンヴァス 42.0×52.0 茨城県近代美術館	I-1-14 永田一脩 静物 1925 油彩/カンヴァス 45.5×53.0 広島県立美術館	I-1-25 マン・レイ エマク・バキア 1926/1970 銀 46×14.5×14.0 財団法人 セゾン現代美術館
I-1-5 中村彝 カルピスの包み紙のある静物 1923 油彩/カンヴァス 60.7×50.2 茨城県近代美術館	I-1-15 ル・コルビュジエ 静物 1926 油彩/カンヴァス 100.0×81.0 大成建設株式会社	I-1-26 マン・レイ 我々すべてに欠けているもの 1927/1975 ガラス、陶製パイプ ボール:9.0×8.0、パイプ:4.5×17.0×2.7 財団法人 セゾン現代美術館
I-1-6 梅原龍三郎 静物 1916 油彩/カンヴァス 36.8×47.1 東京国立近代美術館	I-1-16 坂田一男 コンポジション 1926 油彩/カンヴァス 55.0×46.1 倉敷市立美術館	I-1-27 マン・レイ 標的 1933/1971 石膏、木 66.5×49.0×20.0 財団法人 セゾン現代美術館
I-1-7 萬鐵五郎 筆立のある静物 1917 油彩/カンヴァス 68.0×57.7 岩手県立美術館	I-1-17 里見勝蔵 石膏像のある静物 1927 油彩/カンヴァス 91.0×72.8 東京国立近代美術館	I-1-28 マン・レイ 解剖台の上のミシンと蝙蝠傘の偶然の出会いのように美しい 1935頃 ゼラチン・シルバー・プリント 20.2×27.9 横浜美術館 前期
I-1-8 ジョルジュ・ブラック テーブル(梨のある静物) 1918 油彩/カンヴァス(楕円) 65.5×79.3 吉野石膏株式会社(山形美術館 寄託)	I-1-18 川口軌外 静物(マンドリン) 1927-31 油彩/カンヴァス 116.6×81.5 東京国立近代美術館	I-1-29 マックス・エルンスト 「博物誌」より、案山子 1925 コロタイプ 25.8×43.0 国立国際美術館
I-1-9 ファン・グリス 果物皿と新聞 1918 油彩/カンヴァス 92.2×66.0 静岡県立美術館	I-1-19 今西中通 静物 1940 油彩/カンヴァス 60.0×72.7 東京国立近代美術館	I-1-20 安井曾太郎 桃 1950 油彩/カンヴァス 74.0×62.0 京都国立近代美術館
I-1-10 ファン・グリス 円卓 1921 油彩/カンヴァス 46.0×61.0	I-1-21 ベン・ニコルソン	I-1-30 マックス・エルンスト 「博物誌」より、葉の習性 1925 コロタイプ 43.1×26.0 国立国際美術館
		I-1-31 マックス・エルンスト

[凡例]  
リストは、以下の順番です。  
作品番号  
作家名  
作品名  
制作年  
技法/材質  
サイズ(単位:cm)  
所蔵  
展示期間  
前期:1月21日—2月19日  
後期:2月21日—3月19日

「博物誌」より、種痘されたパン 1925 コロタイプ 42.8×25.8 国立国際美術館	25.5×17.8 個人蔵	セクション3. 日常へのまなざしーリアリズムの諸相	I-1-62 エドワード・ウェストン ペッパー No.30 1930 ゼラチン・シルバー・プリント 23.6×18.7 東京都写真美術館
I-1-32 ヴァルター・ペーターハンス 受難日の食事 1929 ゼラチン・シルバー・プリント 14.3×22.0 大阪市立近代美術館建設準備室 前期	I-1-42 巖光 静物(雉) 1941 油彩/カンヴァス 198.0×101.0 東京都現代美術館	I-1-52 岸田劉生 静物(赤き林檎二個とビンと茶碗と湯呑) 1917 油彩/カンヴァス 33.7×45.8 ふくやま美術館	I-1-63 野島康三 慈姑の図 1927 プロムオイル・プリント 21.0×28.3 京都国立近代美術館
I-1-33 ヴァルター・ペーターハンス 死せる兎 1929頃/プリント1978 ゼラチン・シルバー・プリント 29.0×38.5 東京都写真美術館	I-1-43 寺田政明 野菜など 1943 油彩/カンヴァス 65.5×90.5 広島市現代美術館	I-1-53 キスリング 花束 1918 油彩/カンヴァス 81.0×60.5 メナード美術館	I-1-64 野島康三 仏手柑 1930 プロムオイル・プリント 17.2×27.5 京都国立近代美術館
I-1-34 吉原治良 海辺の静物 1931 油彩/カンヴァス 100.0×80.3 東京国立近代美術館	I-1-44 ジョゼフ・コーネル 無題(スープ・バブル・セット) 1947 ボックス・コンストラクション(木箱にコ ラージュ、グラス) 36.3×47.0×9.7 横浜美術館	I-1-54 速水御舟 秋茄子と黒茶碗 1921 絹本着色、額 28.0×25.0 京都国立近代美術館 前期	I-1-65 山本牧彦 赤絵の壺のある静物 1929 ゼラチン・シルバー・プリント 22.3×21.1 横浜美術館 小西庵子氏寄贈 前期
I-1-35 三岸好太郎 海と射光 1934 油彩/カンヴァス 72.8×60.5 名古屋市美術館	I-1-45 浜口陽三 壺ととうがらし 1955 カラーメゾチント 44.2×29.5 国立国際美術館	I-1-55 中川一政 静物 1921 油彩/カンヴァス 30.0×40.0	I-1-66 塩谷定好 静物 1929 ゼラチン・シルバー・プリント 25.3×23.6 東京都写真美術館
I-1-36 小牧源太郎 マユ 1935頃 油彩/板 15.8×22.7 京都国立近代美術館	I-1-46 浜口陽三 アスバラガス 1957 メゾチント 29.3×44.0 国立国際美術館	I-1-56 清宮彬 静物 1922 油彩/カンヴァス 41.0×52.0 東京都現代美術館	I-1-67 高山正隆 題不詳 制作年不詳 ゼラチン・シルバー・プリント 12.8×9.4 個人蔵
I-1-37 ヘルベルト・バイヤー 夜明け前 1936 ゼラチン・シルバー・プリント 24.3×34.0 東京国立近代美術館	I-1-47 浜口陽三 あざみ 1957 メゾチント 29.5×39.5(50.5×58.1) 国立国際美術館	I-1-57 小出楯重 蔬菜静物 1925 油彩/カンヴァス 60.8×73.5 東京国立近代美術館	I-1-68 須田国太郎 蔬菜 1932 油彩/カンヴァス 60.5×80.0 東京国立近代美術館
I-1-38 北脇昇 独活 1937 油彩/カンヴァス 117.0×74.0 東京国立近代美術館	I-1-48 浜口陽三 一つのさくらんぼ 1962 カラーメゾチント 34.3×29.4 国立国際美術館	I-1-58 アレクサンダー・カーノルト 静物 1925 油彩/カンヴァス 80.1×101.0 広島県立美術館	I-1-69 小糸源太郎 惜春賦 1932 油彩/カンヴァス 117.0×91.0 東京国立近代美術館
I-1-39 永田一脩 題不詳(石膏像) 1937頃 ゼラチン・シルバー・プリント 27.1×21.8 東京都写真美術館	I-1-49 長谷川潔 砂漠の薔薇と海の星 1964 メゾチント 26.4×35.6 京都国立近代美術館	I-1-59 伊藤草白 葡萄之図 1925 絹本着色、軸 41.9×51.4 和歌山県立近代美術館	I-1-70 アルベルト・レンガー=パッチェ メスリンダー、有栓リンダー 1932/プリント1978 ゼラチン・シルバー・プリント 25.1×18.8 東京国立近代美術館
I-1-40 今井憲一 造花と風車 1939 油彩/カンヴァス 60.3×90.8 京都国立近代美術館	I-1-50 長谷川潔 メキシコの鳩 静物画 1966 メゾチント 26.4×35.4 京都国立近代美術館	I-1-60 杉田勇次郎 蔬菜 1925頃 絹本着色、額 45.5×52.5 和歌山県立近代美術館 後期	I-1-71 アルベルト・レンガー=パッチェ ピーカー 1934/プリント1978 ゼラチン・シルバー・プリント 25.1×19.0 東京国立近代美術館
I-1-41 山本樺右 伽藍の鳥籠 1940 ゼラチン・シルバー・プリント	I-1-51 メレット・オッペンハイム レオ 1969 グラス、スポンジ、毛皮、金属棒 23.0×17.5×8.0 富山県立近代美術館	I-1-61 エドワード・ウェストン 貝 1927 ゼラチン・シルバー・プリント 23.5×18.6 京都国立近代美術館	I-1-72 アンセル・アダムズ

静物、サンフランシスコ、カリフォルニア 1932頃 ゼラチン・シルバー・プリント 49.0×37.6 京都国立近代美術館	1962 ミクストメディア 89.0×122.0 ソナベント・コレクション	鉢、植物、モーター 109.2×133.3×88.9 ロサンゼルス現代美術館、ラナン財団寄贈	綿 24.5×30.0×2.0 国立国際美術館
I-1-73 小林古徑 白菜図 1935頃 絹本着色、軸 56.1×68.4 財団法人 遠山記念館 前期	I-1-83 ロイ・リキテンスタイン 赤ワインのある静物 1972 油彩/カンヴァス 179.0×108.0 財団法人 セゾン現代美術館	I-1-90 福田美蘭 モノクロームで印刷された花の静物 1994 アクリリック/パネル、額 227.0×182.0 国立国際美術館	セクション2. 産業社会の形式 I-2-9 ドナルド・ジャッド 無題 1968 ステンレス、黄色のアクリル板 10ユニット:各15.5×68.5×61.0 広島市現代美術館
I-1-74 小林古徑 菓子 1940 絹本着色、額 56.5×72.0 横浜美術館	I-1-84 ロイ・リキテンスタイン 浅鉢のある静物 1972 油彩/カンヴァス 105.0×120.0 原美術館	I-1-91 岡崎和郎 静物 1996 セメント 19.0×22.2×14.8 国立国際美術館	I-2-10 ドナルド・ジャッド 無題 1977 ステンレス 4点組:各25.0×50.0×25.0 国立国際美術館
I-1-75 ジョージア・オキーフ タチアオイの白と緑―ペダーナル山の見える 1937 油彩/カンヴァス 40.6×76.2 東京国立近代美術館	I-1-85 パトリック・コールフィールド 食堂、台所、居間 1980 アクリリック/カンヴァス 180.0×180.0 栃木県立美術館	第2章 物の提示―物の美学 セクション1. 絵画の物質化	I-2-11 ダン・フレイヴィン 無題(親愛なるマーゴ) 1986 黄色とピンクの蛍光灯 244.0×41.0×20.5 国立国際美術館
I-1-76 国吉康雄 逆さのテーブルとマスク 1940 油彩/カンヴァス 152.4×89.5 福武コレクション	I-1-86 ドナルド・サルタン 4個のネクタリンと卵 1986 油彩、タール/ビニールタイル、メゾナイト 249.5×247.0 東京都現代美術館	I-2-1 ルーチョ・フォンタナ 空間概念 神の終焉 1964 油彩/カンヴァス 178.0×123.0 東京都現代美術館	I-2-12 カール・アンドレ 鉛と亜鉛のスクエア 1969 鉛、亜鉛 0.8×200.0×200.0 静岡県立美術館
I-1-77 坂本繁二郎 能面 1949 油彩/カンヴァス 45.5×53.2 メナード美術館	I-1-87-a ルイジ・ギッリ モランディのアトリエ 1989 タイプC・プリント 35.8×44.8 東京都写真美術館	I-2-2 ジャン・デュビュッフェ 植物の壁 1959 植物 150.0×200.0 個人蔵、ブリュッセル	I-2-13 福嶋敬泰 Blue Dots 1966/1989再制作 アルミニウム、ラッカー 133.0×330.0×111.0 国立国際美術館
I-1-78 坂本繁二郎 箱 1961 油彩/カンヴァス 36.5×44.2 泉屋博古館分館	I-1-87-b ルイジ・ギッリ モランディのアトリエ 1989 タイプC・プリント 35.8×44.8 東京都写真美術館	I-2-3 吉原治良 作品A 1955 白セメント/板 91.5×61.0 大阪市立近代美術館建設準備室	セクション3. もののふるまい
I-1-79 金山康喜 アイロンのある静物 1952 油彩/カンヴァス 80.5×100.0 東京国立近代美術館	I-1-87-c ルイジ・ギッリ モランディのアトリエ 1989 タイプC・プリント 35.8×44.8 東京都写真美術館	I-2-4 ジャクソン・ポロック ナンバー9 1950 エナメル、蜜蝋/帆布 91.4×132.0 財団法人 セゾン現代美術館	I-2-14 ロバート・モリス 無題 1972 フェルト 176.0×250.0 滋賀県立近代美術館
I-1-80 ジョルジョ・モランディ 静物 1953 油彩/カンヴァス 21.8×33.1 メナード美術館	I-1-87-d ルイジ・ギッリ モランディのアトリエ 1989 タイプC・プリント 35.8×44.8 東京都写真美術館	I-2-5 アルベルト・ブッリ 赤 プラスチック 1964 燃焼、プラスチック、カンヴァス 60.0×50.0 豊田市美術館	I-2-15 李禹煥 関係項―サイレンス 1979/2005 鉄、石 鉄板:280.0×210.0×1.2 神奈川県立近代美術館
I-1-81 ジョルジョ・モランディ 静物 1955-56 油彩/カンヴァス 37.5×35.0 シュプレングル美術館、ハノーファー	I-1-88 森村泰昌 批評とその愛人(1)~(7) 1989 カラー写真、額縁 各90.0×106.0 静岡県立美術館	I-2-6 イヴ・クライン 海綿レリーフ(RE) 1958 海綿、顔料、合成樹脂/板 80.0×200.0 財団法人 セゾン現代美術館	I-2-16 高松次郎 布の弛み 1969 帆布 360.0×360.0 静岡県立美術館
セクション4. 制度としての静物	I-1-89 チャールズ・レイ テーブルトップ 1989 木のテーブル、陶製の平皿、缶、プラスチック製のボウル、プラスチック製のタンブラー、アルミ製のシェーカー、テラコッタの植木	I-2-7 ピエロ・マンゾーニ 非色 1960 フェルト 35.0×25.0×4.0 国立国際美術館	I-2-17 高松次郎 大理石の単体 1971 大理石 60.0×50.0×18.0 国立国際美術館
I-1-82 トム・ウェッセルマン 静物 #45		I-2-8 ピエロ・マンゾーニ 非色 1961	I-2-18 ロバート・スミッソン コーナー・ピース(カユエガ岩塩坑プロジェクト) 1969

岩塩、鏡 121.9×121.9×121.9 東京都現代美術館	I-2-29 榎倉康二 予兆一鉛の塊・空間へ 1972 ゼラチン・シルバー・プリント 19.0×24.0 国立国際美術館	195.0×1132.0 東京国立近代美術館	京都国立近代美術館
I-2-19 ロバート・スミッソン グレー・ボア 1969 タイプC・プリント 12点組:各30.5×30.5 国立国際美術館	I-2-30 榎倉康二 P.W.-No.48 1972 ゼラチン・シルバー・プリント 18.1×24.1 国立国際美術館	セクション4. 自然と文化	I-2-50 ジュゼッペ・ペノーネ 8メートルの木 1969 木 792.8×20.0×10.0 東京国立近代美術館
I-2-20 リチャード・セラ 床に立つ横長の長方形 1981 ペイントスティック/アルミニウム 104.1×518.2 滋賀県立近代美術館	I-2-31 榎倉康二 予兆一床・水(P.W.-No.50) 1974/プリント1994 ゼラチン・シルバー・プリント 24.2×23.5 東京国立近代美術館	I-2-40 ジョヴァンニ・アンセルモ 無題(食べる構造) 1968 花崗岩、サラダ菜、銅線、のこくず 65.0×30.0×30.0 ソナベント・コレクション	I-2-51 戸谷成雄 森 1988-91 木、灰、アクリリック 213.0×490.0×30.0 いわき市立美術館
I-2-21 関根伸夫 位相一スポンジ 1968/1988再制作 鉄、スポンジ 144×119.8×119.8 広島市現代美術館	I-2-32 榎倉康二 予兆一床・手(P.W.-No.51) 1974 ゼラチン・シルバー・プリント 20.6×19.0 国立国際美術館	I-2-41 ヤニス・クネリス 無題 1986 麻袋、鉛、鉄 200.0×542.0 豊田市美術館	I-2-52 遠藤利克 無題 1989 木、水、タール、鉄、土 35.0×330.0×330.0 いわき市立美術館
I-2-22 榎倉康二 P.W.-No.23 1972/プリント1994 ゼラチン・シルバー・プリント 19.3×28.9 東京国立近代美術館	I-2-33 榎倉康二 予兆一ビン・水(P.W.-No.52) 1974 ゼラチン・シルバー・プリント 16.3×24.5 国立国際美術館	I-2-42 ジルベルト・ゾリオ いす 1966 金属パイプ、色のついたウレタンフォーム、セメント 215.0×126.0×81.0 東京都現代美術館	第II部 20世紀美術における物と人間の生活  第1章 物の流入とアヴァンギャルドの出現 ー20世紀前半の美術
I-2-23 榎倉康二 P.W.-No.25 1972/プリント1994 ゼラチン・シルバー・プリント 19.0×28.9 東京国立近代美術館	I-2-34 榎倉康二 P.W.-No.55 1974 ゼラチン・シルバー・プリント 19.1×18.9 国立国際美術館	I-2-43 小清水漸 表面から表面へ 1971/2004再制作 米松 30点:各12.5×12.5×400.0 作家蔵 協力:東京画廊	セクション0. イントロダクションーデュシャン とシュヴィッターズ
I-2-24 榎倉康二 P.W.-No.32 1972/プリント1994 ゼラチン・シルバー・プリント 24.9×23.5 東京国立近代美術館	I-2-35 榎倉康二 P.W.-No.58 1974/プリント1994 ゼラチン・シルバー・プリント 19.1×28.2 東京国立近代美術館	I-2-44 ロータ・バウムガルテン 顔料の堆積 1968 タイプC・プリント(エクタカラー) 64.8×82.6 京都国立近代美術館	II-1-1 マルセル・デュシャン 自転車の車輪 1913/シュヴァルツ版1964 木製椅子、自転車の車輪 h.126.5 京都国立近代美術館
I-2-25 榎倉康二 P.W.-No.35 1972/プリント1994 ゼラチン・シルバー・プリント 24.3×23.8 東京国立近代美術館	I-2-36 菅木志雄 界延曲地 1980 トタン板 80.2×183.2×0.9 東京国立近代美術館	I-2-45 ロータ・バウムガルテン 蟻の社会 1968 タイプC・プリント(エクタカラー) 64.8×82.6 京都国立近代美術館	II-1-2 マルセル・デュシャン 三つの停止原器 1913-14/シュヴァルツ版1964 アサンブラージュ:木箱、糸、カンヴァス、ガラス、薄板 28.0×129.2×23.0 京都国立近代美術館
I-2-26 榎倉康二 予兆一海・肉片(P.W.-No.40) 1972 ゼラチン・シルバー・プリント 16.1×24.5 国立国際美術館	I-2-37 菅木志雄 緑立側体 1990 アルミニウム、石(白河石)、オイルペイント 145.0×575.0×138.0 作家蔵 協力:白石コンテンポラリーアート	I-2-46 ロータ・バウムガルテン 交差した影の闇 1968 タイプC・プリント(エクタカラー) 64.8×82.6 京都国立近代美術館	II-1-3 マルセル・デュシャン 瓶乾燥器 1914/シュヴァルツ版1964 レディメイド:瓶乾燥器 h.64.2 京都国立近代美術館
I-2-27 榎倉康二 予兆一鉛の塊・空間へ1(P.W.-No.41) 1972/プリント1994 ゼラチン・シルバー・プリント 19.1×28.6 東京国立近代美術館	I-2-38 マイケル・ハイザー いけにえ(揺器) 1988 コンクリート 45.7×216.0×118.0	I-2-47 ロータ・バウムガルテン 豹は決して斑点を失わない 1970 タイプC・プリント(エクタカラー) 64.8×82.6 京都国立近代美術館	II-1-4 マルセル・デュシャン 折れた腕の前に 1915/シュヴァルツ版1964 レディメイド:雪掻きシャベル h.132.0 京都国立近代美術館
I-2-28 榎倉康二 P.W.-No.42 1972/プリント1994 ゼラチン・シルバー・プリント 23.7×28.8 東京国立近代美術館	I-2-39 リチャード・ロング 東京の石の線 1983 石	I-2-48 ロータ・バウムガルテン アスクレーピオス 1971 タイプC・プリント(エクタカラー) 64.8×82.6 京都国立近代美術館	II-1-5 マルセル・デュシャン 秘めた音で 1916/シュヴァルツ版1964 幫助されたレディメイド:真鍮板、巻糸、ねじ、不明のオブジェ 12.9×13.0×11.4 京都国立近代美術館
		I-2-49 ロータ・バウムガルテン 文化ー自然 1971 タイプC・プリント(エクタカラー) 64.8×82.6	II-1-6 マルセル・デュシャン 櫛 1916/シュヴァルツ版1964 レディメイド:櫛 3.0×16.6×0.3 京都国立近代美術館

II-1-7 マルセル・デュシャン 旅行者用折りたたみ品 1917/シュヴァルツ版1964 レディメイド:アンダーウッド・タイプライターのカバー h.23.0 京都国立近代美術館	II-1-17 クルト・シュヴィッターズ メルツ305、ロボジツ 1921 コラージュ/紙 18.0×14.0 愛知県美術館	京都国立近代美術館	コラージュ 63 古い絵 1946 コラージュ /紙 36.8×30.9 クルト & エルンスト・シュヴィッターズ財団、ハノーファー
II-1-8 マルセル・デュシャン 泉 1917/シュヴァルツ版1964 レディメイド:小便器 36.0×48.0×61.0 京都国立近代美術館	II-1-18 クルト・シュヴィッターズ メルツ317、レノックス 1921 コラージュ/紙 18.0×14.5 クルト & エルンスト・シュヴィッターズ財団、ハノーファー	II-1-28 クルト・シュヴィッターズ 無題(美味な) 1929-30 コラージュ/紙 13.8×11.0 シュプレングエル美術館、ハノーファー、ロバート・ミッCHEル・エステート	II-1-37 クルト・シュヴィッターズ 無題(E.+E.シュヴィッターズより) 1947 コラージュ:油彩、布、紙/紙 33.3×27.5 東京国立近代美術館 前期
II-1-9 マルセル・デュシャン 帽子掛け 1917/シュヴァルツ版1964 レディメイド:帽子掛け 23.0×44.0×33.0 京都国立近代美術館	II-1-19 クルト・シュヴィッターズ メルツ394、ピナコテーク 1922 コラージュ/紙 17.9×14.3 広島県立美術館	II-1-29 クルト・シュヴィッターズ 無題(エーファ・シュテター) 1937-38 コラージュ:紙、銀紙/紙 24.7×19.4 クルト & エルンスト・シュヴィッターズ財団、ハノーファー	II-1-38 クルト・シュヴィッターズ 無題(フェルトの形のある) 1947 コラージュ:フェルト、紙/紙 13.3×10.7 クルト & エルンスト・シュヴィッターズ財団、ハノーファー
II-1-10 マルセル・デュシャン 罎 1917/シュヴァルツ版1964 レディメイド:コート掛け 11.6×100.1×19.0 京都国立近代美術館	II-1-20 クルト・シュヴィッターズ 無題(青、グレー、黄) / (柔らかな) 1923 コラージュ/紙 15.9×12.3 クルト & エルンスト・シュヴィッターズ財団、ハノーファー	II-1-30 クルト・シュヴィッターズ 屋上の幻想 1939 レリーフ:油彩、木、厚紙、金属/板 34.8×27.0 クルト & エルンスト・シュヴィッターズ財団、ハノーファー	II-1-39 クルト・シュヴィッターズ ノルウェーの旗 1947 コラージュ /紙 20.7×17.4 広島市現代美術館
II-1-11 マルセル・デュシャン パリの空気 1919/シュヴァルツ版1964 レディメイド:アンブル 14.5×8.5×8.5 京都国立近代美術館	II-1-21 クルト・シュヴィッターズ 無題(エリーテ) 1923-24 コラージュ:紙、土/厚紙 13.2×10.3 クルト & エルンスト・シュヴィッターズ財団、ハノーファー	II-1-31 クルト・シュヴィッターズ 無題(羊毛玉のある絵画) 1942-45 アサンブラージュ:油彩、板、毛糸玉/カンヴァス 61.7×50.3 京都国立近代美術館	II-1-40 クルト・シュヴィッターズ エレガント 1947 コラージュ /厚紙 16.9×13.9 クルト & エルンスト・シュヴィッターズ財団、ハノーファー
II-1-12 マルセル・デュシャン なりたての未亡人 1920/シュヴァルツ版1964 ミニチュアのフランス窓 77.5×53.3(台座含む)×10.2 京都国立近代美術館	II-1-22 クルト・シュヴィッターズ 彫刻[無題(垂直)、鑄造] 1923/鑄造1983 ブロンズ(彩色) 51.0×12.8×14.0 クルト & エルンスト・シュヴィッターズ財団、ハノーファー	II-1-32 クルト・シュヴィッターズ 無題(安らぎのひとつ) 1942 コラージュ /厚紙 23.8×17.8 京都国立近代美術館	II-1-41 クルト・シュヴィッターズ著『アンナ・ブルーメに寄せて』(初版) 1919 書籍 19.0×13.0 京都国立近代美術館
II-1-13 マルセル・デュシャン ローズ・セラヴィよ、なぜくしゃみをしない 1921/シュヴァルツ版1964 補助されたレディメイド:鳥籠、大理石のキューブ、体温計、イカの甲 13.5×24.0×18.7 京都国立近代美術館	II-1-23 クルト・シュヴィッターズ gc 1924 コラージュ/紙 17.0×10.9 滋賀県立近代美術館	II-1-33 クルト・シュヴィッターズ 小犬 1943-44/鑄造1981 ブロンズ 45.0×20.0×18.0 広島市現代美術館	II-1-42 クルト・シュヴィッターズ 『カテドラル、クルト・シュヴィッターズの8枚のリトグラフ』(ジルバーゴイレ第41/42巻) 1920 冊子 22.4×14.4 京都国立近代美術館
II-1-14 マルセル・デュシャン、アンリ=ピエール・ロシエ、ウォルター・アレンズバーグ、ベアトリス・ウッド編集『ザ・ブラインドマン』No.2 1917 雑誌 27.6×20.3 京都国立近代美術館	II-1-24 クルト・シュヴィッターズ イヌサフラン 1926-29/鑄造1984 洋銀 80.5×29.7×35.5 クルト & エルンスト・シュヴィッターズ財団、ハノーファー	II-1-34 クルト・シュヴィッターズ 無題(多くの部分のある小さなメルツ絵画) 1945-46 アサンブラージュ:油彩、パテ、石、陶、ガラス、金属、貝殻、チューブ、厚紙、ペークライト、木/板、釘打ち 32.3×25.9 クルト & エルンスト・シュヴィッターズ財団、ハノーファー	II-1-43 クルト・シュヴィッターズ テオ・ファン・ドゥースブルフ ダダゾフィー 1923 リトグラフ 30.2×30.0 京都国立近代美術館
II-1-15 クルト・シュヴィッターズ メルツ52、美容 1920 コラージュ/紙 13.2×9.7 愛知県美術館	II-1-25 クルト・シュヴィッターズ 無題(ハノーファーとヒルデスハイム) 1928 コラージュ:厚紙、リボン、糸/紙 11.7×9.1 クルト & エルンスト・シュヴィッターズ財団、ハノーファー	II-1-35 クルト・シュヴィッターズ 無題(立体“O”のあるレリーフ) 1944-46 レリーフ:油彩、木/板 28.8×21.8 東京国立近代美術館 前期	II-1-44 クルト・シュヴィッターズ編集『メルツ』1号 オランダ・ダダ 1923 雑誌 22.2×14.0 武蔵野美術大学美術資料図書館
II-1-16 クルト・シュヴィッターズ 無題(二重に堅牢な) 1920 アイ・ドローイング:切り取られたミスプリント 12.6×16.3 クルト & エルンスト・シュヴィッターズ財団、ハノーファー	II-1-26 クルト・シュヴィッターズ 無題(赤に赤) 1928-30 コラージュ/紙 20.0×15.5	II-1-36 クルト・シュヴィッターズ	II-1-45 エル・リシツキー、クルト・シュヴィッターズ編集『メルツ』8/9号 ナスキ 1924 雑誌、タイポグラフィ:エル・リシツキー 30.8×23.5 武蔵野美術大学美術資料図書館

I-1-46 メルツ編集『メルツ』11号 タイポ広告[ペリカン号] 1924 雑誌 30.0×22.2 京都国立近代美術館	II-1-56 マン・レイ 視覚的な希望と幻影 1944/1964 バンジョー、拡大鏡、ひも 71.0×24.5×18.0 財団法人 セゾン現代美術館	II-1-67 『マヴォ』5号 1925 雑誌、表紙デザイン：岡田龍夫 30.8×22.5 東京都現代美術館 美術図書室	空間構成 No.9 円の中の円 1920-21/再構成1991 桃の木の合板 90.0×80.0×85.0 ギャラリー・グムジンスカ
セクション1. 素材へのまなざし	II-1-57 ジョアン・ミロ 絵画とコラージュ 1936 鉛筆、油彩、コラージュ/合板 62.0×43.0 財団法人 セゾン現代美術館	II-1-68 『マヴォ』7号 1925 雑誌、表紙デザイン：岡田龍夫 30.1×22.8 東京都現代美術館 美術図書室	II-1-78 ウラジーミル・ステンベルク 空間構成 KPS 42 IV 1919/再構成1973 アルミニウム 264.0×70.0×130.0 ギャラリー・グムジンスカ
II-1-47 ハンス(ジャン)・アルプ 森 1917頃 木、彩色 33.3×20.3×8.0 愛知県美術館	II-1-58 桂ゆき 作品 1936 コラージュ：コルク/板 53.0×45.0 個人蔵(山口県立美術館 寄託)	セクション2. 構成と機械	II-1-79 エル・リシツキー 赤き楔で白を撃て 1920 リトグラフ 50.0×61.0 宇都宮美術館
II-1-48 普門暁 トルソ試作 1918 石、木 h.25.5 奈良県立美術館	II-1-59 長谷川三郎 形態 1937 コラージュ：雲形定規 39.0×50.0 学校法人 甲南学園	II-1-69 ジャコモ・バッラ 動線・空間 1912 鉛筆/紙 11.5×27.0 ふくやま美術館 後期	II-1-80 エル・リシツキー ブロンズ：第1ケストナー版画集 1923 リトグラフ(6枚組版画集) 各60.5×43.5 広島県立美術館
II-1-49 普門暁 化粧 1918 鉄 h.30.5 奈良県立美術館	II-1-60 長谷川三郎 新物理学B 1937 コラージュ：毛糸、ガラス 37.5×45.3 学校法人 甲南学園	II-1-70 ジャコモ・バッラ 空中飛行 1915 水彩/紙 12.5×14.5 ふくやま美術館 前期	II-1-81 村山知義 サディスティッシュな空間 1921-22 油彩/カンヴァス 92.5×72.3 京都国立近代美術館
II-1-50 マックス・エルンスト 白鳥はとてもおだやか 1920 コラージュ/紙 8.3×12.0 横浜美術館	II-1-61 『キャバレー・ヴォルテール』 1916 雑誌、表紙デザイン：ハンス(ジャン)・アルプ 26.8×22.2 京都国立近代美術館	II-1-71 ジャコモ・バッラ 輪を持つ女の子 1915 油彩/カンヴァス 51.0×60.5 ふくやま美術館	II-1-82 村山知義 コンストルクチオン 1925 油彩、紙、木、布、金属、皮 84.0×112.5 東京国立近代美術館
II-1-51 マックス・エルンスト 怒れる人々 1927 油彩/カンヴァス 100.5×81.0 京都国立近代美術館	II-1-62 『ダダ』2号 1917 雑誌 22.7×19.2 京都国立近代美術館	II-1-72 ジャコモ・バッラ 未来派の花“A” 1925/再構成1960 木、彩色 58.0×21.0×21.0 ふくやま美術館	II-1-83 ラースロー・モホイ=ナジ 構成：第6ケストナー版画集 1923 リトグラフ(6枚組版画集) 各60.5×44.5 宇都宮美術館 前期(3点)／後期(3点)
II-1-52 村山知義 あるユダヤ人の少女像 1922 コラージュ：油彩、紙、木 40.0×27.0 東京国立近代美術館 前期	II-1-63 『マヴォ』1号 1924 雑誌、表紙デザイン：村山知義 31.1×23.0 東京都現代美術館 美術図書室	II-1-73 ジャコモ・バッラ 未来派の花“F” 1925/再構成1960 木、彩色 32.0×31.0×31.0 ふくやま美術館	II-1-84 ラースロー・モホイ=ナジ スペース・モデューレーター スピッグ I 1942 油彩/アクリル板 アクリル板サイズ：60.8×45.2、全体サイズ： 81.4×66.0 宇都宮美術館
II-1-53 ハンナ・ヘーヒ メルツビルト 1923 コラージュ/紙 11.1×10.6 町田市立国際版画美術館	II-1-64 『マヴォ』2号 1924 雑誌、表紙デザイン：木版：村山知義 31.1×23.0 東京都現代美術館 美術図書室	II-1-74 ウラジーミル・タトリン レリーフ 1914/再構成1979-81 木、曇りガラス、ブリキ缶、金属、油彩、他 100.0×34.0×15.0 個人蔵	II-1-85 住谷磐根 作品 1924 油彩/カンヴァス 80.4×65.2 東京国立近代美術館
II-1-54 ベン・ニコルソン 1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ) 1933 油彩、鉛筆、プリント柄の布と紙のコラージュ/カンヴァス 50.8×76.3 愛知県美術館	II-1-65 『マヴォ』3号 1924 雑誌、表紙デザイン：村山知義、コラージュ： 高見澤路直(ラシャメンの像) 31.1×23.0 個人蔵	II-1-75 ウラジーミル・タトリン コーナー・反レリーフ 1915/再構成1980-81 鉄、木、ワイヤー、滑車、他 225.0×232.0×82.0 株式会社まつもと	II-1-86 坂田一男 コンポジション 1926 油彩/カンヴァス 80.5×60.5 倉敷市立美術館
II-1-55 マン・レイ 糊の時代 1935/1970 木、写真 61.0×41.0×6.0 財団法人 セゾン現代美術館	II-1-66 『マヴォ』4号 1924 雑誌、表紙デザイン：村山知義、リノカット： 戸田達雄(予言) 31.1×23.0 東京都現代美術館 美術図書室	II-1-76 アレクサンドル・ロトチェンコ 非具象彫刻 1918/再構成1994 木、金属 51.5×27.0×26.5 横浜美術館	II-1-87 不詳 映画ポスター「凍てつく運命」 1929
		II-1-77 アレクサンドル・ロトチェンコ	

リトグラフ 47.0×61.5 東京国立近代美術館フィルムセンター 後期	真鍮 29.2×16.8×12.2 個人蔵	東京国立近代美術館	1914 油彩、コラージュ/カンヴァス 58.0×46.0 ふくやま美術館
II-1-88 ヤコフ・ルクレフスキー 映画ポスター「ギガント(巨人)」 1930 リトグラフ 106.0×72.0 東京国立近代美術館フィルムセンター 前期	II-1-98 内藤春治 あかりのある噴水塔 1928 ブロンズ h.100.3, φ50.0 岩手県立美術館	II-1-108 ラルフ・スタイナー 電話交換機のスイッチ 1929頃/プリント1978 ゼラチン・シルバー・プリント 19.5×24.5 東京国立近代美術館	II-1-119 レイモン・デュシャン＝ヴィヨン 馬の頭 1914 鉛 42.0×38.0×50.0 富山県立近代美術館
II-1-89 グスタフ・クルツィス プロバガンダ・ポスター「偉大なる労働計画 を遂行しよう」 1930 リトグラフ 119.6×84.0 東京国立近代美術館フィルムセンター	II-1-99 杉田木堂 用途を指示せぬ美の創案(原始期、過渡期、完 成期) 1930 鍛造、鋳造 原始期:28.7×12.1×10.6、過渡期:14.5× 27.3×9.1、完成期:13.8×27.3×9.1 東京国立近代美術館工芸館	II-1-109 安井仲治 車輪(2)〈仮題〉 1932-39 ゼラチン・シルバー・プリント 20.3×19.0 個人蔵	II-1-120 ジョルジョ・デ・キリコ 吟遊詩人 油彩/カンヴァス 62.4×49.8 石橋財団ブリヂストン美術館
II-1-90 高井貞二 機械 1931頃 油彩/カンヴァス 52.9×45.5 和歌山県立近代美術館	II-1-100 豊田勝秋 鋳鋼広間用花さし 1933 青銅、鋳造 45.2×29.0×29.0 東京国立近代美術館工芸館	II-1-110 安井仲治 スピード 1933-37 ゼラチン・シルバー・プリント 26.6×40.8 個人蔵	II-1-121 ラウール・ハウスマン マックス・ルエスト博士 1919 コラージュ 26.5×21.0 大阪市立近代美術館建設準備室 後期
II-1-91 前田藤四郎 時計 1932 木版、亜鉛凸版 26.4×34.0 東京都現代美術館	II-1-101 ポール・ストランド ニューヨーク 1916 フォトグラヴィア 13.1×16.1 東京都写真美術館	II-1-111 ウォーカー・エヴァンズ シカゴ、1943年7月2日 1943 ゼラチン・シルバー・プリント 17.0×12.0 京都国立近代美術館	II-1-122 マックス・エルンスト 流行に栄えあれ、芸術よ墮ちろ 1919 リトグラフ(8枚組版画集) 各45.5×33.0 広島県立美術館
II-1-92 フリードリヒ・フォルデンベルゲ=ギルデ ヴァルト コンポジション No.77 1933 木片、油彩/カンヴァス 35.0×35.0 横浜美術館	II-1-102 ブレット・ウェストン 機関車のドライブシャフト、カリフォルニア 1927 ゼラチン・シルバー・プリント 26.2×34.6 東京国立近代美術館	II-1-112 村山知義著「現在の芸術と未来の芸術 意織 的構成主義への道程」 1924 書籍 19.8×13.8 東京都現代美術館 美術図書室	II-1-123 ヴィクトル・バリモフ 踊る女 1920 油彩/カンヴァス 50.0×49.5 東京都現代美術館
II-1-93 アレクサンダー・コールドー ヴァーティカル・ホワイト・フレーム 1936 ミクストメディア h.265.4 広島県立美術館	II-1-103 ブレット・ウェストン ダグラス三発式飛行機 1935 ゼラチン・シルバー・プリント 27.2×34.8 東京国立近代美術館	II-1-113 村山知義著「構成派研究」 1926 書籍 19.0×14.0 東京都現代美術館 美術図書室	II-1-124 アンリ・ローランス イヤリングをつけた女の顔 1921 テラコッタ h.36.9 広島県立美術館
II-1-94 セザール・ドメラ 浮彫No.13 A 1936 金属、アクリル板、プラスチック、ガラス/板 104.2×76.1×4.0 大阪市立近代美術館建設準備室	II-1-104 ヴェルナー・マンツ ティーツ、オーバーハウゼン 1929 ゼラチン・シルバー・プリント 22.6×17.1 東京都写真美術館	II-1-114 板垣鷹穂著「機械と芸術との交流」 1929 書籍 19.8×15.5×1.6 東京国立近代美術館フィルムセンター ライ ブラリー	II-1-125 ヴィリ・パウマイスター 楕円を伴った形 1920 油彩、砂/カンヴァス 65.3×50.1 ニューヨーク近代美術館
II-1-95 齋藤義重 カラカラ 1936/再制作1973 ラッカー、ナイロン、木 90.0×78.0 横浜美術館	II-1-105 アレクサンドル・ロトチェンコ 警備兵、シュコフ・タワー 1929/プリント1994 ゼラチン・シルバー・プリント 24.3×16.7 東京国立近代美術館	II-1-115 神原泰著「未来派研究」 1925 書籍 19.2×13.4 島田安彦コレクション	II-1-126 マルセル・デュシャン コーヒー罍き 1921/1947 エッチング 18.0×8.0(25.5×20.3) 富山県立近代美術館
II-1-96 アントワーヌ・ペヴスナー フェニックス 1957 ブロンズ 98.5×30.5×23.0 富山県立近代美術館	II-1-106 アレクサンドル・ロトチェンコ 階段 1929/プリント1994 ゼラチン・シルバー・プリント 16.4×22.7 東京国立近代美術館	II-1-116 堀野正雄著「カメラ・眼×鉄・構成 1930-1931」 1932 書籍 26.5×19.3 東京都現代美術館 美術図書室	II-1-127 マルセル・デュシャン & ジャック・ヴィヨン 花嫁:マルセル・デュシャン〈花嫁〉(1912)に よる 1934 アクアチント(多色刷) 50.3×31.5(65.0×50.0) 富山県立近代美術館
II-1-97 高村豊周 挿花のための構成 1926	II-1-107 アレクサンドル・ロトチェンコ 歯車 1929/プリント1994 ゼラチン・シルバー・プリント 14.2×22.3	II-1-117 ウンベルト・ボッチョーニ 空間における連続性に特有な諸形態 1913 ブロンズ 116.5×86.5×40.0 高倉堂青葉台	II-1-128 マルセル・デュシャン 「花嫁は彼女の独身者たちによって裸にされ て、さえも」〈グリーンボックス〉(普及版) 1934 布貼りの箱に収められた、デュシャンの手

稿、ドローイングの複製 33.2×28.0×2.5 富山県立近代美術館	II-1-139 岡本唐貴 制作 1924 油彩/カンヴァス 106.7×72.3 東京国立近代美術館	雑誌 47.8×31.8 京都国立近代美術館	86.8×65.9×82.0 宇都宮美術館
II-1-129 マルセル・デュシャン ロトレリーフ 1935/1965 紙ディスク6枚、ターンテーブル ディスク:φ20.0、ターンテーブル:37.5× 37.5×10.5 国立国際美術館	II-1-140 仲田定之助 首 1924 白銅 40.5×20.0×21.5 東京国立近代美術館	II-1-150 『291』No.4 1915 雑誌 46.5×31.8 京都国立近代美術館	II-1-161 マルセル・ブロイヤー 肘掛け椅子 1922 カシ、馬毛 95.3×56×57.8 大阪市立近代美術館建設準備室
II-1-130 オスカー・シュレンマー 人物案 K1 1921 黄色の紙、リトグラフ 39.7×19.5(48.8×31.3) 宮城県美術館	II-1-141 浅野孟府 裸婦 1925 テラコッタ 19.5×18.0×12.5 宇都宮美術館	II-1-151 『291』No.5/6 1915 雑誌 43.8×28.8 京都国立近代美術館	II-1-162 マルセル・ブロイヤー ラウンジチェア B3「ワシリー」 1925-26 スチールパイプ(クロームメッキ)、布 74.3×76.7×68.0 宇都宮美術館
II-1-131 オスカー・シュレンマー 人物 H2 1921 ピンクの紙、リトグラフ 36.2×24.0(49.8×34.2) 宮城県美術館	II-1-142 ハンナ・ヘーヒ マイスター 1925 コラージュ 15.5×11.5 大阪市立近代美術館建設準備室 前期	II-1-152 『291』No.9 1915 雑誌 48.0×31.5 京都国立近代美術館	II-1-163 マルセル・ブロイヤー サイドチェア B6 1925-26 スチールパイプ(クロームメッキ)、木 88.0×42.0×45.0 宇都宮美術館
II-1-132 フランシス・ピカビア 糸巻き 1921-22 鉛筆、グワッシュ /紙 76.5×56.9 愛知県美術館	II-1-143 坂田一男 キュビズムの人物像 I 1925 油彩/カンヴァス 92.0×65.0 岡山県立美術館	II-1-153 『291』No.10/11 1915-16 雑誌 48.1×31.8 京都国立近代美術館	II-1-164 マルセル・ブロイヤー ネストテーブル B9-B9c 1925-26 スチールパイプ(クロームメッキ)、木 ピース1:45.1×45.3×39.1、ピース2:50.5 ×52.2×39.1、ピース3:55.4×58.8×39.1、 ピース4:60.1×66.6×39.1 宇都宮美術館
II-1-133 東郷青児 帽子をかむった男(歩く女) 1922 油彩/カンヴァス 61.0×49.7 名古屋市美術館	II-1-144 中原實 乾坤 1925 油彩/カンヴァス 196.0×200.0 個人蔵(東京都現代美術館 寄託)	II-1-154 『391』No.6 1917 雑誌 37.2×26.7 京都国立近代美術館	II-1-165 マルセル・ブロイヤー ラウンジチェア B25「ジツツマシーネ(座る ための機械)」 1928-29 スチールパイプ(クロームメッキ)、木、籐 102.5×64.4×85.0 宇都宮美術館
II-1-134 和達知男 謎 1922頃 水彩、コラージュ /紙 29.7×26.0 神奈川県立近代美術館	II-1-145 ワルワラー・ブブノワ 自画像 1925 石版印刷(網目版併用) 45.0×35.0(61.8×45.8) 特種製紙株式会社	II-1-155 『391』No.8 1919 雑誌 44.7×28.5 京都国立近代美術館	II-1-166 マルセル・ブロイヤー デスク B91 1930頃 スチールパイプ(クロームメッキ)、木 75.1×119.5×54.0 宇都宮美術館
II-1-135 柳瀬正夢 MV 1923 油彩/板 53.0×45.7 武蔵野美術大学美術資料図書館	II-1-146 陽成二 支那人の血廻し 1928 ブロンズ 20.5×20.5×9.0 個人蔵	II-1-156 『391』No.14 1920 雑誌 49.0×32.5 京都国立近代美術館	II-1-167 ルードヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ サイド・チェア モデルMR10 1927 スチールパイプ、牛革 79.0×47.0×72.0 宇都宮美術館
II-1-136 矢部友衛 裸婦 1923-24 油彩/カンヴァス 99.0×71.0 早稲田大学會津八一記念博物館	II-1-147 松原重三 48号工場 1934 ゼラチン・シルバー・プリント 27.0×23.1 個人蔵	II-1-157 『ダダ』6号(Bulletin Dada) 1920 雑誌 38.0×27.8 京都国立近代美術館	II-1-168 ルードヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ バルセロナ・チェア 1929 スチールパイプ、クローム鍍金、皮 椅子:76.0×75.0×78.0 ミサワホーム株式会社
II-1-137 マン・レイ 永遠のモチーフ(不滅のオブジェ) 1923/1970 メトロノーム、写真 22.0×11.0×11.0 財団法人 セゾン現代美術館	II-1-148 ナウム・ガボ 構成された頭部 No.2 1966 着色されたコールテン銅 178.0×121.9×121.9 兵庫県立美術館	II-1-158 オスカー・シュレンマー編 バウハウス叢書 第4巻「バウハウスの舞台」 1925 書籍、表紙デザイン:オスカー・シュレンマー、 タイポグラフィ:ラースロー・モホイ=ナジ 23.0×18.0 川崎市市民ミュージアム	II-1-169 ルードヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ サイド・テーブル モデルMR515 1931-32 鉄パイプ、クロームメッキ、ガラス、革 h.60.7, φ69.9 宇都宮美術館
II-1-138 河辺昌久 メカニズム 1924 油彩、コラージュ /カンヴァス 65.7×53.4 板橋区立美術館	II-1-149 『291』No.2 1915	II-1-159 クルト・トゥホルスキー著『ドイツ、世界に 冠たるドイツ』 1929 書籍、ジョン・ハートフィールド装丁 23.2×18.6 京都国立近代美術館	II-1-170 ル・コルビュジエ、ピエール・ジャンヌレ、 シャルロット・ペリアン アームチェアLC1「スリングチェア」 1928 スチールパイプ(クロームメッキ)、布、金
	II-1-150 『291』No.5/6 1915 雑誌 43.8×28.8 京都国立近代美術館	II-1-160 ヘリット・トーマス・リートフェルト アームチェア「赤と青の椅子」 1935/オリジナル1918 木(ブナ)、ベンキ、木釘、金釘	

<p>属スプリング 64.5×64.5×64.5 宇都宮美術館</p>	<p>II-1-180 ユリウス・E.F.ギブケンス ポスター「インスタント・コーヒー(ホイレカ) 味も品質もレギュラー・コーヒーと変わらない唯一の商品です」 1912頃 リトグラフ 39.9×30.0 宇都宮美術館</p>	<p>1930 陶器 カップ:h.5.5, φ10.9, w.13.1、ソーサー: h.2.0, φ16.6 ミサワホーム株式会社</p>	<p>II-1-199 クリスティアン・デル コーヒー3点セット 1924頃 鍍金、黒檀 ポット:22.1×14.2×7.9 ミサワホーム株式会社</p>
<p>II-1-171 型而工房 肘掛け椅子 1934/再制作1978 木、カ布張り 75.5×56.0×63.0 武蔵野美術大学美術資料図書館</p>	<p>II-1-181 エーリヒ・リュートケ ポスター「ジョセッティの煙草(サモーク)」 1912頃 リトグラフ 71.0×97.0 宇都宮美術館</p>	<p>II-1-190 ヴィルヘルム・ヴァーゲンフェルト テーブルランプ「MT9 ME1」 1923-24 真鍮とスチール(ニッケルメッキ)、ガラス、オパールガラス h.39.0×φ17.8 宇都宮美術館</p>	<p>II-1-200 クリスティアン・デル ワインのデカンター 1925頃 銀、黒檀 20.0×16.5×11.0 ミサワホーム株式会社</p>
<p>II-1-172 アレクサンドル・ロトチェンコ(制作指導:長谷川善一) ティーセット 1922デザイン/制作2003 磁器 大皿:h.6.2, φ41.0、ミルク・ジャー:h.17.0, φ13.8、シュガー・ポット:h.15.4, φ13.6、 ウォーター・ポット:h.20.5, φ18.5、ティー ポット:h.13.8, φ12.5、カップ:h.6.8, φ10.5、 ソーサー:h.2.0, φ16.5 岐阜県現代陶芸美術館</p>	<p>II-1-182 F.L.ゾンス ポスター「経済的な電気鍋(シュッテ・ランツ)」 1920頃 リトグラフ 46.0×36.0 宇都宮美術館</p>	<p>II-1-191 ヴィルヘルム・ヴァーゲンフェルト グレーヴィー入れ 1924 銀、黒檀 ポット:15.8×17.8×12.5、トレイ:h.2.0, φ15.0 ミサワホーム株式会社</p>	<p>II-1-201 クリスティアン・デル デスクランプ「ロンデラ=ポロ」 1928-29 真鍮と銅(ニッケルメッキ)、スチール h.33.5(正位置)、φ16.7(台座) 宇都宮美術館</p>
<p>II-1-173 アレクサンドル・ロトチェンコ(制作指導:吉島忠男) 労働者クラブの読書テーブル &amp; チェア 1925デザイン/再構成2003 メープル、ブナ、ウレタン塗装 テーブル:95.0×230.0×82.0、チェア:96.0 ×47.0×42.1 岐阜県現代陶芸美術館</p>	<p>II-1-183 F.L.ゾンス ポスター「調理用電気プレート(シュッテ・ランツ)」 1920頃 リトグラフ 46.7×36.5 宇都宮美術館</p>	<p>II-1-192 ヴィルヘルム・ヴァーゲンフェルト ティーセット 1930 ガラス カップ:3.2×13.1, φ10.8、ソーサー:φ14.5、 ケーキ皿:φ15.7、シュガー・ポット:h.4.6, φ9.8、クリームサーバー:h.4.6, φ9.8、ティー ポット:11.6×25.8, φ16.5、トレイ:φ28.2 宇都宮美術館</p>	<p>II-1-202 オットー・リンディヒ ココアポット 1920年代前半 陶器 21.0×14.0×10.5 東京国立近代美術館工芸館</p>
<p>II-1-174 カズミール・マレーヴィチ ティーセット 1923デザイン/制作1962 磁器 ポット:16.5×9.0×22.0、カップ(大):8.0 ×6.0×12.5、カップ(小):7.0×5.5×10.7 岐阜県現代陶芸美術館</p>	<p>II-1-184 作者不詳 ポスター「〈ザームム〉の煙草用巻紙と煙草 ケース」 1920頃 リトグラフ 89.9×119.5 宇都宮美術館</p>	<p>II-1-193 ヴィルヘルム・ヴァーゲンフェルト 容器「キューブ」 1938 ガラス 21.0×28.0×18.0 東京国立近代美術館工芸館</p>	<p>II-1-203 オットー・リンディヒ コーヒーポット 1930 陶器 h.18.4, w.20.7, φ14.0 ミサワホーム株式会社</p>
<p>II-1-175 ペーター・バーレンス 電気時計 FU「シンクロン」 1907-08 真鍮、板金 φ26.0×11.3 宇都宮美術館</p>	<p>II-1-185 ヴェルナー・E.パウレ ポスター「〈ペリカン〉の木炭用紙」 1925頃 リトグラフ 41.0×31.4 宇都宮美術館</p>	<p>II-1-194 マリアンネ・ブランド 灰皿 1924 真鍮 6.7×11.1×9.9 ミサワホーム株式会社</p>	<p>II-1-204 ヨーゼフ・アルバース ティーグラス(マドラ、受皿付き) 1926 ガラス、スチール、黒檀、磁器 ガラス:4.3×13.3×8.8、受皿:φ10.6、 マドラー:l.10.3 宇都宮美術館</p>
<p>II-1-176 ペーター・バーレンス 卓上扇風機 1908デザイン 金属 h.38.0, φ32.0 豊田市美術館</p>	<p>II-1-186 ヨーゼフ・ピンダー ポスター「最高級の家庭用・漬け置き洗濯石 鹸(ヘンコ)」 1930頃 リトグラフ 78.2×31.5 宇都宮美術館</p>	<p>II-1-195 マリアンネ・ブランド ティーメーカー(保温台付き) 1928-30 真鍮、黒檀 ティーメーカー:14.9×22.4, φ15.3、保温 台:h.4.7, φ10.8 宇都宮美術館</p>	<p>II-1-205 ヴォルフガング・テュンベル ティーメーカー 1927 真鍮、木 28.3×20.4×15.5 宇都宮美術館</p>
<p>II-1-177 ペーター・バーレンス 電気湯沸かし器 1909デザイン ニッケルメッキの真鍮、藤、木 21.5×20.2×16.2(1.25L) 豊田市美術館</p>	<p>II-1-187 ルートヴィヒ・ホールヴァイン ポスター「〈トゥニックス〉澄み切った輝きの 床用ワックス 木張りでもリノリウムでも抜 群の発色 1830年以來のご愛顧」 1935頃 リトグラフ 49.7×38.0 宇都宮美術館</p>	<p>II-1-196 マリアンネ・ブランド、ハインリヒ・ブレード ンディーク テーブルスタンド(カンデム) 1927 鉄 40.0×35.0×14.5 ミサワホーム株式会社</p>	<p>II-1-206 マルガレーテ・ライシュナー 防音用壁掛布 1927 平織変化組織(木綿、毛) 160.0×115.5 ミサワホーム株式会社</p>
<p>II-1-178 ルツィアン・ベルンハルト ポスター「最高級液体金属研磨剤(ロード ル)」 1910頃 リトグラフ 69.0×47.4 宇都宮美術館</p>	<p>II-1-188 テオドル・ポークラー 蓋物 1923 炆器、釉薬 7.5×φ12.0 宇都宮美術館</p>	<p>II-1-197 ハンス・ブルツィレンベル 紅茶3点セット 1924 銀 ティーポット:14.7×26.5, φ16.0 ミサワホーム株式会社</p>	<p>II-1-207 カール・ライヒレ ティーポット 1928頃 鍍合金、黒檀 15.5×30.0×10.7 宇都宮美術館</p>
<p>II-1-179 ルツィアン・ベルンハルト ポスター「ラニガーの手袋」 1913 リトグラフ 24.0×33.9 宇都宮美術館</p>	<p>II-1-189 テオドル・ポークラー(制作:オットー・リン ディヒ) カップとソーサー</p>	<p>II-1-198 クリスティアン・デル 卵形茶こし器 1924頃 真鍮(ニッケルメッキ) 13.2×φ2.2 宇都宮美術館</p>	<p>II-1-208 「ワイマール国立バウハウス1919-1923」 1923 展覧会カタログ、表紙デザイン:ヘルベルト・ バイヤー 24.6×25.4 宇都宮美術館</p>
			<p>II-1-209 ヴァルター・グロピウス「国立バウハウスの 理念と形成」</p>

1923 リーフレット、表紙デザイン：ラースロー・モ ホイ＝ナジ 25.0×24.9 ミサワホーム株式会社	II-1-219 ヴィルヘルム・ロッツ編『光と照明』 1928 書籍 26.0×19.6 島田安彦コレクション	3.7×φ5.0、3.7×φ5.4、3.7×φ5.4 群馬県立歴史博物館	江戸時代 磁器 h.5.8、φ7.2 日本民藝館
II-1-210 ヘルベルト・バイヤー 展覧会パビリオン案 1924/再制作1960 グワッシュ、フォトモンタージュ 55.0×42.5 ミサワホーム株式会社	II-1-220 ブルーノ・タウト 竹の電気スタンド 1934/再構成1989 丸竹加工、籐、和紙 h.54.5、φ44.0 群馬県立歴史博物館	II-1-230 ブルーノ・タウト デッサン「ボタン」 1934 鉛筆、コンテ、インク、紙 28.6×21.6 群馬県立歴史博物館 前期	II-1-241 伊万里染付猪口 割筆文 江戸時代 磁器 h.5.3、φ7.1 日本民藝館
II-1-211 ヴァルター・グロピウス著 バウハウス叢書 第1巻『国際建築』 1925 書籍、表紙デザイン：ファルカシュ・モルナー ル、タイポグラフィ：ラースロー・モホイ＝ナ ジ 23.1×18.0 川崎市市民ミュージアム	II-1-221 ブルーノ・タウト ペーパーナイフ(2種) 1934 木、クリアラッカー l.25.5、l.21.3 群馬県立歴史博物館	II-1-231 ブルーノ・タウト デッサン「筆入」 1934 鉛筆、トレーシングペーパー 23.6×37.6 群馬県立歴史博物館 後期	II-1-242 伊万里染付湯呑 花文 江戸時代 磁器 h.5.3、φ6.5 日本民藝館
II-1-212 アドルフ・マイヤー著 バウハウス叢書第3巻 『バウハウスの実験住宅』 1925 書籍、表紙デザイン、タイポグラフィ：アドル フ・マイヤー 23.2×18.1 川崎市市民ミュージアム	II-1-222 ブルーノ・タウト 煙草入れ 1934 木、マホガニー色ラッカー h.11.6、φ12.5 群馬県立歴史博物館	II-1-232 ブルーノ・タウト デッサン「ワインホルダー」 1934 鉛筆、インク、紙 24.7×28.5 群馬県立歴史博物館 後期	II-1-243 塗分松皮菱文椀 江戸時代 木、漆 h.7.0、φ12.8 日本民藝館
II-1-213 ヴァルター・グロピウス編 バウハウス叢書 第7巻『バウハウス工房の新製品』 1925 書籍、表紙デザイン、タイポグラフィ：ラース ロー・モホイ＝ナジ 23.0×18.3 川崎市市民ミュージアム	II-1-223 ブルーノ・タウト 懐中時計置き台 1934 けんぼ梨、クリアラッカー 2.0×7.9×6.8 群馬県立歴史博物館	II-1-233 ブルーノ・タウト 黒漆塗吸取紙台 1935 木曲げ物、漆 9.6×7.5×14.3 群馬県立歴史博物館	II-1-244 琉球片口銚子 18世紀 木、漆 12.0×15.5×9.8 日本民藝館
II-1-214 ヴァルター・グロピウス著 バウハウス叢書 第12巻『デッサウのバウハウス建築』 1930 書籍、表紙デザイン、タイポグラフィ：ラース ロー・モホイ＝ナジ 23.1×18.2 川崎市市民ミュージアム	II-1-224 ブルーノ・タウト 竹製バラソルの柄(2点) 1934 竹編み 17.5×2.2×7.7、10.0×3.0×4.2 群馬県立歴史博物館	II-1-234 ブルーノ・タウト デッサン「傘立て」 1936 鉛筆、インク、紙 18.7×14.4 群馬県立歴史博物館 前期	II-1-245 肥前緑袖指描き文捏鉢 江戸－明治時代 陶器 φ50.5 日本民藝館
II-1-215 シュテファン・シュヴァルツ ポリテックス社バウハウス・テキスタイルの パンフレット 1930 パンフレット 15.2×16.0 ミサワホーム株式会社	II-1-225 ブルーノ・タウト 竹製バラソルの柄(2点) 1934 竹編み l.22.3、φ3.8;l.11.5、φ4.5 群馬県立歴史博物館	II-1-235 ブルーノ・タウト 染付辰砂梅鳥文瓶 李朝 磁器 h.24.3、φ16.5 日本民藝館	II-1-246 砲金端広鉄瓶 真鍮 h.27.8、φ22.0 日本民藝館
II-1-216 エーリヒ・ムロツェク 広告習作「ヴェルトヘルツァー」 1930頃 グワッシュ/厚紙 42.0×61.9 ミサワホーム株式会社	II-1-226 ブルーノ・タウト 木製バラソルの柄(2点) 1934 木、クリアラッカー 3.3×12.6×5.2;l.8.8、φ3.3 群馬県立歴史博物館	II-1-236 ブルーノ・タウト 白磁大壺 李朝 磁器 h.40.3、φ30.3 日本民藝館	II-1-247 簡描 熨斗と菊 木綿藍地 143.0×130.0 日本民藝館
II-1-217 ヨースト・シュミット 未来はバウハウス壁紙のもの(ラッシュ社壁 紙/パンフレット表紙) 1931 オフセット 18.0×26.0 ミサワホーム株式会社	II-1-227 ブルーノ・タウト バラソルの石突き(2点) 1934 木、塗漆、摺漆、ラッカー h.2.8、φ2.1;h.3.0、φ2.0 群馬県立歴史博物館	II-1-237 ブルーノ・タウト 白磁小蓋物 李朝 磁器 h.9.6、φ12.0 日本民藝館	II-1-248 スリップウェア 皿 18世紀 陶器 φ41.5 日本民藝館
II-1-218 ハインツ・レーフ 広告習作「アドレーマ」 1932 リトグラフ 46.5×31.9 ミサワホーム株式会社	II-1-228 ブルーノ・タウト サラダボール 1934 木、クリアラッカー h.7.6、φ27.6 群馬県立歴史博物館	II-1-238 ブルーノ・タウト 深鉢 三島手内花文外刻線文 李朝 陶器 h.11.3、φ19.0 日本民藝館	II-1-249 『工藝』第1巻(1－12号) 1931 書籍(帙入り) 各22.8×15.7;帙:12.5×16.7×23.5 国立新美術館アートライブラリー
	II-1-229 ブルーノ・タウト ナブキンリング(3点) 1934 木、クリアラッカー	II-1-239 朱塗箱 李朝 木、漆、真鍮 29.5×21.5×21.5 日本民藝館	II-1-250 黒田辰秋 螺鈿「色」字箱 1927頃 木、漆、螺鈿 13.3×21.8×28.0 アサヒビール大山崎山荘美術館
		II-1-240 伊万里染付湯呑 七宝つなぎ文	II-1-251 黒田辰秋 拭漆テーブルセット 1928 木、漆 テーブル:73.6×184.3×125.2、椅子(肘 付):102.7×56.2×57.0、椅子(肘なし): 102.7×44.1×50.0 アサヒビール大山崎山荘美術館

II-1-252 黒田辰秋 李朝風戸棚 1928 木 94.5×65.4×45.0 アサヒビール大山崎山荘美術館	II-1-263 濱田庄司 鉄絵葡萄文ミルク注 陶器 9.8×11.0×13.0 アサヒビール大山崎山荘美術館	木版 12.8×21.7 郡山市立美術館	II-1-285-a 柳瀬正夢 「真夜中から七時まで」No.96 対面(1) [新聞小説挿絵原画] 1932 コラージュ、墨、水彩/紙 22.0×31.5 武蔵野美術大学美術資料図書館
II-1-253 黒田辰秋 朱漆戸棚 1928 木、漆 85.1×55.3×40.4 アサヒビール大山崎山荘美術館	II-1-264 河井寛次郎 黒地黄釉流描線文鉢 1931 陶器 h.6.0、φ21.3 アサヒビール大山崎山荘美術館	II-1-275 エドワード・ウォズワース 内部 木版 10.7×7.3 郡山市立美術館	II-1-285-b 柳瀬正夢 「真夜中から七時まで」No.97 対面(2) [新聞小説挿絵原画] 1932 コラージュ /紙 21.8×31.1 武蔵野美術大学美術資料図書館
II-1-254 黒田辰秋 黒朱漆塗電器笠 48.5×36.0×36.0 アサヒビール大山崎山荘美術館	II-1-265 河井寛次郎 柿黒釉家紋盒子 陶器 h.9.5、φ12.1 アサヒビール大山崎山荘美術館	II-1-276 デイヴィッド・ボンバーク ロシア・バレエ 1914-19 書籍、リトグラフ 21.9×14.3(書籍) 郡山市立美術館	II-1-285-c 柳瀬正夢 「真夜中から七時まで」No.98 対面(3) [新聞小説挿絵原画] 1932 コラージュ、墨/紙 21.1×30.0 武蔵野美術大学美術資料図書館
II-1-255 黒田辰秋 朱塗透彫文円卓 1930 木、漆 h.27.5、φ96.7 日本民藝館	II-1-266 瀬戸 雁行図行灯皿 江戸時代 陶器 h.2.3、φ23.6 アサヒビール大山崎山荘美術館	II-1-277 久米民十郎 Off England 1918 油彩、カンヴァス 45.5×60.5 神奈川県立近代美術館	II-1-285-d 柳瀬正夢 「真夜中から七時まで」No.99 対面(4) [新聞小説挿絵原画] 1932 コラージュ、墨、水彩/紙 20.3×25.9 武蔵野美術大学美術資料図書館
II-1-256 青田五良 座布団(6枚) 昭和初期 絹 各37.0×37.0 アサヒビール大山崎山荘美術館	II-1-267 瀬戸 藤花文石皿 江戸時代 陶器 h.4.7、φ27.6 アサヒビール大山崎山荘美術館	II-1-278 フェルナン・レジェ 都市 1919 油彩/カンヴァス 96.8×130.5 ニューヨーク近代美術館	II-1-285-e 柳瀬正夢 「真夜中から七時まで」No.100 対面(5) [新聞小説挿絵原画] 1932 コラージュ、水彩/紙 20.3×25.9 武蔵野美術大学美術資料図書館
II-1-257 青田五良 裂織敷物 昭和初期 綿、絹 258.0×213.0 アサヒビール大山崎山荘美術館	II-1-268 肥前 飴釉流掛徳利 陶器 h.18.3、φ10.7 アサヒビール大山崎山荘美術館	II-1-279 フェルナン・レジェ 女と花 1926 油彩/カンヴァス 130.0×98.0 東京国立近代美術館	II-1-285-f 柳瀬正夢 「真夜中から七時まで」No.101 対面(6) [新聞小説挿絵原画] 1932 コラージュ、水彩/紙 20.3×25.9 武蔵野美術大学美術資料図書館
II-1-258 濱田庄司 鉄絵黍文火鉢 昭和初期 陶器 h.26.5、φ30.0 アサヒビール大山崎山荘美術館	II-1-269 人參筥 李朝 木、漆、真鍮 10.5×32.0×16.5 アサヒビール大山崎山荘美術館	II-1-280 普門暁 鹿、青春、光り、交叉 1920 油彩/カンヴァス 64.7×80.0 奈良県立美術館 前期	II-1-285-g 柳瀬正夢 「真夜中から七時まで」No.102 対面(7) [新聞小説挿絵原画] 1932 コラージュ、水彩/紙 20.3×25.9 武蔵野美術大学美術資料図書館
II-1-259 濱田庄司 白地藍鉄草花文湯呑 昭和初期 陶器 h.8.3、φ9.0 アサヒビール大山崎山荘美術館	II-1-270 富士登山参詣曼陀羅 江戸時代 33.4×50.5(表具:135.0×57.0) アサヒビール大山崎山荘美術館	II-1-281 矢部友衛 無題 1921頃 油彩/カンヴァスボード 40.5×31.6 宮城県美術館	II-1-285-h 柳瀬正夢 「真夜中から七時まで」No.103 対面(8) [新聞小説挿絵原画] 1932 コラージュ、墨、水彩/紙 23.2×31.9 武蔵野美術大学美術資料図書館
II-1-260 濱田庄司 黒釉線文湯呑 昭和初期 陶器 h.6.6、φ8.7 アサヒビール大山崎山荘美術館	II-1-271 仙台筆筒 昭和時代 木、漆、鉄 121.0×115.0×45.0 アサヒビール大山崎山荘美術館	II-1-282 矢部友衛 煙 1923頃 油彩/カンヴァスボード 41.0×31.8 宮城県美術館	II-1-285-i 柳瀬正夢 「真夜中から七時まで」No.104 対面(9) [新聞小説挿絵原画] 1932 コラージュ、墨、水彩/紙 20.3×26.0 武蔵野美術大学美術資料図書館
II-1-261 濱田庄司 地釉鉄絵線文土瓶 陶器 h.12.0、φ19.0 アサヒビール大山崎山荘美術館	セクション5. 都市の表象 II-1-272 エドワード・ウォズワース ストリート・シンガー 1914 木版 14.8×10.8 郡山市立美術館	II-1-283 住谷磐根 工場に於ける愛の日課 1923 油彩/カンヴァス 65.3×53.2 東京国立近代美術館	II-1-286 ハワード・クック マンハッタン南端部
II-1-262 濱田庄司 鉄絵葡萄文砂糖壺 陶器 h.11.0、φ13.6 アサヒビール大山崎山荘美術館	II-1-273 エドワード・ウォズワース 創造 1917 木版 10.5×8.2 郡山市立美術館	II-1-274 エドワード・ウォズワース 乾ドック内の迷彩船 1918	

1930 リトグラフ 35.5×25.7 町田市立国際版画美術館	花文投入 1928 ブロンズ h.18.5、φ16.5 メタル・アート・ミュージアム・光の谷	ポスター「ノール・エクスプレス(観光)」 1927 リトグラフ 105.0×75.0 東京国立近代美術館工芸館	II-1-316 ジャン・デュバ ポスター「アーノルド・コンスタブル百貨店」 1928 リトグラフ 118.5×76.9 東京国立近代美術館工芸館
II-1-287 ハワード・クック エディソン発電所 1930 リトグラフ 34.0×25.0 町田市立国際版画美術館	II-1-297 内藤春治 壁面花挿 1929 ブロンズ、鋳造 38.5×35.0×18.0 東京国立近代美術館工芸館	II-1-307 A.M.カッサンドル ポスター「北極星号」 1927 リトグラフ 105.5×74.5 東京国立近代美術館工芸館	II-1-317 ポール・コラン ポスター「タバラン(キャバレー)」 1928 リトグラフ 67.0×48.3 東京国立近代美術館工芸館 後期
II-1-288 ルイス・ロゾウィック ブルックリン橋 1930 リトグラフ 33.0×20.0 町田市立国際版画美術館	II-1-298 各務鏞三 クリスタル人物模様花瓶 1930 ガラス h.20.6、φ8.4 サントリー美術館	II-1-308 A.M.カッサンドル ポスター「ノルマンディー号」 1935 リトグラフ 100.0×71.0 東京国立近代美術館工芸館	II-1-318 ポール・コラン ポスター「トランスアトランティック」 1930頃 リトグラフ 100.0×61.5 東京国立近代美術館工芸館 前期
II-1-289 ルイス・ロゾウィック 地下鉄建設 1931 リトグラフ 16.9×33.1 町田市立国際版画美術館	II-1-299 磯矢阿伎良 バイオリン・ケース 1931 漆 15.5×81.8×28.0	II-1-309 ジャン・カルリュ ポスター「シュパーテンプロイ(ビール)」 1927 リトグラフ 80.0×60.6 東京国立近代美術館工芸館 後期	II-1-319 レオニード・ヴォロノフ、ミハイル・エフスタ フィエフ 映画ポスター「レース織り」 1928 リトグラフ 104.3×72.3 東京国立近代美術館フィルムセンター 前期
II-1-290 富本憲吉 白磁八角コーヒーセット 1921 磁器 ポット:h.13.0、φ8.3、シュガーポット: h.8.0、φ8.8、ミルクピッチャー:h.10.1、 φ6.2、カップ:各h.6.5、φ6.2、ソーサー:各 h.2.3、φ12.7 富本憲吉記念館	II-1-300 ルネ・ビュトー 幾何学文花瓶 1935-40頃 陶器 h.24.0、d.13.0 東京国立近代美術館工芸館	II-1-310 ジャン・カルリュ ポスター「ペパ・ボナフェ(女優)」 1928 リトグラフ 57.0×38.0 東京国立近代美術館工芸館 前期	II-1-320 不詳 映画ポスター「斜線」 1928 リトグラフ 100.6×72.0 東京国立近代美術館フィルムセンター 前期
II-1-291 ビエール・シャロー フロアー・スタンド「修道女」 1923 アラバスター、鉄 h.172.0 東京国立近代美術館工芸館	II-1-301 アレクサンドル・ロトチェンコ ポスター「ドゥプロリョート社 あなたの名 前は当社の株主名簿に載っていますか?」 1923 リトグラフ 107.0×69.0 宇都宮美術館	II-1-311 レオニード・ヴォロノフ、ミハイル・エフスタ フィエフ 映画ポスター「十月」 1927 リトグラフ 95.8×131.4 東京国立近代美術館フィルムセンター 後期	II-1-321 グリゴリー・ポリソフ、ピョートル・ジュエ コフ 映画ポスター「立入禁止の町」 1928 リトグラフ 122.0×92.2 東京国立近代美術館フィルムセンター 後期
II-1-292 ビエール・シャロー 書斎机、椅子 1928頃 ブラジル産紫檀 70.0×176.0×69.0 東京国立近代美術館工芸館	II-1-302 アレクサンドル・ロトチェンコ ポスター「ドゥプロリョート社 当社の株主で はないあなたは、ソ連国民とは言えません!」 1923 リトグラフ 35.7×45.7 宇都宮美術館	II-1-312 ウラジーミル・ステンベルク、ゲオルギー・ス テンベルク 映画ポスター「カメラを持った男」 1929 リトグラフ 108.0×70.1 東京国立近代美術館フィルムセンター	II-1-322 リチンスキイ 映画ポスター「二人の女性」 1929 リトグラフ 103.2×71.5 東京国立近代美術館フィルムセンター 前期
II-1-293 山崎崑太郎 煙草具 1924-25 漆 19.3×48.0×11.5 富山県	II-1-303 アレクサンドル・ロトチェンコ 映画ポスター「世界の六分の一」 1926 リトグラフ 107.2×70.0 東京国立近代美術館フィルムセンター 前期	II-1-313 ウラジーミル・ステンベルク、ゲオルギー・ス テンベルク 映画ポスター「アルセナール(武器庫)」 1929 リトグラフ 107.0×72.2 東京国立近代美術館フィルムセンター	II-1-323 セミヨーン・セミヨーフ 映画ポスター「あなたの健康に乾杯」 1929 リトグラフ 100.0×53.8 東京国立近代美術館フィルムセンター
II-1-294 ジャン・ビュイフォルカ ティー・セット 1925 銀、紫檀 ティーポット:h.12.1、d.17.9、コーヒーポッ ト:h.18.4、d.15.5、砂糖入れ:h.9.8、d.12.0、 ミルク入れ:h.9.4、d.9.2 東京国立近代美術館工芸館	II-1-304 杉浦非水 ポスター「東洋唯一の地下鉄道 上野浅草間 開通」 1927 リトグラフ、オフセット 91.8×62.0 東京国立近代美術館工芸館	II-1-314 ウラジーミル・ステンベルク、ゲオルギー・ス テンベルク 映画ポスター「トルキスタン・シベリア鉄道」 1929 リトグラフ 109.5×79.5 東京国立近代美術館フィルムセンター	II-1-324 グリゴリー・ポリソフ、ピョートル・ジュエ コフ 映画ポスター「生ける屍」 1929 リトグラフ 107.0×71.0 東京国立近代美術館フィルムセンター
II-1-295 楠部彌弋 葡萄文花瓶 1927 磁器 h.36.0、φ28.0 京都国立近代美術館	II-1-305 杉浦非水 ポスター「銀座三越 四月十日開店」 1930 オフセット 109.8×82.2 東京国立近代美術館工芸館 後期	II-1-315 ヤコフ・ルクレフスキー 映画ポスター「カフェ・ファンコニ」 1927 リトグラフ 106.6×71.6 東京国立近代美術館フィルムセンター	II-1-325 モーリス・デュフレヌ ポスター「シルクのかがやき(オペレッタ)」 1930
II-1-296 津田信夫	II-1-306 A.M.カッサンドル		

リトグラフ 119.4×80.0 東京国立近代美術館工芸館	ゼラチン・シルバー・プリント 36.7×26.2 個人蔵	フェスト:未来派の写真』 1931 二つ折りリーフレット 30.3×20.8 京都国立近代美術館	5.8×33.3×23.0 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト
II-1-326 里見宗次 ポスター「KLM」 1933 リトグラフ 99.2×61.5 東京国立近代美術館工芸館	II-1-336 ハナヤ勘兵衛 フォトモンタージュ(今日も楽しい) 1933 ゼラチン・シルバー・プリント 21.8×22.5 個人蔵	II-1-347 コッラード・フォルリニ他 未来派サヴァレ・グループ『戦争に寄せる、空の詩、空の絵』 1941 二つ折りリーフレット 24.8×17.7 京都国立近代美術館	II-2-9 ジョージ・マチューナス オブジェでつづったあなたの名前 ROBERT WATTS(ロバート・ワッツ) 1975 ミクストメディア 6.0×9.0×13.0 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト
II-1-327 里見宗次 ポスター「コート・ダジュール(観光)」 1935 リトグラフ 98.7×60.7 東京国立近代美術館工芸館 前期	II-1-337 イモジェン・カニングハム ファーゲルの排気筒 1934 ゼラチン・シルバー・プリント 18.5×23.7 京都国立近代美術館	第2章 消費社会における物・商品・欲望— 20世紀後半の美術  セクション1. 物の氾濫	II-2-10 ジョージ・マチューナス オブジェでつづったあなたの名前 JOHN & YOKO(ジョンとヨーコ) 1975 ミクストメディア 6.0×22.0×15.0 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト
II-1-328 アルヴィン・ラングドン・コパーン 1000の窓の建物、ニューヨーク 1912 ゼラチン・シルバー・プリント 28.8×23.0 京都国立近代美術館	II-1-338 ヴェルナー・マンツ 工場 1937 ゼラチン・シルバー・プリント 23.1×17.1 東京都写真美術館	II-2-1 ルイーザ・ニーヴェルソン 漂う天界 1959-66 黒く彩色された木 289.6×232.4×25.4 愛知県美術館	II-2-11 ジョージ・マチューナス オブジェでつづったあなたの名前 GEORGE BRECHT(ジョージ・ブレクト) 1976 ミクストメディア 7.5×18.7×14.0 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト
II-1-329 エドワード・ウェストン Armco Steel, Middletown, Ohio 1922 ゼラチン・シルバー・プリント 23.0×17.0 東京都写真美術館	II-1-339 ルウ・ストウーメン ニューヨーク 1940 ゼラチン・シルバー・プリント 29.6×22.0 京都国立近代美術館	II-2-2 セザール TOKYO圧縮 1982 自動車 142.0×68.0×54.0 財団法人 セゾン現代美術館	II-2-12 ジョージ・マチューナス オブジェでつづったあなたの名前 BEN VAUTIER(ベン・ヴォーティエ) 1976 ミクストメディア 5.2×29.3×7.4 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト
II-1-330 エドワード・ウェストン Pipes and Stacks, Armco Steel, Middletown, Ohio 1922 ゼラチン・シルバー・プリント 23.7×18.8 東京都写真美術館	II-1-340 映像制作・監督:長倉威彦、コンピューター・グラフィックス:アンドレ・ザルジッキ、長倉威彦、ダン・ブリック、マーク・シッチ 第三インターナショナルのモニュメント(ウラジーミル・タトリン 1919-20) 1999 CGビデオ	II-2-3 ジャン・ティンゲリー バッタ 1963 鉄、ミクストメディア 41.0×36.0×18.0 国立国際美術館	II-2-13 ジョージ・マチューナス オブジェでつづったあなたの名前 ARLONSON・ノウルズ ビーン・ローズ 1964 ミクストメディア 7.8×8.2×8.2 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト
II-1-331 アレクサンドル・ロトチェンコ モスセリプロム(農産物加工企業連盟)の建物 1926/プリント1994 ゼラチン・シルバー・プリント 24.1×17.4 東京国立近代美術館	II-1-341 ジャコモ・バッラ『マニフェスト:反中道主義者の服』 1914 二つ折りリーフレット 29.1×23.0 京都国立近代美術館	II-2-4 ロバート・ラウシェンバーク カードボード・ドア 1971 段ボール 203.0×101.0×32.5 滋賀県立近代美術館	II-2-14 ロバート・ワッツ ccで容積を表示したフルクサス石 1964 ミクストメディア 10.5×10.3×10.5 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト
II-1-332 アレクサンドル・ロトチェンコ 路面電車の曲がり角 1932/プリント1994 ゼラチン・シルバー・プリント 15.8×22.2 東京国立近代美術館	II-1-342 ジャコモ・バッラ、フォルトウナート・デベロ 『マニフェスト:世界の未来派再構築』 1915 二つ折りリーフレット 29.3×23.2 京都国立近代美術館	II-2-5 アルマン カシャ バシヤ、シツパイ 1962 カメラ、木箱 60.0×100.0×22.0 豊田市美術館	II-2-15 ロバート・ワッツ ccで容積を表示したフルクサス石 1964 ミクストメディア 9.0×9.0×9.0 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト
II-1-333 アルベルト・レンガー=パッチュ グーテ・ホフマンクス製鉄所溶鉱炉、デュイスブルク 1928/プリント2001 ゼラチン・シルバー・プリント 37.6×27.7 東京国立近代美術館	II-1-343 ジャコモ・バッラ(デザイン) 未来派公式レターヘッド 29.5×23.5 京都国立近代美術館	II-2-6 草間彌生 マカロニ・コート 1963 コート、マカロニ、ハンガー、彩色 118.0×80.0×12.0 板橋区立美術館	II-2-16 ロバート・ワッツ グラムで重さを表示したフルクサス石 1964 ミクストメディア 2.2×11.9×10.0 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト
II-1-334 アルベルト・レンガー=パッチュ エッセ=ライテの給水塔 1929/プリント2001 ゼラチン・シルバー・プリント 37.5×27.7 東京国立近代美術館	II-1-344 『マニフェスト:戦時下に於ける未来派の統合』 1914 二つ折りリーフレット 29.3×33.1 京都国立近代美術館	II-2-7 ダニエル・スペーリ 罫のタブロー;ミール・ヴァリエーション No.22、ロバート・ローゼンブラムの食事の跡 1964 ミクストメディア 24.5×69.3×62.6 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト	II-2-17 ロバート・ワッツ グラムで重さを表示したフルクサス石 1964
II-1-335 安井仲治 フォトモンタージュ(仮題) 1931	II-1-345 フィリッポ・トンマーゾ・マリネッティ著『未来派の自由な状態の言葉』 1919 書籍 19.3×12.2 京都国立近代美術館	II-2-8 ジョージ・マチューナス エクスクレタ・フルクソルム(フルクサス排泄物) 1973 ミクストメディア	

ミクストメディア 2.2×11.9×10.0 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト	18.0×31.0×19.5(開けた状態:高さ32cm) ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト	シルクスクリーン 56.5×79.0 横浜美術館	ニューヨーク近代美術館
II-2-18 久保田成子 フルクサス葉 1966 ミクストメディア 1.3×9.5×11.9 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト	II-2-27 クリスト 梱包された缶 1958 布、ペンキ、ラッカー、ロープ、缶 h.25.0、φ11.5 国立国際美術館	II-2-37 リチャード・ハミルトン フラワー・ピース B 1976 リトグラフ 65.0×50.0 郡山市立美術館	II-2-47 アンディ・ウォーホル 電話 1961 アクリリック、鉛筆/綿 182.9×137.2 ロサンゼルス現代美術館
II-2-19 久保田成子 フルクサス葉 1966 ミクストメディア 2.5×10.0×11.9 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト	II-2-28 クリスト 包まれた美術書 1978 本、透明防水シート、麻紐 4.5×25.5×34.5 国立国際美術館	II-2-38 リチャード・ハミルトン フラワー・ピース B、クレヨン習作 1976 リトグラフ 65.0×50.0 郡山市立美術館	II-2-48 アンディ・ウォーホル 4つの彩色したキャンベル・スープ缶 1965 アクリリック、シルクスクリーン/カンヴァス 4点組:各92.0×61.0 ソナベント・コレクション
II-2-20 ベン・ヴォーティエ フルクサス絵画 1966 ミクストメディア 1.8×30.5×35.3、ブラック:0.5×14.0×10.0 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト	II-2-29 工藤哲巳 X型基本体に於ける増殖性連鎖反応 1960 ビニールチューブ、紐、タワシ、鉄 65.0×75.0×90.0 東京都現代美術館	II-2-39 リチャード・ハミルトン フラワー・ピース B、シアン版 1976 リトグラフ 65.0×50.0 郡山市立美術館	II-2-49 アンディ・ウォーホル キャンベル・スープ II 1969 シルクスクリーン 10点 組:88.9×58.6 (nos.1, 3-8, 10)、 89.0×58.7 (no.2)、89.1×58.6 (no.9) 広島市現代美術館
II-2-21 ベン・ヴォーティエ フルクサス無用のオブジェ 1966 ミクストメディア 10.5×29.3×17.0、ブラック:0.2×13.0×10.0 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト	II-2-30 工藤哲巳 イオネスコの肖像 1970-71 ミクストメディア 200.0×200.0×70.0 京都国立近代美術館	II-2-40 ロイ・リキテンスタイン 無題 1961 油彩/カンヴァス 45.7×40.7 個人蔵	II-2-50 クレス・オルデンバーグ スリーウェイブラグ スケールB ソフト 1970 皮、木 182.9×91.4×58.4 東京都現代美術館
II-2-22 ロベール・フィリウー フルクサス・ヘア 1968頃 ミクストメディア 1.3×10.0×12.0 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト	II-2-31 中西夏之 洗濯バサミは攪拌行動を主張する 1963 紐、洗濯バサミ/カンヴァス 7点 組: 各116.5×91.0(6点)、41.0×31.5(中央1点) 東京都現代美術館	II-2-41 ロイ・リキテンスタイン バイクド・ポテト 1962 インク、テンペラ/紙 56.7×67.3 個人蔵	II-2-51 トム・ウェッセルマン 浴槽コラージュ #2 1963 油彩、コラージュ、オブジェ/版 122.0×185.5×16.5 東京都現代美術館
II-2-23 ロベール・フィリウー フルクサス・ダスト 1968頃 ミクストメディア 1.3×10.0×12.0 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト	II-2-32 荒川修作 名前のない耐えているものNo.2 1958/1986補修 セメント、綿布、木箱 253.5×123.1×22.7 名古屋美術館	II-2-42 ロイ・リキテンスタイン あばら肉 1962 油彩/カンヴァス 53.3×63.5 ロサンゼルス現代美術館、バンツァ・コレクション	II-2-52 篠原有司男 ラプリー・ラプリー・アメリカ(ドリンク・モア) 1964 蛍光塗料、ラッカー、カンヴァス、石膏、金属、 ピン(コココーラ) 64.5×46.7 横浜美術館
II-2-24 ジョン・チック フルクサス・フード[合成食品] 1969 ミクストメディア 2.5×11.9×10.0 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト	II-2-33 高松次郎 脚立の紐 1963-85 脚立、アルミニウム、鉄、プラスチック、綿、電線 215.0×212.0×165.0 兵庫県立美術館 山村コレクション	II-2-43 ロイ・リキテンスタイン デスク・カレンダー 1962 油彩/カンヴァス 123.2×173.4 ロサンゼルス現代美術館、バンツァ・コレクション	II-2-53 吉村益信 豚・pig lib; 1971/1983, 95加筆 豚の剥製、プラスチック、ワックス、木 72.0×136.0×86.0 兵庫県立美術館 山村コレクション
II-2-25 ジョン・チック フルクサス・フード[森の食品] 1969 ミクストメディア 2.5×11.9×10.0 ギルバート・アンド・ライラ・シルヴァーマン・フルクサス・コレクション、デトロイト	II-2-34 赤瀬川原平 ヴァギナのシャツ(二番目のプレゼント) 1961/再制作1994 ゴム、チューブ、真空管、他 182.0×91.0 個人蔵(名古屋美術館 寄託)	II-2-44 ロイ・リキテンスタイン 大きな糸巻き 1963 マグナ/カンヴァス 172.7×142.2 ソナベント・コレクション	II-2-54 ジェイムズ・ローゼンクイスト 付属物の痕跡 1962 油彩、コラージュ/カンヴァス 182.9×236.9 ロサンゼルス現代美術館、バンツァ・コレクション
II-2-26 ジョージ・ブレクト フルクサス旅行キット 1975 ミクストメディア	II-2-35 田中信太郎 音楽 1963/再制作1996 ピアノ、やかん、人形、アクリル板、椅子 309.6×148.5×67.0 作家蔵(国立国際美術館 寄託)	II-2-45 ジョージ・シーガル コーヒーを注ぐウェイトレス 1973 石膏、木、金属、磁器 243.0×107.0×86.0 滋賀県立近代美術館	II-2-55 ジェイムズ・ローゼンクイスト 成長計画 1966 油彩/カンヴァス 178.0×356.0 いわき市立美術館
II-2-26 ジョージ・ブレクト フルクサス旅行キット 1975 ミクストメディア	II-2-36 リチャード・ハミルトン インテリア 1964-65	II-2-46 アンディ・ウォーホル 給湯器 1960 合成ポリマー塗料/カンヴァス 113.6×101.5	II-2-56 ジェイムズ・ローゼンクイスト バンディーニのために 1968 油彩/カンヴァス

152.4×345.5 東京都現代美術館	99.0×43.1 国立国際美術館	II-2-76 クシュトフ・ウディチコ ポリスカーのための素描 1991 黒鉛/上質皮紙 50.8×260.7 京都国立近代美術館	新品のシェルトン・ウェット/ドライ・5ガロン(変形二段重ね) 1981-87 真空掃除機、アクリル板、蛍光灯 251.1×137.2×71.1 東京都現代美術館
II-2-57 ジム・ダイン 帽子 1961 ミクストメディア、オブジェ/カンヴァス 164.0×142.0×23.0 国立国際美術館	II-2-67 ジャスパー・ジョーンズ パン 1969 鉛、コラージュ(紙、彩色) 58.4×43.1 国立国際美術館	II-2-77 クシュトフ・ウディチコ ニューヨークのポリスカー 1 1991 写真 76.2×76.2 京都国立近代美術館	II-2-87 ミロスワフ・パウカ φ51×4, 85×43×49 1998 木、鉄、塩、プラスチック φ51.0×4.0, 85.0×43.0×49.0 国立国際美術館
II-2-58 ジム・ダイン 靴 1961 油彩/カンヴァス 164.0×142.0 ソナベント・コレクション	II-2-68 ジャスパー・ジョーンズ 0から9 1970 鉛 76.2×59.7 国立国際美術館	II-2-78 クシュトフ・ウディチコ ニューヨークのポリスカー 2 1991 写真 76.2×76.2 京都国立近代美術館	II-2-88 アシュリー・ピカートン GUGUG 1986 アルミニウム、アクリリック、ラッカー、フォルマイカ/板 76.0×213.0×36.0 ソナベント・コレクション
II-2-59 ジム・ダイン 芝刈機 1962 油彩/カンヴァス、芝刈機 196.8×143.5×143.0 愛知県美術館	II-2-69 ベルント&ヒラ・ベッヒャー 冷却塔 1986 セラチン・シルバー・プリント 8点組:各50.0×40.0 国立国際美術館	II-2-79 クシュトフ・ウディチコ ニューヨークのポリスカー 3 1991 写真 76.2×76.2 京都国立近代美術館	II-2-89 レイチェル・ホワイトリード 無題(樹脂のトルソ) 1996 ポリウレタン樹脂 8.5×25.0×28.0 国立国際美術館
II-2-60 エドワード・ルッシュェ Western 1969 油彩/カンヴァス 152.4×137.6 東京都現代美術館	II-2-70 ハンス・ハーケ スーラの《ポーズをとる女性たち》(小画面)、1888-1975年 1975 14枚のパネル、《ポーズをとる女性たち》カラー複製1枚 パネル14枚:各50.8×76.2、《ポーズをとる女性たち》カラー複製:59.3×69.2 ギルバート・アンド・ライラ・シルバーマン・コレクション、デトロイト	II-2-80 クシュトフ・ウディチコ ニューヨークのポリスカー 4 1991 写真 76.2×76.2 京都国立近代美術館	II-2-90 笠原恵実子 Untitled 一石の花ー 1991 タイル、大理石、ガラス、アルミニウム、セメント 4点組:各155.0×63.3×63.3 東京都現代美術館
II-2-61 マルセル・デュシャン ヴァリエーズ(スーツケースの箱) 1955-68 ミクストメディア 9.5×38.4×41.0 滋賀県立近代美術館	II-2-71 クリスチャン・ボルタンスキー 1951年にクリスチャン・ボルタンスキーが所有していた一組の長靴の粘土による復元の試み 1970 粘土、ブリキ、金網、ラベル 60.0×40.0×12.0 国立国際美術館	II-2-81 クシュトフ・ウディチコ ニューヨークのポリスカー 5 1991 写真 76.2×76.2 京都国立近代美術館	II-2-91 スラシ・クソンウォン スモール・イズ・ビューティフルーゲルハルト・リヒター 2001 写真、オブジェ/パネル 148.0×208.0×30.0 原美術館
II-2-62 ヨーゼフ・ボイス ヴィトリヌ:ジンギス・カンの玉座 1965-83 布、ビニール・チューブ、鉄、革紐、フェルト、硫黄、顔料、脂肪、ヴィトリヌ(木、ガラス)、鉄製台座 205.7×219.5×49.5 豊田市美術館	II-2-72 クリスチャン・ボルタンスキー 1948年から1950年にクリスチャン・ボルタンスキーが使用していた梳とスプーンの粘土による復元の試み 1971 粘土、ブリキ、金網、ラベル 60.0×40.0×12.0 国立国際美術館	II-2-82 ハイム・スタインバック 無題(ちり取り、ドアマット) #4A 1990 ビニール加工した棚、オブジェ 110.0×216.0×80.0 協力:ソナベント・ギャラリー、ニューヨーク	II-2-92 スラシ・クソンウォン スモール・イズ・ビューティフルーフローティング・マーケット 2001 写真、オブジェ/パネル 140.0×214.0×10.0 原美術館
II-2-63 ヨーゼフ・ボイス ジョッキー帽 1985 フェルト帽、脂肪、絵具、新聞紙 14.5×25.5×17.5 豊田市美術館	II-2-73 ジョゼフ・コスース 一つと三つのシャベル 1965 写真、シャベル、パネル 113.0×37.5、97.0×25.5、45.0×72.0 滋賀県立近代美術館	II-2-83 ジェリー・レヴィーン ブラック・ニューボーン 1994 ガラス 14.0×20.3×13.7 国立国際美術館	第III部 マテリアル・ワールドに生きる
II-2-64 ジャスパー・ジョーンズ M 1962 油彩/カンヴァス、オブジェ 91.4×71.0 財団法人 セゾン現代美術館	II-2-74 リチャード・アーシュワーガー 二人の晩餐 1988 木、フォルマイカ、彩色、ゴム 90.0×217.0×68.5 ソナベント・コレクション	II-2-84 トニー・クラッグ スペクトラム 1979 プラスチック 250.0×500.0 豊田市美術館	III-1-1 マイケル・クレイグ=マーティン 物は変化する 2006 4台のプロジェクトによるビデオ・プロジェクト、コンピュータ、ベクター・ドローイング、カスタム・メイドのソフトウェア 協力:作家/ガゴシアン・ギャラリー
II-2-65 ジャスパー・ジョーンズ 旗 1960-69 鉛 43.1×58.4 国立国際美術館	II-2-75 クシュトフ・ウディチコ ポリスカー(本体) 1991 ミクストメディア 185.4×311.2×124.5 京都国立近代美術館	II-2-85 ベルトラン・ラヴィエ IBERNA 1991 アクリリック/冷蔵庫 127.0×51.0×64.0 国立国際美術館	III-2-1 シムリン・ギル 2006年5月 私がよく使っていたが、今はもう製造されていない白黒フィルムの最後の29本の使用期限 2006 778枚の白黒写真、2006年5月4日から6月11日にかけて、シドニーの作者の住居周辺で撮影 写真:各12.5×18.0、インスタレーション:展示サイズ可変 協力:作家
II-2-66 ジャスパー・ジョーンズ 電球 1969 鉛		II-2-86 ジェフ・クーンズ 新品のフーヴァー・コンヴァーティブル、新品のシェルトン・ウェット/ドライ・5ガロン、	

III-3-1 コーネリア・バーカー ロールシャッハ(トウ・マイル) 2005 250トンの工業用プレス機で押しつぶされた46個の銀製品、針金 317.5×213.5×0.6 ファン・カルロス・ベルメ	古着coordinate(cardigan) 2005 衣類、アクセサリ、ハンガー 70.0×48.0×15.0 作家蔵	2006 HDVビデオ(カラー、サウンド)、PC+LCD モニター、木箱、テーブル;アクリリック/カンヴァス 展示サイズ可変;ビデオ:7分12秒;カンヴァス:27.3×45.5 映像:パレ・ド・トーキョー付属美術研究所、ル・パヴィヨンのレジデンス・プログラムにて制作	テープ;アクリリック/カンヴァス 展示サイズ可変;ビデオ:4秒;カンヴァス:27.3×45.5 作家蔵 映像:パレ・ド・トーキョー付属美術研究所、ル・パヴィヨンのレジデンス・プログラムにて制作
III-3-2 コーネリア・バーカー ロールシャッハ(ダブルフラット) 2005 250トンの工業用プレス機で押しつぶされた16個の銀製品、針金 332.7×210.8×1.9 協力:作家/ダメリオ・テラス、ニューヨーク	III-4-4 高柳恵里 古着coordinate(black sweater) 2006 衣類、アクセサリ、ハンガー、塩化ビニールシート 100.5×44.0×19.0 作家蔵	III-5-4 田中功起 ボールを見つけ、道ばたのゴミ箱に投げ入れる 2006 HDVビデオ(カラー、サウンド)、PC+LCD モニター;ボール、テーブル;アクリリック/カンヴァス 展示サイズ可変;ビデオ:15秒;カンヴァス:27.3×45.5 作家蔵 映像:パレ・ド・トーキョー付属美術研究所、ル・パヴィヨンのレジデンス・プログラムにて制作	III-5-10 田中功起 その水がなくなるまで見つづける 2006 HDVビデオ(カラー、サウンド)、PC+LCD モニター;ナイフ、フォーク、スプーン、テーブル;アクリリック/カンヴァス 展示サイズ可変;ビデオ:17秒;カンヴァス:27.3×45.5 作家蔵 映像:パレ・ド・トーキョー付属美術研究所、ル・パヴィヨンのレジデンス・プログラムにて制作
III-3-3 コーネリア・バーカー ロールシャッハ(ヴェラ) 2005 250トンの工業用プレス機で押しつぶされた61個の銀製品、針金 320.0×175.3×1.9 ギャラリー・コロン・XVI、ビルバオ	III-4-5 高柳恵里 Garden 2006 カラープリント 102.4×153.5 作家蔵	III-5-5 田中功起 ウェイターに頼み、そこにあるテーブルを使って、いちばん長くなるよう、まっすぐに並べてもらう 2006 HDVビデオ(カラー、サウンド)、PC+LCD モニター;テーブル(3台);アクリリック/カンヴァス 展示サイズ可変;ビデオ:1分43秒;カンヴァス:27.3×45.5 作家蔵 映像:パレ・ド・トーキョー付属美術研究所、ル・パヴィヨンのレジデンス・プログラムにて制作	III-5-11 田中功起 飲み代を友だちにおごってもらうために練習をする。もしそれをいちばんはやくできたらその夜はゴチになります 2006 HDVビデオ(カラー、サウンド)、PC+LCD モニター;コースター、テーブル;アクリリック/カンヴァス 展示サイズ可変;ビデオ:4秒;カンヴァス:27.3×45.5 作家蔵 映像:パレ・ド・トーキョー付属美術研究所、ル・パヴィヨンのレジデンス・プログラムにて制作
III-3-4 コーネリア・バーカー ロールシャッハ(エンドレス・コラム II) 2005 250トンの工業用プレス機で押しつぶされた14個の銀製品、針金 391.2×40.6×2.5 ギャラリー・コロン・XVI、ビルバオ	III-4-6 高柳恵里 TV 2006 カラープリント 68.6×103.0 作家蔵	III-5-6 田中功起 きみが好きな空を見るたびにぼくはいつもきみを思い出す 2006 タイプC・プリント(10点);ビルボード;アクリリック/カンヴァス 写真:各49.8×60.0;ビルボード:200.0×300.0;カンヴァス:27.3×45.5 作家蔵	III-5-12 田中功起 いくつかのプラスチックのコップを手に取り、それがすべて立つまでなんども落とす 2006 HDVビデオ(カラー、サウンド)、PC+LCD モニター;プラスチックのコップ、テーブル、テーブルクロス;アクリリック/カンヴァス 展示サイズ可変;ビデオ:40秒;カンヴァス:27.3×45.5 作家蔵 映像:パレ・ド・トーキョー付属美術研究所、ル・パヴィヨンのレジデンス・プログラムにて制作
III-3-5 コーネリア・バーカー ロールシャッハ(エンドレス・コラム III) 2006 250トンの工業用プレス機で押しつぶされた14個の銀製品、針金 426.0×41.0×2.5 協力:作家/フリス・ストリート・ギャラリー、ロンドン	III-4-7 高柳恵里 Lavatory 2006 カラープリント 68.6×102.8 作家蔵	III-5-7 田中功起 チューインガムをかみながらバリの反対まであるく 2006 タイプC・プリント(12点組);アクリリック/カンヴァス 写真:各49.8×60.0;カンヴァス:27.3×45.5 作家蔵	III-5-13 田中功起 犬小屋から額をつくる 2006 タイプC・プリント、フレーム2点、犬小屋、地図、木箱、台車;アクリリック/カンヴァス 展示サイズ可変;写真:60.0×49.8;フレーム:各35.0×44.4 作家蔵
III-3-6 コーネリア・バーカー ロールシャッハ(アクシデンタル III) 2006 250トンの工業用プレス機で押しつぶされた68個の銀製品、針金 309.0×234.0×2.5 協力:作家/フリス・ストリート・ギャラリー、ロンドン	III-4-8 高柳恵里 Effect(V字) 2006 スポットライト、カラーフィルター、ステレオサウンド、可動壁 作家蔵	III-5-8 田中功起 魔法のコップに必要なものを投げいれて消す 2006 HDVビデオ(カラー、サウンド)、PC+LCD モニター;カップ、テーブル;アクリリック/カンヴァス 展示サイズ可変;ビデオ:30秒;カンヴァス:27.3×45.5 作家蔵 映像:パレ・ド・トーキョー付属美術研究所、ル・パヴィヨンのレジデンス・プログラムにて制作	III-5-14 田中功起 犬小屋の額のための絵、柄はアラブ世界研究所で買った布より 2006 油彩、アクリリック/カンヴァス 24.2×33.3 作家蔵
III-3-7 コーネリア・バーカー ロールシャッハ(アクシデンタル IV) 2006 250トンの工業用プレス機で押しつぶされた70個の銀製品、針金 309.0×233.5×2.5 協力:作家/フリス・ストリート・ギャラリー、ロンドン	III-5-1 田中功起 あたりまえのこと、あたりまえでないこと、そしてたぶんそのほかのこと 2007 ビルボード 200.0×300.0 作家蔵 映像:パレ・ド・トーキョー付属美術研究所、ル・パヴィヨンのレジデンス・プログラムにて制作 協力:財団法人ポーラ美術振興財団、フランス政府給費奨学金 インスタレーション:国立新美術館開館記念展のための新作	III-5-9 田中功起 枝にトイレットペーパーを取りつけずばやく引きぬく 2006 HDVビデオ(カラー、サウンド)、PC+LCD モニター;トイレットペーパー、モップ、ガム	III-6-1 アンドレア・ジッテル A-Zファイバー・フォーム:黒、グレー、白のドレス 2002 ウール、3インチのスカート・ピン(2本) 156.0×54.0×35.0 協力:アンドレア・ローゼン・ギャラリー、ニューヨーク
III-4-1 高柳恵里 生花 2004 枝、花、器 展示サイズ可変 作家蔵	III-5-2 田中功起 フラックというアートセンターからなにかを見つけ出し、街のなかに持っていき、そしてノイズを起こす 2006 DVCAMビデオ(カラー、サウンド)、TVモニター+DVDプレイヤー(7セット);タイプC・プリント(11点);アクリリック/カンヴァス 展示サイズ可変;ビデオ:各6分30秒;写真:各60.0×49.8(7点)、各49.8×60.0(4点);カンヴァス:27.3×45.5 作家蔵 映像:パレ・ド・トーキョー付属美術研究所、ル・パヴィヨンのレジデンス・プログラムにて制作		III-6-2 アンドレア・ジッテル
III-4-2 高柳恵里 古着coordinate(white shirt) 2005 衣類、ハンガー、塩化ビニールシート 120.0×45.0×22.0 作家蔵	III-5-3 田中功起 オレンジをひとつ手に取りなにも考えずに放り投げしてみる		
III-4-3 高柳恵里			

A-Zファイバー・フォーム:白いドレス  
2002  
ウール、3インチのスカート・ピン(2本)  
96.5×73.7×1.9  
協力:アンドレア・ローゼン・ギャラリー、  
ニューヨーク

III-6-3  
アンドレア・ジッテル  
A-Zファイバー・フォーム:黄色、白のドレス  
2002  
ウール、3インチのスカート・ピン(2本)  
96.5×73.7×1.9  
協力:アンドレア・ローゼン・ギャラリー、  
ニューヨーク

III-6-4  
アンドレア・ジッテル  
A-Zファイバー・フォーム:オリーブ色と黒の  
シャツ  
2002  
ウール、3インチのスカート・ピン(1本)  
50.8×38.1×1.3  
協力:アンドレア・ローゼン・ギャラリー、  
ニューヨーク

III-6-5  
アンドレア・ジッテル  
A-Zファイバー・フォーム:白、金、黒のシャツ  
2002  
ウール、3インチのスカート・ピン(1本)  
50.8×38.1×1.3  
協力:アンドレア・ローゼン・ギャラリー、  
ニューヨーク

III-6-6  
アンドレア・ジッテル  
A-Zアドヴァンスト・テクノロジーズ:グリーン  
のファイバー・フォームを着て「フード・ブ  
レック・ステーション#2」で料理をする私  
2002  
グワッシュ、ペン/紙  
22.9×30.5  
協力:アンドレア・ローゼン・ギャラリー、  
ニューヨーク

III-6-7  
アンドレア・ジッテル  
A-Zアドヴァンスト・テクノロジーズ:「A-Z  
ウエスト」#3で黒のファイバー・フォームを  
着てソファに座る私  
2002  
グワッシュ、ペン/紙  
22.9×30.5  
協力:アンドレア・ローゼン・ギャラリー、  
ニューヨーク

III-6-8  
アンドレア・ジッテル  
A-Zアドヴァンスト・テクノロジーズ:A-Z  
ウエストで山を背に、グレーのファイバー・  
フォームを着る私  
2002  
グワッシュ、ペン/紙  
22.9×30.5  
協力:アンドレア・ローゼン・ギャラリー、  
ニューヨーク

III-6-9  
アンドレア・ジッテル  
A-Zウエストの裏手の岩  
2004  
グワッシュ/紙  
22.9×30.5  
協力:アンドレア・ローゼン・ギャラリー、  
ニューヨーク

III-6-10  
アンドレア・ジッテル  
2004年12月、秘密のL.A.ハウスのナイト・  
テーブルで仕事をする  
2004  
グワッシュ、ペン/紙  
22.9×30.5

協力:アンドレア・ローゼン・ギャラリー、  
ニューヨーク

III-6-11  
アンドレア・ジッテル  
お気に入りのフェルト製のボウル(手元に置  
いておきたい)  
2004  
グワッシュ、ペン/紙  
22.9×30.5  
協力:アンドレア・ローゼン・ギャラリー、  
ニューヨーク

III-6-12  
アンドレア・ジッテル  
ロウ(Rough)の規則  
2005  
エッチング、アクアチント、雁皮刷り(9点組)  
各34.3×38.1  
協力:アンドレア・ローゼン・ギャラリー、  
ニューヨーク

III-6-13  
アンドレア・ジッテル  
ロウ・デスク#3  
2005  
ACX級合板、黄麻と石膏で加工したダンボー  
ル箱、ファイバー・フォームの箱、付属品、  
フォーム・ラバーを削って作ったスツール、  
フェルトの敷物  
182.9×365.8×157.5  
協力:アンドレア・ローゼン・ギャラリー、  
ニューヨーク

III-6-14  
アンドレア・ジッテル  
シングル・ストランド・シェイプス:フォワー  
ド・モーション(大きな白い星)  
2005  
羊毛(かぎ針編み)  
285.0×215.0×0.9  
協力:アンドレア・ローゼン・ギャラリー、  
ニューヨーク

III-6-15  
アンドレア・ジッテル  
ダブル・ロウ・シェルヴィング・ユニット  
2006  
ACX級合板、黄麻と石膏で加工したダンボー  
ル箱、ファイバー・フォームの小物、付属品、  
カーペット  
part 1:177.8×175.3×18.4 / part 2:  
177.8×121.9×30.5  
協力:アンドレア・ローゼン・ギャラリー、  
ニューヨーク

III-6-16  
アンドレア・ジッテル  
シングル・ストランド・シェイプス:フォワー  
ド・アンド・バックモーション(オリーブ色と  
金色)  
2006  
羊毛(かぎ針編み)  
88.9×165.1×0.3  
協力:アンドレア・ローゼン・ギャラリー、  
ニューヨーク

III-6-17  
アンドレア・ジッテル  
サフィシエント・セルフ  
2004  
パワーポイント  
協力:アンドレア・ローゼン・ギャラリー、  
ニューヨーク

## 黒川紀章展 — 機械の時代から生命の時代へ KISHO KUROKAWA: From the Age of the Machine to the Age of Life

本展では、国立新美術館の設計者である建築家・黒川紀章の主要作を回顧するとともに、現在取り組んでいる世界各国の最新プロジェクトをユニークな模型や映像を用いて紹介した。黒川紀章はCIAM(近代建築国際会議)の崩壊以後、1959年に「機械の時代から生命の時代へ」の時代の転換を宣言し、1960年にはメタボリズムグループの運動に参加、以来約半世紀、一貫して生命の時代の建築・都市の研究、創造に挑戦してきた。国立新美術館開館を記念して開催された本展では、メタボリズム、共生、リサイクル、エコロジー、生態系、情報といった黒川紀章が1960年代から提起し続けているテーマにスポットを当てながら、現代建築・都市の将来を展望した。

As well as showcasing the major works of Kisho Kurokawa, the architect who designed The National Art Center, Tokyo, this exhibition uses distinctive models and video footage to introduce the latest projects that Kurokawa is working on around the world. After the collapse of the International Congress of Modern Architecture (CIAM), in 1959 Kurokawa declared a change of era “from the age of the machine to the age of life,” and in 1960 he took part in the Metabolism Group’s activities. In the half-century since, he has consistently strived to research and create the architecture and cities of the age of life. Shedding light on metabolism, symbiosis, recycling, ecology, ecosystems, and information—themes that he has pursued since the 1960s—the exhibition points the way to the future of modern architecture and urban spaces.

会期:平成19(2007)年1月21日(日)~3月19日(月)

日数:51日

会場:国立新美術館 展示室2C、2D

入場者数:166,793人(1日平均3,270人)

入場:無料

主催:国立新美術館、黒川紀章展実行委員会

協賛:鹿島建設株式会社、大成建設株式会社、清水建設株式会社、株式会社大林組、株式会社 竹中工務店、株式会社 鴻池組、株式会社 丹青社、株式会社 鈴木組、大木建設株式会社、株式会社 関電工、株式会社 きんでん、株式会社 三晃空調、斎久工業株式会社、ダイダン株式会社、トステム株式会社、三協立山アルミ株式会社、新日軽株式会社、文化シャッター株式会社、三和シャッター工業株式会社、株式会社 日鋼サッシュ製作所、オイレス工業株式会社、松下電工株式会社、三菱電機ビルテクノサービス、株式会社 守谷輸送機工業株式会社、石川島運搬機械株式会社、カヤバ工業株式会社、関ヶ原石材株式会社、矢橋大理石株式会社、日本板硝子株式会社、株式会社 サンゲツ、株式会社 タジマ、株式会社 岡村製作所、株式会社 イトーキ、コクヨオフィスシステム株式会社、コクヨファニチャー株式会社、株式会社 クマヒラ、金剛株式会社、株式会社 ビービーエム・コーポレーション、株式会社 ユニオン、株式会社 スズオカ、日本ヒルティ株式会社、前田造園土木株式会社、株式会社 カギオカ、株式会社 パシフィックコンサルタンツインターナショナル、日本ゴンドラ株式会社、株式会社 佐藤渡辺、綿平鋼機株式会社、藤本鉄工株式会社、ヤナイ陶業株式会社、旭中部資材株式会社、株式会社 マルエム商会、株式会社 朝日興産、合資会社 坂井正記商店、株式会社 日本電装、平松装備株式会社

講演会等:

### ● シリーズ講演会「現代建築の可能性」

Lecture series “Possibilities of Modern Architecture”

- ・1月22日(月) 16時~18時 チャールズ・ジェンクス(建築家・評論家)
- ・1月23日(火) 16時~18時 黒川紀章(建築家)、馬場璋造(建築評論家)、山本理顕(建築家)
- ・1月24日(水) 16時~18時 黒川紀章(建築家)、團紀彦(建築家)
- ・2月9日(金) 18時~20時 「中銀カプセルタワー」  
黒川紀章(建築家)、兼松紘一郎(建築家・Docomomo Japan)、川向正人(東京理科大学工学部教授)
- ・2月16日(金) 18時~20時 ジャック・プリング(建築家・RIBA会長)
- ・3月3日(土) 16時~18時 鄭時齡(建築家・前同済大学副学長)
- ・3月10日(土) 16時~18時 「共生都市」 黒川紀章(建築家)
- ・3月16日(金) 18時~20時 ベーター・シュマル(ドイツ建築博物館館長)
- ・3月17日(土) 14時~16時 ロバート・アイビー(Architectural Record編集長)

会場:国立新美術館 講堂

協賛:サントリー美術館、森アーツセンター

参加者数:1,803人(全9回)

### ● 黒川紀章キーワードライブ KISHO KUROKAWA KEYWORD LIVE

- ・1月28日(日) トーク「ヴィジョンの復権」 黒川紀章、團紀彦、竹村牧男
- ・2月3日(土) リレートーク「黒川紀章をめぐる」 黒川紀章、若尾文子、阿部知代、蛭川有紀
- ・2月4日(日) ワークショップ「The Macaroni of the Macaroni」  
日比野克彦、黒川紀章
- ・2月10日(土) 紅白俳句合戦 佐伯順子、椎名桜子、かいぶつ句会



ミニ・コンサート 高遠彩子、三上敏視／サエキけんぞう、窪田晴男

- ・2月11日(日) トーク「呼吸する建築」 兼松紘一郎、中谷正人、井坂幸恵、河原敏文
- ・2月17日(土) トーク「美の王道」 千住博、浅田彰、黒川紀章
- ・2月18日(日) ダンス 黒田育世、松本じろ  
トーク「20世紀を漂流した舞踊団」 芳賀直子、黒田育世、黒川紀章
- ・2月24日(土) パフォーマンス「ダンスDAY」 岡本真理子、まことクラヴ、ニブロール
- ・2月25日(日) トーク「建築の可能性」 若林広幸、遠藤秀平  
少年書家ライブ 高橋卓也
- ・3月3日(土) トーク「黒川紀章の風景」  
マリ・クリスティーン、稲越功一、黒川紀章
- ・3月4日(日) トーク「情報と語り」 中島信也、神田陽子、黒川紀章  
講談 神田陽子
- ・3月10日(土) トーク「人はどうして移動するのか」  
中島信也、山口智子、黒川紀章  
ワークショップ「道であそぼう」 曾我部昌史
- ・3月11日(日) トーク「灰色＝バラ色」 香山リカ、内藤ルネ  
各日13時30分～  
会場：国立新美術館 展示室2C、2D  
運営委員：日比野克彦、團紀彦、マリ・クリスティーン、榎本了吉  
協力：日本文化デザインフォーラム  
企画・プロデュース：榎本了吉  
協賛：東建コーポレーション株式会社  
参加者数：5,223人(全13回)

カタログ：『黒川紀章展 - 機械の時代から生命の時代へ』  
A4判、36ページ、図版カラー91点・白黒13点

関連記事：

朝日新聞／平成19(2007)年1月23日／西田健作  
他 多数



2月9日 シリーズ講演会

## 黒川紀章展 出品リスト

【凡例】  
リストは、以下の順番です。  
題(設計年-竣工年)  
制作年  
サイズ(単位:mm)  
縮尺  
技法/材質  
所蔵

### 【模型】

農村都市計画  
1995年  
1840×1840×100  
1:5500  
木、真鍮

東京計画1961-Helix計画  
1996年  
1800×1500×1785  
1:1000  
木、アルミニウム

霞ヶ浦計画  
1996年  
1600×3000×265  
1:1000  
木、アルミニウム

山形ハイドリームランド  
1996年  
1600×1000×200  
1:160  
木、アルミニウム

EXPO'70 東芝・IH館  
1996年  
2500×2700×2600  
1:5  
木

クアラルンプール新国際空港HPシェル模型  
1996年  
3800×2400×1500  
1:20  
アルミニウム、FRP、木、スチール、真鍮

クアラルンプール新国際空港柱ディテール模型  
1993年  
φ400×600  
1:20  
スチレンフォーム、木、スチレン樹脂

New Tokyo Plan 2025  
1995年  
2100×3100×100  
1:30,000  
プロンズ

ヴァン・ゴッホ美術館新館  
1997年  
1500×1000×180  
1:200  
木、プラスチック、アルミニウム

白瀬南極探検隊記念館  
1996年  
1000×1500×340  
1:100  
木、アルミニウム

福井市立美術館  
1997年  
1000×1500×300  
1:100  
木

愛媛県総合科学博物館 1997年 1500×2400×400 1:200 木、アクリル樹脂、アルミニウム	愛媛県総合科学博物館(1991-1994) 1997年 200×100×45 1:2000 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	フュージョンボリス 2004年 200×20×150 1:1000 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	成形合板 (株)黒川紀章建築都市設計事務所所蔵
深せん市公共中心軸計画 1997年 2881×842×195 1:1000 アクリル樹脂、スタイロフォーム、アクリル樹脂塗装	ホテル京セラ(1991-1995) 1997年 230×170×136 1:500 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	寒河江市庁舎(1967) 2007年 150×110×24 1:1000 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	
K邸計画(1960) 1997年 50×50×18 1:500 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	扇観亭(1992-1993) 1997年 105×80×10 1:500 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	中銀カプセルタワービル(1972) 2007年 80×60×110 1:500 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	
カプセルハウスK 1997年 50×50×30 1:500 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	福井市美術館(1994-1996) 1997年 213×137×43 1:500 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	福岡銀行本店(1975) 2007年 105×163×110 1:500 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	
ソニータワー大阪(1972-1976) 1997年 36×24×144 1:500 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	富士宮ゴルフクラブハウス(1994-1997) 1997年 160×105×30 1:500 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	国立民族学博物館(1977) 2007年 145×200×25 1:1500 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	
埼玉県立近代美術館(1978-1982) 1997年 150×100×25 1:1000 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	大分メインスタジアム(1994-2001) 1997年 190×140×47 1:3000 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	スパッツィオ・プレラ 銀座(2005) 2006年 70×70×110 1:400 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装 (株)エスアンドエフ 所蔵	
名古屋市美術館 1997年 150×100×25 1:1000 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	豊田市スタジアム(1996-2001) 1997年 200×120×30 1:4000 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	メタモルフォーシス65(1965) 2006年 250×200×25 1:10000 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装 (株)エスアンドエフ 所蔵	
広島市現代美術館(1985-1988) 1997年 235×100×42 1:1000 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	福井県立恐竜博物館(1996-2000) 1997年 160×160×40 1:1500 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	<b>【原寸模型】</b> 大阪国際会議場のカーテンウォール方立 1997年 800×1500×3000 1:1 スチール	
白瀬南極探検隊記念館(1986-1990) 1997年 220×200×40 1:500 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	メルボルン・セントラル 1997年 170×170×170 1:1500 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	和歌山県立近代美術館のカウンター天板 1997年 1500×600×100 1:1 木、アルミ板	
小松市立本陣記念美術館(1989-1990) 1997年 85×70×26 1:500 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	リパブリック・プラザ 1997年 100×100×186 1:1500 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	国立新美術館のカーテンウォール 2005年 970×1420×1220 1:1 アルミ、ガラス	
バンフィック・タワー(1989-1992) 1997年 130×110×66 1:1500 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	山ノ内町立志賀高原ロマン美術館(1994-1997) 2000年 175×150×68 1:500 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	<b>【椅子】</b> エド ハイバックチェアー(黒) 1982年 450×502×1440 1:1 スチール、成形合板、本皮 (株)黒川紀章建築都市設計事務所所蔵	
レインクロフォード・プレイス(1990-1993) 1997年 115×100×67 1:1500 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	大阪府立国際会議場 2000年 240×220×130 1:1000 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	エド ハイバックチェアー(朱) 1982年 450×502×1440 1:1 スチール、成形合板、本皮 (株)黒川紀章建築都市設計事務所所蔵	
和歌山県立近代美術館・博物館(1990-1994) 1997年 180×180×25 1:1000 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	深せん市第二工人文化宮 2000年 250×190×20 1:2000 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	エド ハイバックチェアー(朱) 1982年 450×502×1440 1:1 スチール、成形合板、本皮 (株)黒川紀章建築都市設計事務所所蔵	
ヴァン・ゴッホ美術館新館(1990-1998) 1997年 180×130×30 1:1000 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	国立新美術館 2004年 240×40×130 1:1000 アクリル樹脂/アクリル樹脂塗装	フラクタル ハイバックチェアー 1996年 400×550×1500 1:1	

## 黒川紀章キーワードライブ 出品リスト

[凡例]

リストは、以下の順番です。

作家名

作品名

制作年

浅葉克己  
居・此・勝

浅葉克己  
雁塔聖教序 褚遂良(唐代) 楷書の臨書

荒木経惟  
女囚たち  
1965年

栗津潔  
ロックアートA

栗津潔  
ロックアートB

稲越功一  
PARIS1987(2008年パリでの個展作品)  
1987年

薄井憲二バレー・コレクション  
バレー・リュス 1929年のポスター  
1929年

大島梢  
空  
2007年

大橋年雄  
Canyon Vessel「層状」第38回日展無鑑査出  
品(2006年)  
2006年

押忍! 手芸部  
押忍! ケンネル

河原敏文  
MOBILE CG TOWER 中銀カプセルタワー  
ビルへのオマージュ  
2007年

岸啓介  
昆虫物語図鑑

木村恒久  
フォード紀元  
1992年

木村恒久  
モダンタイムス  
1994年

栗原佑美子  
TATTO dolls [b]

黒川雅之  
○ | □ / 白い太陽と曖昧な時間

サイトウマコト  
小倉工業高校100周年記念ポスター  
1999年

鮫島大輔  
Long distance 2006  
2006年

菅谷奈緒  
Tokyo City

鈴木康広  
まばたきの葉 Blinking Leaves 2003  
2003年

千住博  
フォーリングカラー

高橋卓也  
書 たかはしたくや7才

田名網敬一  
金魚の胸像A  
2004年

田名網敬一  
金魚の胸像B  
2004年

谷田一郎  
無題  
2002~2006年

芳賀直子  
バレー・リュスのデザインたち

芳賀直子  
バレー・リュスのスターダンサーたち

ハビタット  
世界ハビタット・デー記念絵画コンクール

日比野克彦  
7 to 7

松永 真  
黒川紀章オマージュ[紀章天結。]  
2007年

松永真  
黒川紀章オマージュ[都市は一線にして成  
る。]  
2007年

松永真  
黒川紀章オマージュ[ゆがみ、ゆらぎ、ふく  
み。]  
2007年

松永真  
黒川紀章オマージュ[ねずみは動物、ねずみ  
色は文化。]  
2007年

松永真  
黒川紀章オマージュ[一線に万閃あり。]  
2007年

松永真  
黒川紀章回顧展-共生の思想・機械の時代か  
ら生命の時代へ  
1997年

松永真  
黒川紀章回顧展-共生の思想・機械の時代か  
ら生命の時代へ②  
2000年

松永真  
黒川紀章回顧展-共生の思想・機械の時代か  
ら生命の時代へ③  
2000年

みかんぐみ  
Minifan(t)

山口典子  
KEITAI GIRL  
2003年

【春の画集】榎本了言俳句集の挿画

秋山育  
白い背中(春の画集)  
2006年

朝倉摂  
うさぎの夢一万依さんへ(春の画集)  
2006年

浅葉克己  
ニワズミと青瓢(春の画集)  
2006年

荒木経惟  
夏の魚(春の画集)  
2006年

栗津潔  
春の画(春の画集)  
1982年

安西水丸  
雛戯び(春の画集)  
2006年

アントワーヌ・ブーヘル  
ポートレート(春の画集)  
2006年

伊東淳  
偉人伝(春の画集)  
2006年

内田春菊  
崖の家(春の画集)  
2006年

宇野亜喜良  
さよならの薔薇刑(春の画集)  
2006年

オヤマダヨウコ  
高層のほないちもんめ(春の画集)  
2006年

カオルコ  
トラウマに乗る(春の画集)  
2006年

佐藤晃一  
さくら雨(春の画集)  
2006年

しりあがり寿  
時雨坂[チボー家](春の画集)  
2006年

杉谷知香  
大きな紅椿の木(春の画集)  
2006年

千住博  
冬の骨ーブセオ兄へ(春の画集)  
2006年

田名網敬一  
しりとり遊び(春の画集)  
2006年

田中修一郎  
なごり雪のレニ(春の画集)  
2006年

谷口広樹  
彼岸岬(春の画集)  
2006年

束芋  
熱帯魚の部屋(春の画集)  
2006年

椿昇  
ねむり姫くぐり(春の画集)  
2006年

寺門孝之  
果樹園の檻(春の画集)  
2006年

蛭川有紀  
ナナカマド祭(春の画集)  
2006年

日比野克彦  
屋上のアワダチ草(春の画集)  
2006年

松永真  
雨の方舟(春の画集)  
2006年

丸亀敏邦  
風の宵宮(春の画集)  
2006年

森村泰昌  
ピアノ弾きの指(春の画集)  
2006年

矢吹申彦  
帰り路のネコバス(春の画集)  
2006年

山口 椿  
タトゥ銀河系(春の画集)  
2006年

山本容子  
火曜日のタンポポ(春の画集)  
2006年

湯村輝彦  
蝶服記-寺山修司に(春の画集)  
2006年

## 文化庁メディア芸術祭10周年企画展 日本の表現力 Japan Media Arts Festival 10th Anniversary Exhibition: The Power of Expression, JAPAN

本展は、新しい表現領域であるメディア芸術の振興を目的として1997年から開催されている「文化庁メディア芸術祭」の10周年を記念して、企画、開催された。「日本の表現力」をテーマに、デジタルアートからゲーム、ロボット、アニメ、マンガにまで広がる「日本のメディア芸術」を、現在・過去・未来の3つの視点で紹介。展示構成は、江戸から縄文時代にまでさかのぼり日本のメディア芸術の源流を探る「(1)表現の源流」、1950年から現在までの日本のメディア芸術の軌跡を紹介する「(2)日本のメディア芸術1950-2006」、日本のメディア芸術の未来を展望する「(3)未来への可能性」の3部構成とした。さらに、メディア芸術の第一人者らによる「シンポジウム」や「記念ライブ」、「トークセッション」などのイベントを開催したほか、会場内の「特設シアター」では会場でしか観られない特別プログラムを上映した。

This exhibition was held to commemorate the 10th anniversary of the Japan Media Arts Festival, which has been held by the Agency for Cultural Affairs since 1997 with the aim of promoting the new expressive discipline of media arts. Under the theme of “The Power of Expression, JAPAN,” the event introduced Japanese media arts, which cover a wide span from digital art to video games, robots, anime, and manga, from the perspectives of the past, the present, and the future. The exhibition consisted of three sections: “Sources of Expression - Origin of Japanese Media Arts,” exploring the origins of Japanese media arts from the Edo period back to the Jomon period; “Japanese Media Arts from 1950 to 2006,” introducing the course that Japanese media arts have taken since 1950; and “Future Possibilities - fusion of dream and technology,” presenting a vision of the future of Japanese media arts. Other events included a symposium featuring leading figures in media arts, a commemorative live performance, and a talk session, and the venue also featured a special theater screening an exclusive program of visual content.

会期:平成19(2007)年1月21日(日)~2月4日(日)

日数:14日

会場:国立新美術館 展示室2A、2B

入場者数:52,093人(1日平均3,721人)

入場:無料

主催:文化庁メディア芸術祭実行委員会(文化庁、CG-ARTS協会)、国立新美術館

関連事業:

### ●シンポジウム「メディア芸術ってなに？」

日時:1月26日(金)16時30分~18時

出演:テリー伊藤(演出家)、富野由悠季(アニメーション監督)、浜野保樹(東京大学大学院教授)ほか

会場:国立新美術館 講堂

参加者数:227人

### ●ライブ「installation of RAPiLLD i MOVEMENT#2」

Sound by iLL+勝井祐二 installation by UKAWA NAOHIRO

日時:1月28日(日)18時30分~19時30分

会場:国立新美術館 地下1階特設会場

参加者数:121人

### ●「明和電機ライブ2007 六本木メカトロニカ」

日時:2月3日(土)14時30分~16時、18時30分~20時

出演:明和電機

会場:国立新美術館 講堂

参加者数:446人(全2回)

### ●トークセッション

#### ・「メディアで何を表現するのか」

日時:1月29日(月)16時30分~17時30分

モデレーター:浜野保樹(東京大学大学院教授)

会場:国立新美術館 講堂

参加者数:141人

#### ・「少女マンガの30年」

日時:1月31日(水)16時30分~17時30分

モデレーター:里中満智子(マンガ家)

会場:国立新美術館 講堂

参加者数:227人

#### ・「映画・PV・CM—時代を映し続ける映像の魅力」

日時:2月1日(木)14時~15時

モデレーター:中島信也(CMディレクター)

会場:国立新美術館 講堂

参加者数:253人

#### ・「メディアと添い寝するクリエイティブ」

日時:2月4日(日)14時~15時

モデレーター:宇川直宏(京都造形芸術大学 教授)

会場:展示室内特設シアター

参加者数:71人

カタログ:『文化庁メディア芸術祭10周年企画展「日本の表現力」メモリアルブック』

A5判、144ページ、図版カラー203点・白黒63点

関連記事:

朝日新聞／平成19(2007)年1月24日

他 多数



1月26日 シンポジウム

文化庁メディア芸術祭10周年  
企画展 日本の表現力  
出品リスト

山口勝弘 『ヴィトリース』 1950年代 アート	監督:飯沢匡 『ビールむかしむかし』 1950年代 アニメ	横山光輝 『鉄人28号』 1950年代 マンガ
辻彩子・石元泰博・大辻清司 『キネカリグラフ』 1950年代 アート	監督:大藤信郎 『幽霊船』 1950年代 アニメ	手塚治虫 『鉄腕アトム(1951年はアトム大使)』 1950年代 マンガ
村上三郎 『通過』 1950年代 アート	株式会社 増田屋コーポレーション 『ミルク飲み人形(カール人形)』 1950年代 エンタ	手塚治虫 『火の鳥』 1950年代 マンガ
田中敦子 『電気服』 1950年代 アート	株式会社 エボック社 『野球盤』 1950年代 エンタ	上田トシコ(旧:としこ) 『フィチンさん』 1950年代 マンガ
白髪一雄 『泥にいどむ』 1950年代 アート	監督:本多猪四郎 特殊技術:円谷英二 『ゴジラ』 1950年代 エンタ	手塚治虫 『リボンの騎士』 1950年代 マンガ
勅使河原蒼風 『ひまわり』 1950年代 アート	株式会社 桃屋 江戸むらさき『のり平の國定忠治篇』 1950年代 エンタ	CTG(Computer Technique Group) 自動描画装置『APM no.1』 1960年代 アート
田中敦子 『ベル』 1950年代 アート	三共株式会社(現:第一三共ヘルスケア株式会社) ルル『クシャミ三回ルル三銃』 1950年代 エンタ	作家:赤瀬川原平・高松次郎・中西夏之 撮 影:平田實 『首都圏清掃整備促進運動』 1960年代 アート
棟方志功 『湧然する女者達々』 1950年代 アート	服部時計店(現:セイコー株式会社) 精工舎『目覚まし時計』 1950年代 エンタ	オノ・ヨーコ 『天井の絵 / Ceiling Painting』 1960年代 アート
演出:田中喜次・持永只仁 『瓜子姫とあまのじゃく』 1950年代 アニメ	武内つなよし 『赤胴鈴之助』 1950年代 マンガ	松本俊夫 『薔薇の葬列』 1960年代 アート
監督:大藤信郎 『くじら』 1950年代 アニメ	福井英一 『イガグリくん』 1950年代 マンガ	草間彌生 『ホースプレイ』 1960年代 アート
原作:横山美智子 演出:政岡憲三 『くもとちゅうりっぷ』 1950年代 アニメ	永松健夫 『黄金バット』 1950年代 マンガ	ナム・ジュン・バイク 『ロボットK-456』 1960年代 アート
原作:木下秋夫 演出:薮下泰司 『こねこのらくがき』 1950年代 アニメ	手塚治虫 『来るべき世界』 1950年代 マンガ	原作:梶原一騎(作) 川崎のぼる(画) 『巨人の星』 1960年代 アニメ
演出:田中喜次・持永只仁 『こぶとり』 1950年代 アニメ	原作:川内康範 画:桑田次郎 『月光仮面』 1950年代 マンガ	原作:水木しげる 『ゲゲゲの鬼太郎』 1960年代 アニメ
原作:壇一雄 演出:薮下泰司・大工原章 『少年猿飛佐助』 1950年代 アニメ	長谷川町子 『サザエさん』 1950年代 マンガ	原作:石ノ森章太郎 『サイボーグ009』 1960年代 アニメ
原作:政岡憲三 『すて猫トラちゃん』 1950年代 アニメ	手塚治虫 『ジャングル大帝』 1950年代 マンガ	原作:手塚治虫 『ジャングル大帝』 1960年代 アニメ
原案:上原信 演出:薮下泰司 『白蛇伝』 1950年代 アニメ	山川惣治 『少年ケニヤ』 1950年代 マンガ	演出:高畑勲 『太陽の王子ホルスの大冒険』 1960年代 アニメ
監督・原画:横山隆一 『ひょうたんすずめ』 1950年代 アニメ	手塚治虫 『罪と罰』 1950年代 マンガ	原作:手塚治虫 『鉄腕アトム』 1960年代

【凡例】  
リストは、以下の順番です。  
作家名/制作者名  
作品名  
年代  
ジャンル

アニメ	マンガ	1970年代 アート	エンタ
原作:シャルル・ペロー 演出:矢吹公郎 『長靴をはいた猫』 1960年代 アニメ	赤塚不二夫 『おそ松くん』 1960年代 マンガ	山本圭吾 『ビデオゲーム・五目並べ』 1970年代 アート	株式会社 トミー (現・株式会社 タカラトミー) 『黒ひげ危機一髪』 1970年代 エンタ
原作:さかいさぶろう 『妖怪人間ベム』 1960年代 アニメ	白土三平 『カムイ外伝』 1960年代 マンガ	坂根巖夫 ひろがる視覚世界『遊びの博物館』 1970年代 アート	株式会社 タイター 『スペースインベーダー』 1970年代 エンタ
原作:手塚治虫 『リボンの騎士』 1960年代 アニメ	白土三平 『カムイ伝』 1960年代 マンガ	松本俊夫 『メタスタシス <新陳代謝>』 1970年代 アート	株式会社 バンダイ 『超合金マジンガー Z』 1970年代 エンタ
株式会社 タカラ (現:株式会社 タカラトミー) 『人生ゲーム』 1960年代 エンタ	原作:梶原一騎 画:川崎のぼる 『巨人の星』 1960年代 マンガ	松本俊夫 『モナ・リザ』 1970年代 アート	株式会社 サンリオ 『ハローキティ』 1970年代 エンタ
株式会社 河田 『ダイヤブロック』 1960年代 エンタ	さいとう・たかを 『ゴルゴ13』 1960年代 マンガ	原作:ヨハンナ・シュビリ 『アルプスの少女ハイジ』 1970年代 アニメ	株式会社 ロッテ 『ビックリマンどっきりシール』 1970年代 エンタ
株式会社 トミー (現:株式会社 タカラトミー) 『電動プラ自動車セット』 1960年代 エンタ	石ノ森章太郎 『サイボーグ009』 1960年代 マンガ	"企画・原案・プロデューサー:西崎義展 監督・設定デザイン:松本零士" 『宇宙戦艦ヤマト』 1970年代 アニメ	原作:石ノ森章太郎 監督:竹本弘一 『仮面ライダー』 1970年代 エンタ
株式会社 タカラ (現:株式会社 タカラトミー) 『リカちゃん』 1960年代 エンタ	ちばてつや 『紫電改のタカ』 1960年代 マンガ	原作:斎藤惇夫 『ガンバの冒険』 1970年代 アニメ	原作:石ノ森章太郎 監督:竹本弘一 『秘密戦隊ゴレンジャー』 1970年代 エンタ
製作:株式会社 円谷プロダクション 『ウルトラQ』 1960年代 エンタ	石ノ森章太郎 『章太郎のファンタジーワールド ジュン』 1960年代 マンガ	原作:矢立肇・富野由悠季 監督:富野由悠季 『機動戦士ガンダム』 1970年代 アニメ	明治製菓株式会社 明治製菓『あなたにもチェルシーあげたい』 1970年代 エンタ
製作:株式会社 円谷プロダクション 『ウルトラマン』 1960年代 エンタ	赤塚不二夫 『天才バカボン』 1960年代 マンガ	原作:松本零士 『銀河鉄道999』 1970年代 アニメ	日本国有鉄道(現・東海旅客鉄道株式会社) 国鉄『いい日旅立ちキャンペーン』 1970年代 エンタ
銀座文明堂・新宿・横浜 文明堂カステラ『仔ガマのカンカンダンス』 1960年代 エンタ	藤子・F・不二雄 『ドラえもん』 1960年代 マンガ	原作:藤子・F・不二雄 『ドラえもん』 1970年代 アニメ	東陶機器株式会社 ウォッシュレット『お尻だって、洗ってほしい』 1970年代 エンタ
丸大食品株式会社 丸大ハム『わんぱくでもいい、たくましく育てほしい』 1960年代 エンタ	つげ義春 『ねじ式』 1960年代 マンガ	企画製作:川内彩友美・愛企画センター 『まんが日本昔ばなし』 1970年代 アニメ	大和和紀 『あさきゆめみし』 1970年代 マンガ
株式会社 レナウン レナウン『イエイエ』 1960年代 エンタ	水木しげる 『墓場の鬼太郎』 1960年代 マンガ	原作:アレグサンダー・ケイ 『未来少年コナン』 1970年代 アニメ	ジョージ秋山 『アシュラ』 1970年代 マンガ
高森朝雄・ちばてつや 『あしたのジョー』 1960年代 マンガ	牧美也子 『マキの口笛』 1960年代 マンガ	原作:モンキー・パンチ 『ルパン三世』 1970年代 アニメ	里中満智子 『アリエスの乙女たち』 1970年代 マンガ
浦野千賀子 『アタックNo.1』 1960年代 マンガ	横山光輝 『魔法使いサリー』 1960年代 マンガ	原作:モンキー・パンチ 監督:宮崎 駿 『ルパン三世 カリオストロの城』 1970年代 アニメ	高橋留美子 『うる星やつら』 1970年代 マンガ
ちばてつや 『1・2・3と4・5・ロク』 1960年代 マンガ	望月三起也 『ワイルド7』 1960年代 マンガ	株式会社 メガハウス (発売時:株式会社 ツクダ) 『オセロ』 1970年代 エンタ	山本鈴美香 『エースをねらえ』 1970年代 マンガ
原作:平井和正 画:桑田次郎 『8マン』 1960年代	ナム・ジュン・バイク 『ジョン・ケージに捧ぐ』 1970年代 アート	キャニオンレコード (現:株式会社 ボニーキャニオン) 『およげ! たいやきくん』 1970年代	山上たつひこ 『がきデカ』 1970年代 マンガ
	岡本太郎 『太陽の塔』		

竹宮恵子 『風と木の詩』 1970年代 マンガ	寺山修司・谷川俊太郎 『寺山修司&谷川俊太郎-ビデオ・レター』 1980年代 アート	株式会社 アルマン (現:マルマンバイオ株式会社) 禁煙バイボ『私はこれで会社をやめました』 1980年代 エンタ	マンガ ヤノベケンジ 『アトムスーツプロジェクト』 1990年代 アート
美内すずえ 『ガラスの仮面』 1970年代 マンガ	原作・監督:大友克洋 『AKIRA』 1980年代 アニメ	株式会社 小学館 小学館『ピッカピカの一年生』 1980年代 エンタ	岩井俊雄 『映像装置としてのピアノ』 1990年代 アート
ちばあきお 『キャプテン』 1970年代 マンガ	原作・監督:宮崎駿 『風の谷のナウシカ』 1980年代 アニメ	ソニーマーケティング株式会社 SONY ウォークマン『'87さる篇』 1980年代 エンタ	原田大三郎 NHKスペシャル『驚異の小宇宙 人体2 脳と心』 1990年代 アート
秋本治 『こちら葛飾区亀有公園前派出所』 1970年代 マンガ	企画・原作:ヘッドギア 原案:ゆうきまさみ 監督:押井守 『機動警察パトレイバー』 1980年代 アニメ	大友克洋 『AKIRA』 1980年代 マンガ	八谷和彦 『視聴覚交換マシン』 1990年代 アート
横山光輝 『三国志』 1970年代 マンガ	原作:田中芳樹 監督:石黒昇 『銀河英雄伝説』 1980年代 アニメ	宮崎 駿 『風の谷のナウシカ』 1980年代 マンガ	明和電機 『魚器(NAKI)シリーズ』 1990年代 アート
水島新司 『ドカベン』 1970年代 マンガ	原作:鳥山明 『ドラゴンボールシリーズ』 1980年代 アニメ	岩明均 『寄生獣』 1980年代 マンガ	明和電機 『明和電機ライブパフォーマンス』 1990年代 アート
模図かずお 『漂流教室』 1970年代 マンガ	株式会社 バンダイ 『機動戦士ガンダムプラモデルシリーズ』 1980年代 エンタ	高橋陽一 『キャプテン翼』 1980年代 マンガ	岸啓介 『愉快な機械』 1990年代 アート
手塚治虫 『ブラック・ジャック』 1970年代 マンガ	任天堂株式会社 『ゲーム&ウォッチ』 1980年代 エンタ	荒木飛呂彦 『ジョジョの奇妙な冒険』 1980年代 マンガ	企画・原作:ヘッドギア 原案:ゆうきまさみ 監督:押井守 『機動警察パトレイバー2 the Movie』 1990年代 アニメ
池田理代子 『ベルサイユのばら』 1970年代 マンガ	任天堂株式会社 『ゲームボーイ』 1980年代 エンタ	あだち充 『タッチ』 1980年代 マンガ	原作:士郎正宗 監督:押井守 『GHOST IN THE SHELL 攻殻機動隊』 1990年代 アニメ
萩尾望都 『ポーの一族』 1970年代 マンガ	任天堂株式会社 『スーパーマリオブラザーズ』 1980年代 エンタ	柴門ふみ 『東京ラブストーリー』 1980年代 マンガ	監督:庵野秀明 『新世紀エヴァンゲリオン』 1990年代 アニメ
鴨川つばめ 『マカロニほうれん荘』 1970年代 マンガ	任天堂株式会社 『ゼルダの伝説』 1980年代 エンタ	佐々木倫子 『動物のお医者さん』 1980年代 マンガ	原作:井上雄彦 『スラムダンク』 1990年代 アニメ
モンキー・パンチ 『ルパン三世』 1970年代 マンガ	株式会社 エニックス (現:株式会社 スクウェア・エニックス) 『ドラゴンクエスト』 1980年代 エンタ	鳥山明 『DRAGON BALL』 1980年代 マンガ	原作:武内直子 『美少女戦士セーラームーン』 1990年代 アニメ
大島弓子 『緋の国星』 1970年代 マンガ	株式会社 エニックス (現:株式会社 スクウェア・エニックス) 『ドラゴンクエストIII そして伝説へ…』 1980年代 エンタ	吉田秋生 『BANANA FISH』 1980年代 マンガ	原作・脚本・監督:宮崎駿 『もののけ姫』 1990年代 アニメ
立花ハジメ 『アルプス一号__ライブ太陽さん』 1980年代 アート	株式会社 スクウェア (現:株式会社 スクウェア・エニックス) 『ファイナルファンタジー』 1980年代 エンタ	岡崎京子 『pink』 1980年代 マンガ	原作:矢立肇 『勇者エクスカイザー(勇者シリーズ)』 1990年代 アニメ
河口洋一郎 『GROWTH: Mysterious Galaxy』 1980年代 アート	任天堂株式会社 『ファミリーコンピュータ』 1980年代 エンタ	三浦建太郎 『ベルセルク』 1980年代 マンガ	原作:尾田栄一郎 『ワンピース』 1990年代 アニメ
岩井俊雄 『時間層II』 1980年代 アート	株式会社 タミヤ 『ミニ四駆』 1980年代 エンタ	作:武論尊 画:原哲夫 『北斗の拳』 1980年代 マンガ	株式会社 ソニー・コンピュータエンタテインメント 『グランツーリスモ』 1990年代 エンタ
坂本龍一+ラディカルTV・浅田彰 『TV WAR』 1980年代 アート		高橋留美子 『めぞん一刻』 1980年代	

株式会社 カブコン 『ストリートファイターⅡ』 1990年代 エンタ	1990年代 マンガ  浦沢直樹 『MONSTER』 1990年代 マンガ	原作:士郎正宗 『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX』 2000年代 アニメ	JR東日本『Suicaと私 篇』 2000年代 エンタ
株式会社 バンダイ 『たまごっち』 1990年代 エンタ	富樫義博 『幽☆遊☆白書』 1990年代 マンガ	原作:谷川流 監督:石原立也 『涼宮ハルヒの憂鬱』 2000年代 アニメ	サントリー株式会社 サントリー『伊右衛門』 2000年代 エンタ
株式会社 カブコン 『バイオハザード』 1990年代 エンタ	尾田栄一郎 『ONE PIECE』 1990年代 マンガ	原作・監督:宮崎駿 『千と千尋の神隠し』 2000年代 アニメ	森薫 『エマ』 2000年代 マンガ
株式会社 スクウェア (現:株式会社 スクウェア・エニックス) 『ファイナルファンタジーVII』 1990年代 エンタ	発智和宏 『アニマ』 2000年代 アート	原作:荒川弘 『鋼の錬金術師』 2000年代 アニメ	ひぐちアサ 『おおきく振りかぶって』 2000年代 マンガ
株式会社 ソニー・コンピュータエンタテインメント 『プレイステーション』 1990年代 エンタ	八谷和彦 『オープンスカイ』 2000年代 アート	原作:荒川弘 『鋼の錬金術師 シャンバラを征く者』 2000年代 アニメ	原作:大場 つぐみ 画:小畑 健 『DEATH NOTE』 2000年代 マンガ
株式会社 ポケモン 『ポケットモンスター』 1990年代 エンタ	久野ギル 『Six String Sonics, The』 2000年代 アート	原作:東堂いつみ 『ふたりはプリキュア』 2000年代 アニメ	二ノ宮知子 『のだめカンタービレ』 2000年代 マンガ
コナミ株式会社 『メタルギア ソリッド』 1990年代 エンタ	中居伊織 『streetscape』 2000年代 アート	原作・監督:新海誠 『ほしのこえ』 2000年代 アニメ	荒川弘 『鋼の錬金術師』 2000年代 マンガ
NEC NEC『バザールでござーる』 1990年代 エンタ	児玉幸子・竹野美奈子 『突き出す、流れる』 2000年代 アート	原作:漆原友紀 『蟲師』 2000年代 アニメ	井上雄彦 『バガボンド』 2000年代 マンガ
東海旅客鉄道株式会社 JR東海『そだ 京都、行こう。』 1990年代 エンタ	クワクボリョウタ 『デジタル・ガジェット 6, 8, 9 (loopscape, Heaven seed, Duper/Looper)』 2000年代 アート	株式会社スクウェア (現:株式会社 スクウェア・エニックス) 『ファイナルファンタジー X』 2000年代 エンタ	浦沢直樹×手塚治虫 プロデューズ:長崎尚志 監督:手塚眞 協力:手塚プロダクション 『PLUTO』 2000年代 マンガ
株式会社 セガ セガ『立つんだ! 湯川専務』 1990年代 エンタ	岩井俊雄+ヤマハ 『TENORI-ON』 2000年代 アート	株式会社 ソニー・コンピュータエンタテインメント 『プレイステーション 2』 2000年代 エンタ	漆原友紀 『蟲師』 2000年代 マンガ
あずまきよひこ 『あずまんが大王』 1990年代 マンガ	宮島達男+立花ハジメ 『1000 DeathClock in Paris』 2000年代 アート	ボエ山 『ゴノレゴシリーズ』 2000年代 エンタ	あずまきよひこ 『よつぱと!』 2000年代 マンガ
藤田和日郎 『うしおととら』 1990年代 マンガ	監督(作画監督):山村浩二 『頭山』 2000年代 アニメ	真島理一郎 『スキージャンプ・ヘア オフィシャルDVD』 2000年代 エンタ	鈴木太朗 『青の軌跡』 未来 未来
井上雄彦 『SLAM DUNK』 1990年代 マンガ	原作:桑島由一/イラスト:ヤスダスズヒト 『神様家族』 2000年代 アニメ	株式会社 ミクシィ 『mixi』 2000年代 エンタ	タナカカツキ 『イエス☆パノラマ! 360°』 未来 未来
武内直子 『美少女戦士セーラームーン』 1990年代 マンガ	原作:ベサメムーチョ 『かみちゅ!』 2000年代 アニメ	NHK・佐藤雅彦・内野真澄・慶應義塾大学 佐藤雅彦研究室 『ピタゴラスイッチ』 2000年代 エンタ	河川洋一郎 『凹凸ジェモーションスクリーン』 未来 未来
高屋奈月 『フルーツバスケット』 1990年代 マンガ	原作:臼井儀人 監督:原恵一 『クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶアッパレ! 戦国大合戦』 2000年代 アニメ	ラレコ 『やわらか戦車』 2000年代 エンタ	未来 未来
平野耕太 『HELLSING』 1990年代 マンガ	原作:臼井儀人 監督:原恵一 『クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶモーレツ! オトナ帝国の逆襲』 2000年代 アニメ	キュービー株式会社 キュービーマヨネーズ『Speed!』 2000年代 エンタ	minim++ 『KAGE 2007』 未来 未来
青山剛昌 『名探偵コナン』		東日本旅客鉄道株式会社	平川紀道 『GLOBAL BEARING』 未来 未来

寛康明+苗村健+松下光範 [Tablescape Plus] 未来 未来	写し絵種板「官女」 源流 アニメーション	鼠の親子 源流 フィギュア	袋に肘をつく布袋 源流 フィギュア
nendo [hanabi] 未来 未来	写し絵種板「鎧武者」 源流 アニメーション	箒に鼠 源流 フィギュア	永貞 鬼面 源流 フィギュア
エキソニモ [FragMental Storm 07] 未来 未来	写し絵幻灯機(風呂) 源流 アニメーション	兎の親子 源流 フィギュア	明珍宗察 自在龍置物 源流 フィギュア
Masaki Yagisawa+MONGOOSE [fuwapica suite] 未来 未来	写し絵種板「金閣寺」 源流 アニメーション	犬を捕える鷺 源流 フィギュア	弓矢童子 源流 ロボット
ヤノベケンジ+三宅一生 [クイーン・マンマ] 未来 未来	写し絵種板「天神祭」 源流 アニメーション	狐 源流 フィギュア	光琳かるた 源流 ゲーム
児玉幸子 [モルフォタワー /呼吸するカオス] 未来 未来	写し絵種板「巖島」 源流 アニメーション	狼 源流 フィギュア	画:歌川国貞Ⅲ/版:井上吉次郎 凌雲閣機繪双六 源流 ゲーム
榊原機械株式会社 [ランドウォーカー] 未来 未来	写し絵種板「龍」 源流 アニメーション	蘭一 犬 源流 フィギュア	画:歌川国貞Ⅲ/版:福田熊次郎 世進電話双六 源流 ゲーム
モリワキヒロユキ [Lake Awareness] 未来 未来	写し絵種板「大名行列」 源流 アニメーション	玉と遊ぶ犬 源流 フィギュア	作:長谷川誠也/発行:博文館 電車双六 源流 ゲーム
鳥獣人物戯画卷 甲巻 源流 マンガ	写し絵種板「花魁道中」 源流 アニメーション	獅子 源流 フィギュア	画:砂川星路/案:石黒露雄/発行:博文館 少女ラヂオ放送双六 源流 ゲーム
十返舎一九 夜眼遠目笠之内 源流 マンガ	小林源次郎・小林綾子 うつしゑ史 源流 アニメーション	正直 腹鼓を打つ狸 源流 フィギュア	編:原田三夫他/発行:子供の科学社 ラヂオ双六 源流 ゲーム
作:十返舎一九/画:喜多川月麿 紅毛影絵於都里岐 源流 アニメーション	小林源次郎 うつしゑ 追捕 源流 アニメーション	人魚 源流 フィギュア	
溪斎英泉 浮絵新吉原櫻盛之図 源流 アニメーション	ゾートローブ"BABYTALKY" 源流 アニメーション	猿 源流 フィギュア	
不詳 浮絵 源流 アニメーション	土偶 源流 フィギュア	猿まわし 源流 フィギュア	
反射式のぞき眼鏡 源流 アニメーション	観音菩薩立像 源流 フィギュア	琴流斎 騎馬人物の一行 源流 フィギュア	
製造:池田 のぞきからくり 源流 アニメーション	根付 源流 フィギュア	友親 あんまのけんか 源流 フィギュア	
錦影絵種板「狐」 源流 アニメーション	瓢箪 源流 フィギュア	鳥の足を持つ老人 源流 フィギュア	
錦影絵幻灯機 源流 アニメーション	松ぼっくりと蟬 源流 フィギュア	舟山 阿福麵 源流 フィギュア	
写し絵種板「だるま」 源流 アニメーション	正直 蛇 源流 フィギュア	久米仙人 源流 フィギュア	
		肘枕する仙人 源流 フィギュア	

本展では、ポンピドー・センターの所蔵作品より「異邦人たちのパリ」をテーマに、パリで活躍した外国人アーティストによる作品(絵画・写真・彫刻・ビデオ・インスタレーション)211点を4章構成で紹介した。今年開館30周年を迎えた同センターのコレクションによる展覧会は、大規模なものとしては日本で10年ぶりである。

第1章では、20世紀初頭のシャガール、フジタ、モディリアニ、スーティンらエコール・ド・パリの作家やピカソ、マルクーシらのキュビスト、そしてエルンストやブラウネルらのシュルレアリストを紹介した。第2章では戦後の抽象芸術の動向を伝え、幾何学的抽象のカンディンスキー、叙情的抽象のド・スタール、キネティック・アートのコールダーなどを展示。第3章は日本で紹介される機会の少なかった「新しい具象」と呼ばれるエロなどの社会批判的な具象絵画を中心に構成した。最終章「マルチカルチャーの都・パリ」では、アフリカ、イスラエル、南米などより広範囲な地域出身のアーティストによる多文化的要素を含んだ作品を紹介した。

各章の冒頭は写真作品によって構成され、当時のパリの街の雰囲気と合わせて、20世紀に外国人アーティストたちがパリで繰り広げた芸術活動を通観する展覧会となった。

This four-chapter exhibition on the theme of foreign artists in Paris featured 211 works (paintings, photographs, sculptures, videos, and installations) from the collections of the Centre Pompidou by foreign artists who have been active in the French capital. It was the first major exhibition in Japan for 10 years of works from the center, which celebrates its 30th anniversary in 2007.

The first chapter introduced the artists of the Ecole de Paris, such as Chagall, Foujita, Modigliani, and Soutine; cubists, such as Picasso and Marcoussis; and surrealists like Ernst and Brauner. The second chapter conveyed the postwar trend for abstract art, including the geometric abstract works of Kandinsky, the lyrical abstraction of de Staël, and the kinetic art of Calder. The third chapter consisted mainly of socially critical representational paintings, works by Erró known as “new representation,” which have rarely been shown in Japan. The final chapter on Paris as a multicultural city showcased works that include multicultural elements by artists from a wide range of regions, including Africa, Israel, and South America.

At the beginning of each chapter was a photographic display conveying the atmosphere in Paris at the time in question, helping visitors to gain a comprehensive insight into the artistic activities of foreign artists in Paris in the 20th century.

会期:平成19(2007)年2月7日(水)~5月7日(月)

日数:79日(うち平成18年度:46日)

会場:国立新美術館 企画展示室2E

入場者数:190,333人(3月31日まで)(1日平均4,138人)

主催:国立新美術館、朝日新聞社、テレビ朝日、ポンピドー・センター

後援:外務省、文化庁、フランス大使館、東京日仏学院

協賛:旭化成ホームズ株式会社、カルビー株式会社、本田技研工業株式会社、大日本印刷株式会社

協力:日本通運、エールフランス航空、J-WAVE

コミッションナー:ジャン=ポール・アムリン(ポンピドー・センター主任学芸員)



講演会等:(会場:国立新美術館 講堂)

●講演会「異邦人たちのパリ」

日時:2月10日(土)

講演:ジャン=ポール・アムリン(ポンピドー・センター主任学芸員、展覧会コミッショナー)

参加者数:120人

●講演会「ルーヴルもオルセーも卒業!? ダ・ヴィンチよりモネより、もっと私たちに近い画家たち」

日時:2月11日(日)

講演:平野啓一郎(作家)

参加者数:120人

●対談「日本人にとっての戦後パリ」

日時:2月18日(日)

講演:堂本尚郎(画家・出品作家)、高階秀爾(美術史家・美術評論家)

参加者数:130人

●講演会「フランスの光 異邦人たちのパリ」

日時:2月25日(日)

講演:田原桂一(写真家・出品作家)

参加者数:130人

●研究員による解説会

日時:3月4日(日)

解説:平井章一(学芸課主任研究員)

参加者数:220人

関連事業:

●映画祭「世界の映画と共にある都市、パリ」

パリを舞台に世界の監督が取った映画の数々の上映。

日時:2月2日～3月25日の金・土・日曜に20本の映画

会場:日仏学院

●シャンソン・フランス音楽のタベ「異邦人たちのパリ」

1stステージ JK Philharmony Ensemble

2ndステージ クミコ(ピアノ伴奏:上條泉)

日時:2月8日(木)、9日(金)

会場:東京メトロ銀座駅コンコース「銀座のオアシス」

●「思い出の一品」企画

フランスで「異邦人」として修行を積んだシェフやパティシエたちの思い出のメニューを、展覧会会期中に都内レストラン各所で特別提供。

カタログ:<sup>エトランジェ</sup>「異邦人たちのパリ 1900-2005 ポンピドー・センター所蔵作品展」

A4変型、292ページ、図版カラー211点・白黒111点、20,000部

作品目録:A4判、二つ折、50,000部

ポスター:B1判、2,400部(うち先行配布1,000部)

B2判、7,900部(うち先行配布1,000部)

B3判、33,000部

B3変型(インターサイズ)、7,900部

チラシ:A4判、440,000部(うち先行配布80,000部)

関連記事:

美術手帖／平成19(2007)年1月17日

クロワッサン／2月10日

Le Monde／2月15日／Philippe Mesmer

マリ・クレール／2月23日

六本木☆パリ新発見! アート街を遊びつくす(テレビ朝日)／2月17日

他 多数



2月10日 講演会

## 異邦人たちのパリ 1900—2005

## ポンピドー・センター所蔵作品展

## 出品リスト

1  
パブロ・ピカソ  
座せる裸婦  
1905  
油彩・厚紙  
106.0×76.0 cm

2  
パブロ・ピカソ  
輪を持つ少女  
1919  
油彩・砂・カンヴァス  
142.5×79.0 cm

3  
パブロ・ピカソ  
女の肖像  
1938  
油彩・カンヴァス  
98.0×77.5 cm

4  
パブロ・ピカソ  
青の女性  
1944  
油彩・カンヴァス  
130.0×97.0 cm

5  
パブロ・ピカソ  
トルコ帽の裸婦  
1955  
油彩・カンヴァス  
116.0×89.0 cm

6  
ジーノ・セヴェリーニ  
ムーラン・ルージュの熊ダンス  
1913  
油彩・カンヴァス  
100.0×73.5 cm

7  
ジーノ・セヴェリーニ  
ポール・フォールの肖像  
1915  
紙・カンヴァス  
81.0×65.0 cm

8  
ルイ・マルクーシ  
格子上の静物  
1912  
油彩・カンヴァス  
143.0×97.0 cm

9  
ヘンリ・ヘイデン  
三人の音楽家  
1920  
油彩・カンヴァス  
176.0×176.0 cm

10  
ファン・グリス  
ギターを持つピエロ  
1919  
油彩・カンヴァス  
90.0×73.0 cm

11  
ファン・グリス  
ギターを手に座るアルルカン  
1919  
油彩・カンヴァス  
116.0×89.0 cm

12  
コンスタンティン・ブランクーシ  
眠れるミューズ  
1910  
ブロンズ  
16.5×26.0×18.0 cm

13  
オシップ・ザッキン  
扇子を持つ女  
1920  
ブロンズ  
85.0×34.0×27.0 cm

14  
パブロ・ガルガ-リヨ  
ピカソの肖像  
1913  
蠟型法によるブロンズ  
22.5×21.0×13.5 cm

15  
パブロ・ガルガ-リヨ  
フルートを吹くアルルカン  
1931  
鉄  
98.0×42.5×41.0 cm

16  
ジャック・リブシッツ  
ギターを持つ水夫  
1914-1915  
古色付けしたブロンズ  
77.5×29.0×24.5 cm

17  
ジャック・リブシッツ  
ギターを持つ水夫  
1917-1918  
石:90.0×38.0×34.0 cm  
／台座:20.0×70.0×30.0 cm

18  
フリオ・ゴンサレス  
ダフネ  
1930-1933頃  
ブロンズ  
142.0×71.0×52.0 cm

19  
フリオ・ゴンサレス  
座せる女(2)  
1935/1964  
ブロンズ  
65.0×15.5×27.0 cm

20  
キース・ヴァン・ドンゲン  
スペインのショール  
1913  
油彩・カンヴァス  
195.5×130.5 cm

21  
アメデオ・モディリアーニ  
赤い頭部  
1915  
油彩・厚紙  
54.0×42.5 cm

22  
アメデオ・モディリアーニ  
口ロット  
1916  
油彩・カンヴァス  
55.0×35.5 cm

23  
アメデオ・モディリアーニ  
デディーの肖像(オデット・ヘイデン)  
1918頃  
油彩・カンヴァス  
92.0×60.0 cm

24  
レオナルド・フジタ(藤田嗣治)  
パリの私の部屋  
1921  
油彩・カンヴァス  
130.0×97.0 cm

25  
レオナルド・フジタ(藤田嗣治)  
パリの私の部屋  
1922  
油彩・カンヴァス  
130.0×97.0 cm

26  
レオナルド・フジタ(藤田嗣治)  
友情  
1924  
アクリル、油彩、墨・カンヴァス  
146.0×89.0 cm

27  
レオナルド・フジタ(藤田嗣治)  
画家の肖像  
1928  
油彩、グワッシュ・カンヴァス  
35.0×27.0 cm

28  
レオナルド・フジタ(藤田嗣治)  
カフェにて  
1949  
油彩・カンヴァス  
76.0×64.0 cm

29  
キスリング  
若いポーランド女性(ショールを纏う女)  
1928-1929頃  
油彩・カンヴァス  
100.0×72.5 cm

30  
ジュール・パスキン  
美しいイギリス女性  
1916  
油彩・カンヴァス  
72.0×60.0 cm

31  
ジュール・パスキン  
エルミーヌ・ダヴィッドの肖像  
1918  
油彩・カンヴァス  
51.0×43.0 cm

32  
ジュール・パスキン  
庭の中のエルミーヌ・ダヴィッド  
1918  
油彩・カンヴァス  
51.0×38.0 cm

33  
ジュール・パスキン  
闘牛士姿のアルフレッド・フレイトハイム  
1927  
油彩・カンヴァス  
104.0×80.0 cm

34  
荻須高德  
ドレ地区  
1936  
油彩・カンヴァス  
86.0×112.0 cm

35  
荻須高德  
サン=タンドレ・デ・ザール広場  
1936  
油彩・カンヴァス  
73.0×92.0 cm

36  
シャイム・スーティン  
彫刻家ミースチャニノフの肖像  
1923  
油彩・カンヴァス  
83.0×65.0 cm

[凡例]  
リストは、以下の順番です。  
作品番号  
作家名  
作品名  
制作年  
技法/材質  
サイズ

37 シャイム・スーティン ラ・ゴードの風景 1923頃 油彩・カンヴァス 81.0×100.0 cm	49 ヴィクトール・ブラウネル 狼テーブル 1939/1947 木、キツネの剥製(部分) 54.0×57.0×28.5 cm	61 ブラッサイ オルフェヴル河岸の宿なしたち 1930-1932頃 ゼラチン・シルバー・プリント 22.8×17.3 cm	73 アンドレ・ケルテス 緑日、バリ 1931 ゼラチン・シルバー・プリント 24.7×16.6 cm
38 シャイム・スーティン 緑の雨戸にある野ウサギ 1924-1925頃 油彩・カンヴァス 81.5×54.5 cm	50 マックス・エルンスト フランスの庭園 1962 油彩・カンヴァス 114.0×168.0 cm	62 ブラッサイ チュイルリーの鉄柵 1930-1932頃 ゼラチン・シルバー・プリント 23.2×17.2 cm	74 アンドレ・ケルテス バリ、「デュボ、デュボン、デュボネ」 1934 ゼラチン・シルバー・プリント 24.2×18.1 cm
39 シャイム・スーティン 聖歌隊の少年 1925 油彩・カンヴァス 100.0×55.0 cm	51 マン・レイ 黒と白 1926 ゼラチン・シルバー・プリント 23.0×17.5 cm	63 ブラッサイ 石畳 1930-1932頃 ゼラチン・シルバー・プリント 23.9×18.1 cm	75 ウジェーヌ・デスロー モンパルナス 1929 35mm白黒(本展ではビデオ上映) 16分
40 マルク・シャガール 緑の自画像 1914 油彩・厚紙、カンヴァス 50.7×38.0 cm	52 マン・レイ ミュラ王女 1926頃 ゼラチン・シルバー・プリント 9.1×7.4 cm	64 ブラッサイ 牢獄の壁：ラ・サンテ刑務所 1930-1932頃 ゼラチン・シルバー・プリント 23.4×17.7 cm	76 ジェル・フロイント アンドレ・ジッド、バリ 1938 カラープリント 30.5×20.5 cm
41 マルク・シャガール 墓地の門 1917 油彩・カンヴァス 87.0×68.5 cm	53 マン・レイ ヴェールの裸婦 1928-1929頃 ゼラチン・シルバー・プリント 10.7×7.8 cm	65 ブラッサイ ノートルダム 1930-1932頃 ゼラチン・シルバー・プリント 23.1×17.0 cm	77 ジェル・フロイント ヴァルター・ベンヤミン、バリ 1938 カラープリント 25.0×30.0 cm
42 マルク・シャガール エッフェル塔の新郎新婦 1938-1939 油彩・カンヴァス 150.0×136.5 cm	54 マン・レイ スージー・ソリドール 1929 ゼラチン・シルバー・プリント 8.4×10.6cm	66 ブラッサイ コンティ河岸 1930-1932頃 ゼラチン・シルバー・プリント 23.2×17.8 cm	78 ジェル・フロイント ジャン＝ポール・サルトル、バリ 1939 カラープリント 30.0×20.5 cm
43 マルク・シャガール 戦争 1943 油彩・カンヴァス 106.0×76.0 cm	55 マン・レイ マドモアゼル・ドリタ、蛇使い 1930 ゼラチン・シルバー・プリント 8.9×12.1 cm	67 アンドレ・ケルテス バリ、ある雷雨の夏の夜 1925 ゼラチン・シルバー・プリント 19.8×24.8 cm	79 ジェル・フロイント ルーベを手にするジェイムズ・ジョイス、バリ 1939 コダック紙プリント 30.0×20.8 cm
44 ジョアン・ミロ 絵画 1927 油彩・カンヴァス 116.0×89.0 cm	56 マン・レイ コノリ 1930頃 ソラリゼーション技法によるゼラチン・シルバー・プリント 7.8×5.5 cm	68 アンドレ・ケルテス ヴォルテール河岸の窓、バリ 1928 ゼラチン・シルバー・プリント 24.8×19.7 cm	80 ジェル・フロイント アンリ・ミショー、バリ 1939 カラープリント 26.0×17.0 cm
45 ジョアン・ミロ 絵画 1927 油彩・カンヴァス 89.0×116.0 cm	57 マン・レイ メレット・オッペンハイム 1933 ゼラチン・シルバー・プリント 23.8×17.1 cm	69 アンドレ・ケルテス 割れた乾板 1929 ゼラチン・シルバー・プリント 19.7×24.7 cm	81 ジェル・フロイント アンドレ・マルロー、バリ 1939 カラープリント 30.0×20.0 cm
46 アルベルト・ジャコメッティ テーブル 1933/1969 ブロンズ 143.0×103.0×43.0 cm	58 マン・レイ 細帯の裸婦 1929-1935頃 ゼラチン・シルバー・プリント 11.2×8.1 cm	70 アンドレ・ケルテス エッフェル塔、バリ 1929 ゼラチン・シルバー・プリント 24.3×17.3 cm	82 ジェル・フロイント アンドレ・ブルトン、バリ 1939 カラープリント 35.0×24.0 cm
47 アルベルト・ジャコメッティ ディエゴの胸像 1954 ブロンズ 40.0×33.7×19.0 cm	59 ブラッサイ カンカンボワ通りの娼婦 1930-1932頃 ゼラチン・シルバー・プリント 22.8×17.2 cm	71 アンドレ・ケルテス 昼下がりが、バリ 1929 ゼラチン・シルバー・プリント 19.6×22.7 cm	83 ジェル・フロイント トリスタン・ツァラ、バリ 1940 カラープリント 25.0×30.0 cm
48 アルベルト・ジャコメッティ ディエゴ 1954 ブロンズ 38.7×23.9×9.5 cm	60 ブラッサイ ファニー・サーカス 1930-1932頃 ゼラチン・シルバー・プリント 23.3×17.8 cm	72 アンドレ・ケルテス なにか面白いこと、バリ 1930 ゼラチン・シルバー・プリント 24.8×19.8 cm	84 ソニア・ドロウネー シベリア横断鉄道とフランスのプティット・ジュアンヌの散文詩 1913 油彩・カンヴァス

193.5×18.5 cm	142.0×161.0 cm	114.5×146.5 cm	180.0×180.0 cm
85 ソニア・ドローネー リズム 1938 油彩・カンヴァス 182.0×149.0 cm	97 ニコラ・ド・スタール コンポジション 1949 油彩・カンヴァス 162.5×114.0 cm	109 ザオ・ウーキー 青のコンポジション 1960 油彩・カンヴァス 200.0×162.0 cm	121 ルイス・トマセロ 色彩造形の雰囲気 No.287 1972 油彩・ラッカー塗装した木 180.5×180.5×11.0 cm
86 ソニア・ドローネー コンポジション 1955 油彩・カンヴァス 160.0×215.5 cm	98 ニコラ・ド・スタール ミュージシャン、シドニー・ベシェの思い出 1953 油彩・カンヴァス 161.9×114.2 cm	110 堂本尚郎 絵画 1962-27 1962 油彩・カンヴァス 195.0×281.0 cm	122 ヘス＝ラファエル・ソト 開かれた空間 1967 塗装された木、金属 157.0×207.0×28.5 cm
87 オッター・フロイントリッヒ 私の空は赤 1933 油彩・カンヴァス 162.0×130.5 cm	99 セルジュ・ボリアコフ (無題) 1952 油彩・カンヴァス 130.3×89.0 cm	111 ジャン＝ポール・リオバル 青信号 1957 カラーインク・紙、カンヴァス 184.5×425.5 cm	123 タキス 大信号 1964 金属、灯器 499.0×50.0×34.0 cm
88 フランティシェク・クブカ 動きのある線 1920/1933 油彩・カンヴァス 193.0×200.0 cm	100 セルジュ・ボリアコフ コンポジション 1955 油彩・合板 81.0×90.5 cm	112 シモン・アンタイ 絵画 1957 油彩・カンヴァス 241.0×426.0 cm	124 ポール・ビュリ 9平面上の81個のボール 1966 木、モーター 120.0×230.0×60.0 cm
89 フランティシェク・クブカ 線、平面、空間 III 1923-1927 油彩・カンヴァス 180.0×128.0 cm	101 セルジュ・ボリアコフ ブルー、レッド、グレーのコンポジション 1956 油彩・カンヴァス 130.0×97.0 cm	113 ピエール・アレシンスキー 墨の国にて 1959 墨、テンペラ・紙、カンヴァス 152.0×240.0 cm	125 ジャン・ティンゲリー メタ No.3 1970-1971 鉄、モーター 200.0×600.0×400.0 cm
90 ヴァシリー・カンディンスキー 二つの緑色の点 1935 油彩・砂・カンヴァス 115.0×162.5 cm	102 マリア＝エレナ・ヴィエイラ・ダ・シルヴァ 織工 1936 油彩・カンヴァス 106.0×161.5 cm	114 サム・フランシス アザー・ホワイト 1952 油彩・カンヴァス 205.5×190.5 cm	126 イジス 雨 1940頃 ゼラチン・シルバー・プリント 30.2×24.0 cm
91 ヴァシリー・カンディンスキー 相互和音 1942 油彩・リボリン・カンヴァス 114.0×146.0 cm	103 マリア＝エレナ・ヴィエイラ・ダ・シルヴァ 織工 II 1948 油彩・カンヴァス 195.8×98.0 cm	115 ジョアン・ミッチェル 絵画 1956-1957 油彩・カンヴァス 199.5×200.0 cm	127 イジス 割れた窓ガラス 1945-1948頃 ゼラチン・シルバー・プリント 30.1×23.8 cm
92 セザール・ドメラ レリーフ115 1938 純銅、軟銅、塗装した木 104.5×89.0×36.0 cm	104 アンス・アルトウング T. 54-16 1954 油彩・カンヴァス 130.0×97.0 cm	116 ジョアン・ミッチェル グランド・バレー XIV 1983 油彩・カンヴァス 280.0×600.0 cm	128 イジス 庭と洗濯物 1945-1948頃 ゼラチン・シルバー・プリント 29.3×23.6 cm
93 アレクサンダー・コールドー フィッシュボーンズ 1939 鉄板、鉄筋、塗装した金属糸 207.2×192.0×137.1 cm	105 アンス・アルトウング T. 1956-14 1956 油彩・カンヴァス 180.0×136.0 cm	117 ヴィクトール・ヴァザルリ 夢 1966 コラーージュ・合板 252.0×251.5 cm	129 イジス マルシェ 1945-1948頃 ゼラチン・シルバー・プリント 29.3×23.6 cm
94 アレクサンダー・コールドー 1月31日 1950 アルミ板、塗装した鋼糸 375.0×600.0 cm	106 菅井汲 丘 1956 油彩・カンヴァス 69.0×132.0 cm	118 ヴィクトール・ヴァザルリ V ボグラール 1966 コラーージュ・合板 250.0×250.0 cm	130 イジス ジェルゴヴィ小路 1945-1948頃 ゼラチン・シルバー・プリント 27.8×23.8 cm
95 アルベルト・マニェッリ 大西洋のロンド 1937 油彩・カンヴァス 114.0×146.0 cm	107 菅井汲 ゼフィロス 1962 油彩・カンヴァス 81.0×65.0 cm	119 アガム ダブル・メタモルフォーゼ III 1968-1969 油彩・アルミニウムのレリーフ 124.0×186.0 cm	131 イジス 白い雨戸 1945-1948頃 ゼラチン・シルバー・プリント 27.3×24.6 cm
96 ニコラ・ド・スタール 過酷な生活 1946 油彩・カンヴァス	108 今井俊満 鳴り響く孤独 1956 油彩・カンヴァス	120 カルロス・クルス＝ディエス フィジクロミー No.506 1970 アクリル・塩化ビニル張りした板	132 イジス ブロス通り、バリ 1956 ゼラチン・シルバー・プリント

26.2×19.8 cm	40.4×30.5 cm	156 ボール・ストランド ルヴァン、アルプ・マリティーム県 1950 ブリストル紙に貼られたゼラチン・シル バー・プリント、リタッチ 19.3×24.3 cm	167 エロ モスクワの水彩画 1975 油彩・カンヴァス 97.0×73.7 cm
133 イジス トルビアク通り、バリ 1957 ゼラチン・シルバー・プリント 26.5×19.8 cm	145 ウィリー・マイワルド ディオール 1952 ゼラチン・シルバー・プリント 40.4×30.4 cm	157 ボール・ストランド 戸枠の中の二人の男 1951 ブリストル紙に貼られたゼラチン・シルバー・ プリント、リタッチ 11.7×14.9 cm	168 ウラジミール・ヴェリコヴィッチ 刑場 No. 5 1969-1970 油彩・カンヴァス 300.0×200.0 cm
134 トーレ・ヨーンソン (無題) 1949頃 ゼラチン・シルバー・プリント 24.0×29.5 cm	146 ウィリー・マイワルド ファス 1952 ゼラチン・シルバー・プリント 40.4×30.7 cm	158 マッタ 無秩序の威力 1964-1965 油彩・カンヴァス 298.0×993.0 cm	169 トム・ドラオス (無題) 1980 ゼラチン・シルバー・プリント 27.5×28.2 cm
135 トーレ・ヨーンソン (無題) 1949頃 ゼラチン・シルバー・プリント 30.5×24.0 cm	147 ウィリー・マイワルド ランヴァン 1953 ゼラチン・シルバー・プリント 40.4×30.5 cm	159 ダド 嬰兒虐殺 1958-1959 油彩・カンヴァス 194.0×259.5 cm	170 トム・ドラオス (無題) 1980 ゼラチン・シルバー・プリント 27.6×28.0 cm
136 トーレ・ヨーンソン (無題) 1949頃 ゼラチン・シルバー・プリント 31.0×24.0 cm	148 ウィリー・マイワルド カルダン 1956 ゼラチン・シルバー・プリント 40.5×30.7 cm	160 工藤哲巳 あなたの肖像一箇(まゆ)の 中の蛹 1967 プラスチック加工した綿、ポリエステル樹 脂、ブラックライト 161.0×87.0×78.0 cm	171 トム・ドラオス (無題) 1980 ゼラチン・シルバー・プリント、部分的に彩色 11.8×17.8 cm
137 トーレ・ヨーンソン (無題) 1949頃 ゼラチン・シルバー・プリント 31.0×24.0 cm	149 ウィリー・マイワルド ケスラー姉妹、リド 1963 ゼラチン・シルバー・プリント 40.5×29.9 cm	161 ヴァレリーオ・アダミ レーニンのベスト 1972 アクリル、カンヴァス 239.0×367.0 cm	172 トム・ドラオス (無題) 1981 ゼラチン・シルバー・プリント、部分的に彩色 26.5×26.2 cm
138 トーレ・ヨーンソン (無題) 1949頃 ゼラチン・シルバー・プリント 24.0×31.0 cm	150 ボール・ストランド 窓辺の子供 1950 ブリストル紙に貼られたゼラチン・シル バー・プリント、リタッチ 14.8×11.7 cm	162 エルヴェ・テレマク ちょっと黒くて十分陽気なちっちゃな独り者 1964 油彩・カンヴァス 80.0×80.0 cm	173 トム・ドラオス (無題) 1981 ゼラチン・シルバー・プリント、部分的に彩色 27.3×26.5 cm
139 トーレ・ヨーンソン (無題) 1949頃 ゼラチン・シルバー・プリント 31.0×21.5 cm	151 ボール・ストランド オ・ダム・ド・フランス 1950 ブリストル紙に貼られたゼラチン・シル バー・プリント、リタッチ 14.8×11.8 cm	163 エドゥアルド・アロヨ 脱獄したジャン・エリオン、ボモジェからバ リへの道のり 1974 油彩・カンヴァス 100.0×162.0 cm (各カンヴァス:100.0×81.0 cm)	174 トム・ドラオス (無題) 1981 ゼラチン・シルバー・プリント 20.5×30.0 cm
140 トーレ・ヨーンソン (無題) 1949頃 ゼラチン・シルバー・プリント 24.0×31.0 cm	152 ボール・ストランド カフェ 1950 ブリストル紙に貼られたゼラチン・シル バー・プリント、リタッチ 11.8×14.7 cm	164 エドゥアルド・アロヨ 世界一の馬 1975 油彩・カンヴァス 200.0×300.0 cm	175 トム・ドラオス (無題) 1981 ゼラチン・シルバー・プリント、部分的に彩色 11.7×17.7 cm
141 トーレ・ヨーンソン 夜明け 1949頃 ゼラチン・シルバー・プリント 31.0×24.0 cm	153 ボール・ストランド 豚肉屋 1950 ブリストル紙に貼られたゼラチン・シル バー・プリント、リタッチ 11.8×15.0 cm	165 エロ モンマルトル 1974 油彩・カンヴァス 98.0×134.5 cm	176 トム・ドラオス (無題) 1981 ゼラチン・シルバー・プリント 28.4×37.0 cm
142 ウィリー・マイワルド ディオール 1948-1949頃 ゼラチン・シルバー・プリント 40.4×30.6 cm	154 ボール・ストランド カーテンのある窓 1950 ブリストル紙に貼られたゼラチン・シル バー・プリント、リタッチ 24.3×19.3 cm	166 エロ サン・マルコの毛沢東 1975 油彩・カンヴァス 97.0×72.2 cm	177 田原桂一 サン=マンデ、アルファンド大通りのアパルトマン 1973-1982 白黒写真、プロマイド印画紙にセレン調色 40.3×30.3 cm
143 ウィリー・マイワルド ベティナ、ファス 1950 ゼラチン・シルバー・プリント 40.5×30.6 cm	155 ボール・ストランド 昼下がり 1950 ブリストル紙に貼られたゼラチン・シル バー・プリント、リタッチ 11.8×15.0 cm		178 田原桂一 バリ、サン=セヴラン通りのアパルトマン 1973-1982 白黒写真、プロマイド印画紙にセレン調色 40.4×30.4 cm

179 田原桂一 サン=マンデ、アルファンド 大通りのアバルトマン 1973-1982 白黒写真、プロマイド印画紙にセレン調色 46.2×30.4 cm	パーティー(横顔)、パリ 1983 ゼラチン・シルバー・プリント 30.1×45.7 cm	202 オノデラユキ 古着のポートレート No.1 1994 ゼラチン・シルバー・プリント 73.0×62.0 cm
180 田原桂一 バリ、サン=セヴラン通りの アバルトマン 1973-1982 白黒写真、プロマイド印画紙にセレン調色 30.4×40.4 cm	191 アントニ・ミラルダ、ベネ・ロッセル パリ、ラ・クルバルシータ 1973 16mm(本展ではビデオ上映) 29分	203 オノデラユキ 古着のポートレート No.21 1994 ゼラチン・シルバー・プリント 73.0×62.0 cm
181 田原桂一 サン=マンデ、アルファンド 大通りのアバルトマン 1973-1982 白黒写真、プロマイド印画紙にセレン調色 30.4×40.4 cm	192 アブサロン 住まいの提案 1992 合板、厚紙、アクリル、蛍光管 180.0×270.0×370.0 cm	204 オノデラユキ 古着のポートレート No.30 1994 ゼラチン・シルバー・プリント 73.0×62.0 cm
182 田原桂一 ショワジー大通りのアバルトマン、バリ 1973-1982 白黒写真、プロマイド印画紙にセレン調色 40.3×30.4 cm	193 アブサロン 住まいの提案 1990 ビデオ 3分50秒	205 オノデラユキ 古着のポートレート No.5 1994 ゼラチン・シルバー・プリント 73.0×62.0 cm
183 田原桂一 ビュット・オ・カイユのアバルトマン、バリ 1973-1982 白黒写真、プロマイド印画紙にセレン調色 40.4×30.4 cm	194 アブサロン 騒音 1993 ビデオ 2分30秒	206 オノデラユキ 古着のポートレート No.8 1994 ゼラチン・シルバー・プリント 73.0×62.0 cm
184 田原桂一 バリ、サン=セヴラン通りのアバルトマン 1973-1982 白黒写真、プロマイド印画紙にセレン調色 40.3×30.4 cm	195 トーマス・ヒルシュホーン 直接的彫刻 1999 ミクストメディア 360.0×710.0×660.0 cm	207 オノデラユキ 古着のポートレート No.9 1994 ゼラチン・シルバー・プリント 73.0×62.0 cm
185 ウィリアム・クライン 11月11日、パリ 1968 ゼラチン・シルバー・プリント 29.7×42.9 cm	196 トーマス・ヒルシュホーン ベルヴィルのフィフティー・フィフティー 1992 ビデオ 11分	208 ソフレ・フェイズジュー 無題 1975-1989 ペンキ、木、ガラス、蠟、鉄、綿、紐、くるみ染 料、プラスチック、糊、水、馬の毛、チュール、 紙、写真 220.0×330.0×170.0 cm
186 ウィリアム・クライン ボノの一味、パリ 1968 ゼラチン・シルバー・プリント 26.3×35.5 cm	197 トーマス・ヒルシュホーン アンチファシスト・アクション 1995 ビデオ 6分10秒	209 バルテレミ・トグォ 衣装掛け、男/女性、女/男性 1997 木、絵画、金属 190.0×300.0×56.5 cm
187 ウィリアム・クライン カフェのテラス、パリ 1980 ゼラチン・シルバー・プリント 27.5×45.8 cm	198 トーマス・ヒルシュホーン ローベルト・ヴァルザー・ビデオ 1995 ビデオ 4分	210 チェン・ゼン ラウンド・テーブル 1995 木、金属 高さ:180.0 cm / 直径:550.0 cm
188 ウィリアム・クライン ローリング・ストーンズのコン サート、パリ 1982 ゼラチン・シルバー・プリント 30.9×45.2 cm	199 トーマス・ヒルシュホーン アイ・ウィル・ウィン 1995 ビデオ 4分30秒	211 ボブ・ウィルソン ビデオ50 1980 ビデオ 25分
189 ウィリアム・クライン マラソンのゴール、パリ 1982-1983頃 ゼラチン・シルバー・プリント 31.1×45.9 cm	200 エリック・デュイケール カント 2000 ビデオ 6分	
190 ウィリアム・クライン レックス映画館の幻想映画	201 ズリカ・ブアブデラ 踊ろう 2003 ビデオ 5分	

# 5

## 美術団体等への展覧会会場提供

Provision of Exhibition Venues to  
Artist Associations

全国的な活動を行っている美術団体等が実施する、美術の振興普及及び発展を目的とした美術作品発表の場として、展示室等の提供を行う。

公募展用の展覧会場として、1室当たり1,000㎡の面積を有する展示室全10室(合計10,000㎡)、及び1区画あたり315㎡の面積を有する野外展示場全4区画(合計1,260㎡)を提供する。また、展覧会を開催するための準備作業を行うことができる審査室等も提供する。

平成18年度は、平成19(2007)年4月からの公募展開催に向けての諸準備を進めた。

The National Art Center, Tokyo provides exhibition spaces and other facilities for the presentation of works of art aimed at art promotion, dissemination, and development held by artist associations engaged in nationwide activities.

The NACT offers 10 Exhibition Galleries of 1,000 m<sup>2</sup> each (total: 10,000 m<sup>2</sup>) and 4 Open-air Exhibition Areas of 315 m<sup>2</sup> each (total: 1,260 m<sup>2</sup>). It also provides Judging Rooms for making preparations for exhibitions.

In fiscal 2006 preparations were made for holding the artist associations' exhibitions scheduled for fiscal 2007.

### 平成19年度公募展の開催に向けての準備

□美術団体等が作品搬入・審査等を行う作品整理室及び審査室等について、利用調整を行った。

利用希望調査票配付・回収:6月6日(火)～6月30日(金)

利用調整等に関する説明会:6月15日(木)10時30分～、14時30分～  
6月16日(金)10時30分～、14時30分～

団体間調整:8月23日(水)～平成19年2月

□作品搬入から搬出までの各作業、また各施設、備品及び展示方法等展覧会運営全般についての「展示室等利用の手引き」(初版)を作成、発行した。

発行日:平成19(2007)年3月2日

□平成17年度に引き続き、施設・備品等の効率的運用を図るために、「バックヤード等公募展関係等検討のためのワーキンググループ」(第4回～第8回)を開催した。

第4回:5月16日(火)16時～18時

第5回:6月8日(木)16時30分～19時

第6回:6月9日(金)15時～17時

第7回:7月21日(金)16時～18時

第8回:12月26日(火)15時～17時

□平成19年度公募展開催を予定している美術団体等を対象として、公募展用展示室及び野外展示場、公募展関連諸施設の案内会を開催した。

第1回:7月24日(月)14時30分～

第2回:7月25日(火)14時30分～

第3回:7月26日(水)14時30分～

第4回:7月27日(木)14時30分～

第5回:7月28日(金)14時30分～

参加団体数及び人数:64団体286人

□平成19年度公募展開催を予定している美術団体等を対象に、団体毎の見学会を開催した。

見学受付期間:8月4日(金)～11月17日(金)

参加団体数及び人数:50団体1,184人

□平成20年度展示室(公募展用)及び野外展示場を使用する美術団体等を決定した。

決定日:5月31日(水)

決定団体:69団体

□平成20年度野外展示場使用団体の追加募集を行い、使用する美術団体等を決定した。

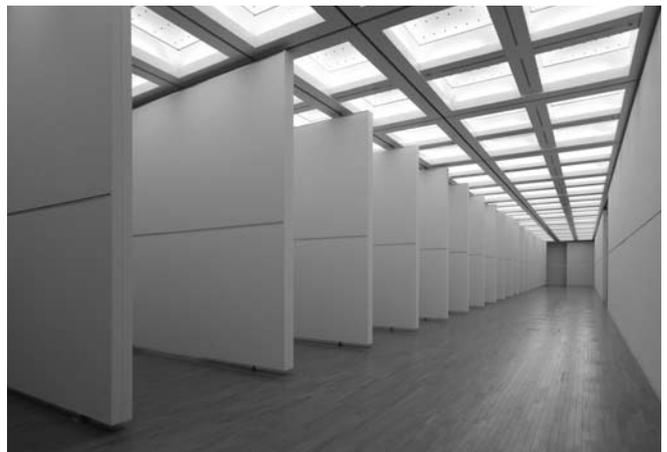
配付期間:5月31日(水)～6月30日(金)

応募団体数:3団体 決定団体数:3団体

□平成21年度展示室(公募展用)及び野外展示場を使用する美術団体等の募集を行った。

配付期間:2月15日(木)～2月28日(水)

確認団体:69団体



展示室

# 6

## 教育普及

Education and Public Programs

### 6-1 プレ・オープニング企画

Pre-opening Events

### 6-2 講演会等

Lectures, etc.

### 6-3 ワークショップ

Workshops

### 6-4 インターン、ボランティア

Internships and Volunteering

### 6-5 その他の教育普及事業

Other Education and Public Programs

来館者の作品鑑賞の充実とサポートを目的に、展覧会に合わせた講演会やギャラリー・トークを開催し、無料の鑑賞ガイドブックを作成した。また、美術に触れ、美術を楽しむ機会をより多くの人に提供するために、普及関連イベントや子どもを対象としたワークショップを実施した。さらに、美術館活動への理解の促進や人材育成のために、インターンシップや学生ボランティア制度の充実を図った。

To enrich and support visitors' viewing experience, the Center held lectures and gallery talks to coincide with exhibitions and published free Art Guide. Also, to provide more people with opportunities to come into contact with and enjoy art, the Center held public events to promote art and workshops for children. And to encourage understanding of the Center's activities and cultivate human resources, the Center worked to expand its internship and student-volunteer programs.

### 6-1 プレ・オープニング企画 Pre-opening Events

- 日豪アートフォーラム
  - ・日豪美術関係者会議(非公開)
  - 日時:9月29日(金)10時~18時、30日(土)10時~12時
  - 会場:国立新美術館 研修室ほか
  - 出席:34人(2日間) アリソン・キャロル(メルボルン大学、アジアリンク、アーツ・プログラム)、建島哲(国立国際美術館館長)ほか
  - ・日豪アート交流シンポジウム「オーストラリアと日本—美術の現在と未来」
  - 日時:9月30日(土)14時~17時
  - 会場:国立新美術館 講堂
  - 講演:アナ・ワルドマン(オーストラリア・カウンシル、ビジュアル・アーツ委員会ディレクター)、北川フラム(大地の芸術祭—越後妻有アートトリエンナーレ、総合ディレクター)ほか
  - 主催:国立新美術館、アジアリンク、豪日交流基金、オーストラリア大使館
  - 協力:独立行政法人 国際交流基金
  - 参加者数:147人



9月30日

- 国立新美術館プレ・オープニング企画 建築ツアー
  - 日時:10月13日(金)11時~、14時30分~、19時~
  - 10月15日(日)11時~、14時30分~
  - 10月19日(木)11時~、14時30分~、19時~
  - 10月21日(土)11時~、14時30分~
  - 参加者数:637人(全10回)



10月15日

- 建物見学会
  - 日時:10月26日(木)14時~17時、27日(金)14時~17時
  - 参加者数:1,290人(2日間)

### 6-2 講演会等 Lectures, etc.

国立新美術館開館記念展「20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—」

- シムリン・ギルによるアーティスト・トーク
  - 日時:1月21日(日)14時~15時
  - 講演:シムリン・ギル(出品作家)
  - 会場:国立新美術館 企画展示室1E
  - 参加者数:80人
- マイケル・クレイグ=マーティンによるアーティスト・トーク
  - 日時:1月21日(日)15時30分~17時
  - 講演:マイケル・クレイグ=マーティン(出品作家)
  - 会場:国立新美術館 講堂
  - 参加者数:189人
- 田中功起によるアーティスト・トーク
  - 日時:3月18日(日)13時~14時
  - 講演:田中功起(出品作家)



1月21日

会場:国立新美術館 講堂

参加者数:41人

●高柳恵里によるアーティスト・トーク

日時:3月18日(日)15時~16時

講演:高柳恵里(出品作家)

会場:国立新美術館 講堂

参加者数:49人

●インターンによるギャラリートーク・シリーズ

2月22日(木)13時30分~ 「素材でたどる戦後の美術」金子美環

15時30分~ 「日常と非日常のあいだ」豊田直香

3月1日(木)13時30分~ 「アヴァンギャルドと民藝運動」嶋田華子

15時30分~ 「静物画から始まる旅」山下樹里

3月7日(水)13時30分~ 「静物画から始まる旅」山下樹里

15時30分~ 「日常と非日常のあいだ」豊田直香

3月8日(木)13時30分~ 「デュシャンから見る引用の美学」遠藤綾子

15時30分~ 「マテリアル・ワールドによこそ」吉田朝子

3月14日(水)13時30分~ 「デュシャンから見る引用の美学」遠藤綾子

15時30分~ 「アヴァンギャルドと民藝運動」嶋田華子

3月15日(木)13時30分~ 「マテリアル・ワールドによこそ」吉田朝子

15時30分~ 「素材でたどる戦後の美術」金子美環

会場:国立新美術館 展示室1A、1B、1C、1D、企画展示室1E

参加者数:249人(全12回)



3月15日

『<sup>エトランジェ</sup>異邦人たちのパリ 1900-2005 ポンビドー・センター所蔵作品展』

●講演会「異邦人たちのパリ」

日時:2月10日(土)14時~

講演:ジャン=ポール・アムリン(ポンビドー・センター主任学芸員、展覧会コミッショナー)

会場:国立新美術館 講堂

参加者数:120人

●講演会「ループルもオルセーも卒業!?! ダ・ヴィンチよりモネより、もっと私たちに近い画家たち」

日時:2月11日(日)14時~

講演:平野啓一郎(作家)

会場:国立新美術館 講堂

参加者数:120人

●対談「日本人にとっての戦後パリ」

日時:2月17日(土)14時~

講演:堂本尚郎(画家・出品作家)、高階秀爾(美術史家・美術評論家)

会場:国立新美術館 講堂

参加者数:130人

●講演会「フランスの光 異邦人たちのパリ」

日時:2月25日(日)14時~

講演:田原桂一(写真家・出品作家)

会場:国立新美術館 講堂

参加者数:130人

●当館研究員による解説会

日時:3月4日(日)14時~

解説:平井章一(学芸課主任研究員)

会場:国立新美術館 講堂

参加者数:220人



2月11日

●教育普及室プログラム「教えて! 可土和さん!」

講演会「The Power Of Art Direction.」

日時:3月24日(土)16時~18時

講演:佐藤可土和(アートディレクター/クリエイティブディレクター)

会場:国立新美術館 講堂

参加者数:241人



3月24日

- 公開シンポジウム「色で結ぶ美術と科学」  
主催:日本色彩学会関東支部、国立新美術館  
日時:12月16日(土)13時30分~17時  
会場:国立新美術館 講堂  
参加者数:136人



12月16日

### 6-3 ワークショップ Workshops

- 教育普及室プログラム「教えて！可士和さん！」  
ワークショップ『自分のシンボルマークをつくろう！』  
日時:3月24日(土)10時~13時  
講師:佐藤可士和(アートディレクター/クリエイティブディレクター)  
会場:国立新美術館 別館3階多目的ルーム  
参加者数:18人(小学校4年生~中学1年生)



3月24日

### 6-4 インターン、ボランティア Internships and Volunteering

- インターン  
若手研究者や大学院生に実践的な研究や活動の場を提供し、人材育成を図るために、平成17年度よりインターンシップを実施している。平成18年度は10人を受け入れた。

石橋奈央/遠藤綾子/金子美環/嘉村哲郎/嶋田華子/豊田直香/鳥居茜  
林洋平/山下樹里/吉田朝子

- サポート・スタッフ  
平成18(2006)年10月より、美術館の活動に関心を持つ学生にボランティアによる活動支援を呼びかけ、実務体験の機会を提供する、サポート・スタッフ制度を導入した。

平成18年度サポート・スタッフ 43人(平成18年10月~)

### 6-5 その他の教育普及事業 Other Education and Public Programs

- 国立新美術館ガイドブック『アートのとびら』  
作品鑑賞の充実を図るため、国立新美術館開館記念展『20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—』の開催に合わせて、中学生以上を読者対象とした鑑賞ガイドブック『アートのとびら』を制作、展覧会来場者に配布した。  
平成19(2007)年1月21日発行、A5判、20ページ、図版カラー8点、100,000部  
デザイン:ヨハン プラグ  
編集:学芸課教育普及室  
執筆:吉澤菜摘、鳥居茜、西野華子



- 学芸スタッフによる鑑賞ガイダンス  
学校等、団体での来館者に対し、展覧会についての鑑賞ガイダンスを行った。  
12団体479人(1月21日開館以降)

# 7

## 情報資料収集・提供

Collection and Provision of the Library  
and Information Services

### 7-1 美術関連資料の収集と公開

Collection and Provision of the  
Library Materials

### 7-2 JACプロジェクト

JAC Project

### 7-3 展覧会情報の収集と提供

Collection and Provision of the  
Information Services

ホームページを開設し、国立新美術館に関する基本情報を国内外に提供するとともに、全国の展覧会情報を収集し、ホームページ内に設けた検索システム「アート commons」を通じて提供した。

美術資料については、(財)国際文化交流推進協会が運営する「アートカタログ・ライブラリー」から寄贈を受けた旧蔵書約20,000冊を核に、日本の展覧会カタログの網羅的収集に努めるとともに、美術に関する図書、特に近現代美術、デザイン、建築を中心とした図書を収集し、ライブラリーを通じて一般の利用に供した。

また、(財)国際文化交流推進協会から引き継いだ「JACプロジェクト」(日本の美術に関する展覧会カタログを海外の美術研究機関4箇所に送付する事業)により、海外の研究者に対し、日本での展覧会活動と日本美術研究の成果を紹介した。

In the area of the Information Services, the official website of The National Art Center, Tokyo was launched, with the vision of offering general information for public access from within and outside of Japan. At the same time, "Art Commons", a searchable online database of domestic exhibition records, was made available via the Center's website.

As for the area of the Library Services, to comprehensively collect exhibition catalogs published in Japan has been recognized as a priority. The donation of approximately 20,000 titles from the Japan Association for Cultural Exchange (ACE Japan), once in the collection of the Art Catalog Library, was smoothly processed and made accessible to the public. Other materials in art, especially in the fields of modern and contemporary art, design and architecture were collected to supplement the Library's collection.

The Library also took over the operation of the "Japan Art Catalog Project" from ACE Japan, which provides support to international researchers in Japanese art by donating Japanese exhibition catalogs to 4 designated research libraries overseas.

### 7-1 美術関連資料の収集と公開

#### Collection and Provision of the Library Materials

##### 美術関連資料の収集

###### ●収集方針

日本で開催された展覧会のカタログの網羅的収集を目指す。また、図書については、都内の既存国立美術館のライブラリー蔵書との重複を避け、特に近現代美術、デザイン、建築に関するものを積極的に収集する。

###### ●所蔵資料数

###### 図書・カタログ登録冊数

	図書	カタログ	合計冊数
和書	12,669	34,114	46,783
洋書	2,951	2,208	5,159
小計	15,620	36,322	51,942

###### 逐次刊行物登録タイトル数

和雑誌	洋雑誌	年報・紀要類
140	80	538

###### ●寄贈

(財)国際文化交流推進協会が運営していた「アートカタログ・ライブラリー」旧蔵書約20,000冊を引き継いだほか、個人、美術館、画廊、出版社、美術団体から図書、展覧会カタログ、雑誌を寄贈いただいた。

## アートライブラリー

### ●利用統計

平成19(2007)年	開室日数	入室者数	閉架書庫出納冊数	コピー枚数
1月	11	8,552	95	281
2月	24	18,836	374	1,168
3月	27	17,859	317	1,056
合計	62	45,247	786	2,505

### ●利用時間

開室時間:11時~18時

休室日:毎週火曜日(祝日の場合は開室し、翌日休室)、年末年始、特別整理期間



## 7-2 JACプロジェクト

### JAC Project

「JACプロジェクト」とは、出版形態が多様かつ複雑で、一般の図書流通ルートにのらないために、海外では入手が非常に困難な日本の展覧会カタログを、海外の日本美術研究の拠点機関に寄贈することを目的とし、(財)国際文化交流推進協会によって平成8(1996)年に開始されたプロジェクトである。当館では、このプロジェクトを通じて収集された「アートカタログ・ライブラリー」の旧蔵書約20,000冊を収蔵するとともに、プロジェクト自体をも継承した。

海外へ送付した資料の目録情報は、オンライン蔵書目録検索システム、及びRLIN(米国研究図書館グループ)等のネットワークを經由し、世界規模で検索可能となっている。また、送付先機関では資料の閲覧サービスのほか、遠隔地からの複写請求や、ILL(相互貸借)サービスを介しての利用請求などにも応じる体制を整えており、送付先を介した国際的活用が期待される。

### ●送付先

フリーア美術館/アーサー・M・サックラー美術館図書室(スミソニアン協会)

コロンビア大学エイヴリー建築美術図書館

ハイデルベルク大学東洋美術史研究所図書室

シドニー大学フィッシャー図書館

### ●送付資料数:総計1,936冊

内訳	送付先	送付資料数
	フリーア	718
	コロンビア	514
	ハイデルベルク	291
	シドニー	413

このJACプロジェクトに呼応し、北米日本研究資料調整協議会が中心となって、米国で開催された日本美術展に関する資料を収集し、当館に送付するプロジェクト(JACII)が立ち上がったほか、ハイデルベルクとシドニーからも同様の動きがあり、JACプロジェクトの活動は、国際的な資料交換プロジェクトへと広がりを見せている。

### ●JACII受入資料数:総計115冊

内訳	送付先	送付資料数
	フリーア	113
	シドニー	2

### ●関係館との交流

8月31日 野口幸生博士(コロンビア大学 C.V.スター東亞図書館 Japanese Studies Librarian)来訪

11月22日 ジョン・クラーク博士(シドニー大学 美術史兼美術理論学科教授)来訪

### 7-3 展覧会情報の収集と提供

#### Collection and Provision of the Information Services

##### ■展覧会チラシ、ポスターの収集と展覧会情報提供

全国の美術館や博物館、美術団体、画廊などから送付される広報物、展覧会チラシやポスターの整理に着手した。その一部は、館内複数箇所に設けたポスターやチラシの掲示、配布場所で掲示、配布し、来館者への情報提供を行っている。



##### ■アートコモンズ(展覧会情報検索システム)

インターネットによる展覧会情報システム「アートコモンズ」(<http://artcommons.nact.jp/>)を公開した。

平成18年度には国内美術館等(545館)の展覧会情報2,035件を収集、平成13(2001)年1月から平成19(2007)年2月までの展覧会情報10,057件を「アートコモンズ」に登録し、検索サービスを開始した。

# 8

## 広報・出版

Publicity and Publications

### 8-1 印刷物

Publications

### 8-2 ホームページ

Website

### 8-3 その他の広報事業

Other Publicity Activities

### 8-4 掲載記事、放映

Media Publicity

## 8-1 印刷物 Publications

## カタログ Catalog

●国立新美術館開館記念展『20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—』展覧会カタログ

平成19(2007)年1月21日発行、A4変型(297×225mm)、400ページ、  
図版カラー745点・白黒106点、11,000部

表紙デザイン:佐藤可士和

デザイン:亀井伸二(W.O.DESIGN)

編集:国立新美術館 南雄介、長屋光枝、宮島綾子、福永治、西野華子、加藤絢(編集補助)

執筆:南雄介、福永治、ヴェラ・ヴォルフ、長屋光枝、西野華子、宮島綾子、  
本橋弥生、浅野智子、植田彩芳子、久保田恭子、長谷川珠緒

作家略歴・年表監修:中島理壽



●『異邦人たちのパリ 1900-2005 ポンピドー・センター所蔵作品展』  
展覧会カタログ

平成19(2007)年2月7日発行、A4変型(300×225mm)、292ページ、  
図版カラー211点・白黒111点、20,000部(平成18年度)

表紙デザイン:坂川栄治+田中久子(坂川事務所)

監修:ジャン=ポール・アムリン(ポンピドー・センター主任学芸員)

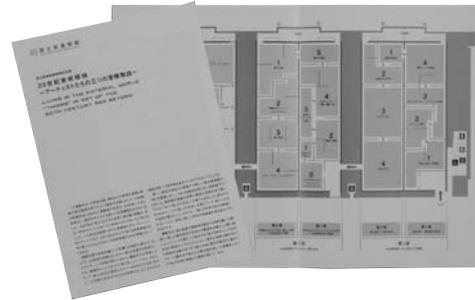
編集:ナタリー・エルヌー(ポンピドー・センター学芸補佐)、平井章一、  
久保田恭子、朝日新聞社文化事業部



フロアガイド、スケジュール類 Floor Guide, Exhibition Schedule, etc.

●国立新美術館開館記念展『20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—』フロアガイド

A4判(297×210mm)、二つ折、130,000部、英語版:5,000部



●『異邦人たちのパリ 1900-2005 ポンピドー・センター所蔵作品展』  
出品目録

A4判(297×210mm)、二つ折、50,000部



●国立新美術館施設概要

A4判(297×210mm)、16ページ、22,000部

デザイン:佐藤可士和



- 国立新美術館展覧会スケジュール  
220×107mm、四つ折、150,000部、英語版:5,000部  
デザイン:佐藤可士和



- 国立新美術館利用案内  
220×107mm、二つ折、150,000部、英語版:30,000部  
デザイン:佐藤可士和



- 国立新美術館別館案内  
220×107mm、二つ折、100,000部  
デザイン:佐藤可士和



- アトライブラリー利用案内  
210×100mm、三つ折、80,000部  
編集・デザイン:学芸課情報資料室

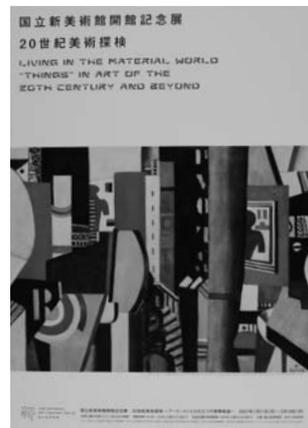
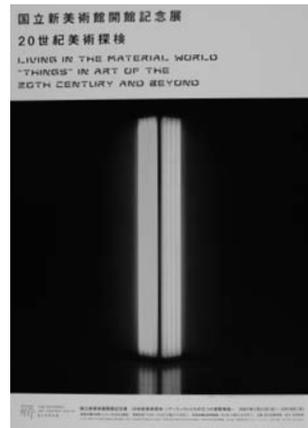


ポスター Poster

- 国立新美術館開館告知ポスター  
B1判(1030×728mm)  
(建物写真):4,000部、(シンボルマーク):1,000部  
デザイン:佐藤可士和



- 国立新美術館開館記念展『20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—』ポスター  
B1判(1030×728mm):3種各1,000部  
B3判(364×515mm):12,500部  
B3変型(インターサイズ):1,100部  
デザイン:佐藤可士和



●『異邦人たちのパリ 1900-2005』  
 ポスター(先行配布)  
 B1判(1030×728mm):1,000部  
 B2判(728×515mm):1,000部  
 デザイン:坂川栄治

ポンピドー・センター所蔵作品展』  
 ポスター  
 B1判(1030×728mm):1,400部  
 B2判(728×515mm):6,900部  
 B3判(364×515mm):33,000部  
 B3変型(インターサイズ):7,900部  
 デザイン:坂川栄治



美術館ニュース Newsletter

●国立新美術館 美術館ニュース No. 1  
 平成19(2007)年1月31日発行、A4判(297×210mm)、8ページ、5,000部  
 デザイン:佐藤可士和

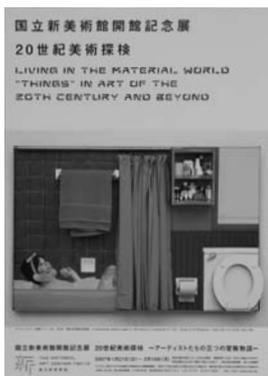


●国立新美術館 美術館ニュース No. 2  
 平成19(2007)年3月30日発行、A4判(297×210mm)、8ページ、5,000部  
 デザイン:佐藤可士和



チラシ Flier

●国立新美術館開館記念展『20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—』チラシ  
 A4判(297×210mm)、140,000部  
 デザイン:佐藤可士和



ガイドブックその他 Guide Book, etc.

●国立新美術館ガイドブック『アートのとびら』  
 平成19(2007)年1月21日発行、A5判(210×148mm)、20ページ、図版  
 カラー8点、100,000部  
 デザイン:ヨハン プラグ  
 編集:学芸課教育普及室  
 執筆:吉澤菜摘、鳥居茜、西野華子



●『異邦人たちのパリ 1900-2005』  
 チラシ(先行配布)  
 A4判(297×210mm)、80,000部  
 デザイン:坂川栄治

ポンピドー・センター所蔵作品展』  
 チラシ  
 A4判(297×210mm)、360,000部  
 デザイン:坂川栄治



●六本木アート・トライアングルMap  
 国立新美術館、サントリー美術館、森美術館  
 平成18(2006)年12月発行、252×137mm、三つ折

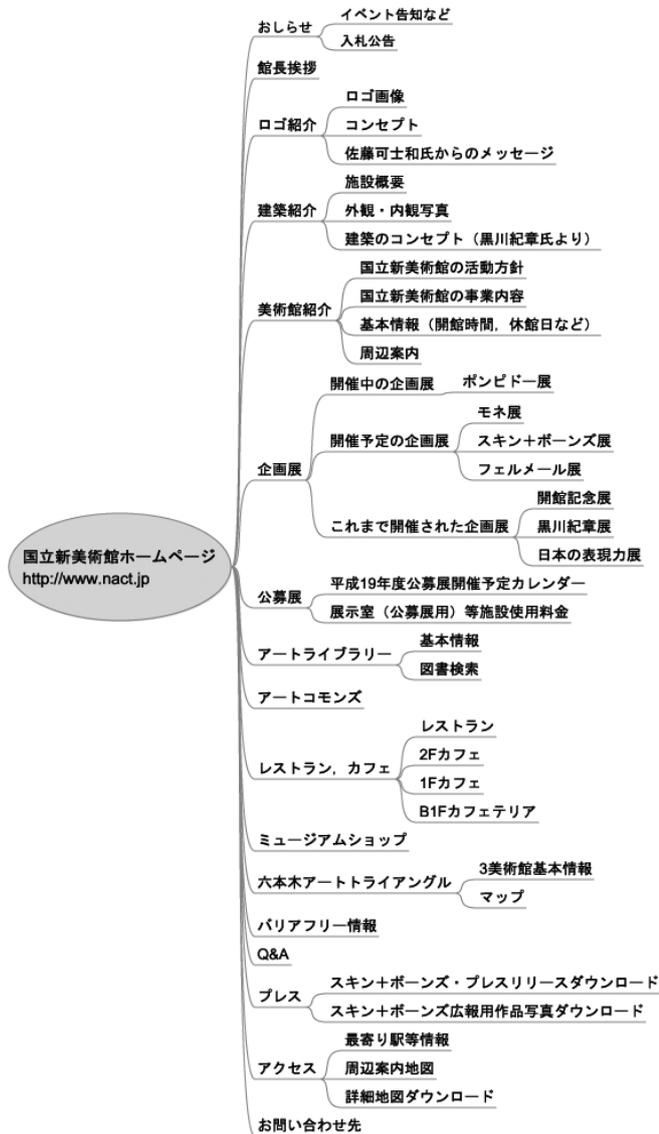


## 8-2 ホームページ Website

全アクセス数:6,463,532件

英語版ページのアクセス数:70,556件

サイトマップ



## 8-3 その他の広報事業

### Other Publicity Activities

#### 六本木アート・トライアングル

六本木に位置する国立新美術館、サントリー美術館(東京ミッドタウン)、森美術館(六本木ヒルズ森タワー)の3館は、芸術・文化の発展と地域の活性化を目指し、「六本木アート・トライアングル」として連携をスタートした。連携事業の第一弾として、六本木を訪れる人がアートを楽しみながら街を散策できるマップを制作、平成18(2006)年12月より配布を開始した。

## 8-4 掲載記事、放映 Media Publicity

### ●新聞

紙名	発行	発行日	内容	記者
新美術新聞	美術年鑑社	10月21日	美術館紹介	磯貝洋次
十勝毎日新聞	十勝毎日新聞社	11月10日	美術館紹介	深田隆弘
生涯教育新聞	生涯教育通信社	11月30日	美術館紹介	菊池真理子
毎日新聞	毎日新聞社	12月21日	「20世紀美術探検」紹介	木下豊
朝日小学生新聞	朝日学生新聞社	1月1日	美術館紹介	渡辺真理子
日本経済新聞	日本経済新聞社	1月10日	美術館紹介	窪田直子
東京リビング	サンケイリビング新聞社	1月13日	美術館紹介	小島歩
書道美術新聞	美術新聞社	1月15日	美術館紹介	古屋厚子
熊本日日新聞	熊本日日新聞社	1月31日	美術館紹介	植田フサ子
産経新聞	産経新聞社	1月31日	美術館紹介	黒澤綾子
朝日新聞夕刊	朝日新聞社	2月7日	「20世紀美術探検」紹介	田中三蔵
朝日新聞	朝日新聞社	2月14日	美術館紹介	山盛英司
毎日新聞	毎日新聞社	2月21日	施設紹介及び館長インタビュー	手塚さや香
シティリビング	サンケイリビング新聞社	2月23日	「20世紀美術探検」紹介	滝ヶ原真佐子
北國新聞	北國新聞社	2月25日	美術館紹介	池田貴紀
読売新聞	読売新聞社	3月6日	美術館紹介	北村泰子

他 173件(当館把握件数)

### ●雑誌

誌名	発行	発行日	内容
月刊美術	実業之日本社	11月20日	「20世紀美術探検」「異邦人たちのパリ」紹介
Casa BRUTUS	マガジンハウス	12月10日	美術館紹介
芸術新潮	新潮社	12月25日	「20世紀美術探検」紹介
ELLE JAPON	アシエット婦人画報社	12月26日	美術館紹介
美術手帖	美術出版社	1月17日	「20世紀美術探検」紹介
一枚の繪	一枚の繪	1月21日	美術館紹介
新建築	新建築社	2月号(1月1日)	美術館紹介
美術の窓	生活の友社	2月号(1月20日)	美術館紹介
Weekly ぴあ	ぴあ株式会社	2月8日	美術館紹介
NEWS WEEK	NEWS WEEK	2月19日	館長取材・美術館紹介
Esquire	エスクァイアマガジンジャパン	3月1日	美術館紹介
Pen	阪急コミュニケーションズ	3月1日	「20世紀美術探検」紹介
AERA with Kids	朝日新聞社	3月8日	施設及びイベント紹介
装苑	文化出版局	4月号	「20世紀美術探検」紹介

他 329件(当館把握件数)

### ●テレビ

放映番組名	放送局	放送日	内容
ズームイン!!サタデー	日本テレビ	12月30日	イベント情報紹介
ワールドビジネスサテライト	テレビ東京	1月16日	美術館紹介
とくダネ!	フジテレビ	1月19日	美術館紹介
めざましテレビ	フジテレビ	1月19日	美術館紹介・「20世紀美術探検」紹介
週刊シティー情報	NHK	1月20日	美術館紹介
新日曜美術館	NHK	1月28日	施設紹介及び館長インタビュー
六本木☆パリ新発見! アート街を遊びつくす	テレビ朝日	2月17日	「異邦人たちのパリ」紹介
はなまるマーケット	TBSテレビ	3月1日	美術館紹介
たけしの誰でもピカソ	テレビ東京	3月16日	美術館紹介

他 26件(当館把握件数)

### ●ラジオ

放送番組名	放送局	放送日	内容
WAKE UP TOKYO	J-WAVE	1月19日	施設紹介及びインタビュー
森本毅郎スタンバイ!	TBSラジオ	1月22日	美術館紹介
NACK ON TOWN	NACK 5	2月1日	美術館紹介
こんにちは!鶴蒔靖夫です	RFラジオ日本	2月15日	館長ゲスト出演
サタデー・ウェイティング・バー AVANTI	東京FM	3月3日	副館長ゲスト出演
ラジオあさいちばん	NHKラジオ	3月5日	美術館紹介

他 15件(当館把握件数)

### ●その他 フリーペーパー、WEB等の掲載 138件(当館把握件数)

# 9

調査・研究  
Research

**三木哲夫 Tetsuo Miki**

・「黒崎彰(内なるかたちと色を描く、版画を研鑽した40年)」(インタビュー)／『黒崎彰の全仕事』／12月／阿部出版  
 【講演等】・「現場速報:新マネジメント制度をめぐる攻防—国立新美術館の現状—」／『美術評論家連盟シンポジウム2006』／11月26日／東京国立近代美術館  
 ・「ナショナル・アート・センターとして—明日への展望—」／『平成18年度美術館等運営研究協議会』／2月26日／国立新美術館  
 【海外出張】・デンマーク／10月11日—18日／美術館教育・普及事業に関する調査のため

**福永治 Osamu Fukunaga**

【執筆】・「近代美術の革新—20世紀前半の日本社会と美術—」／『20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—』展覧会カタログ／1月／国立新美術館  
 ・「推薦文」長沢明／『第3回東山魁夷記念 日経日本画大賞展』展覧会カタログ／11月／日本経済新聞社  
 【講演等】・「美術館の今と現代美術—」／『多摩美術大学絵画学科油画専攻・特別講義』／6月19日／多摩美術大学  
 ・「日豪アート交流シンポジウム「オーストラリアと日本—美術の現在と未来」(司会)／9月30日／国立新美術館  
 【海外出張】・アメリカ／11月14日—20日／平成19年度企画展「スキンプォンズ—1980年代の建築とファッション」の事前協議および出品作品の調査のため

**南雄介 Yusuke Minami**

【執筆】・「序文—「物の時代」の美術のために、」[章解説]「物の提示—物の美学」(第I部第2章)、「消費社会における物・商品・欲望—20世紀後半の美術」(第II部第2章)、「マテリアル・ワールドに生きる」(第III部)、「作家解説」高柳恵里、[作家略歴]／『20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—』展覧会カタログ／1月／国立新美術館  
 ・「開館記念展 20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—」／『新美術新聞』11月1日号(No. 1108)／美術年鑑社  
 ・「マテリアル・ワールドに生きて インスタレーションの作家たち」／『国立新美術館ニュース』No. 1(1月)／国立新美術館  
 ・「藤田嗣治展」(学芸員レポート)／『アートスケープ』4月3日号(インターネットマガジン)／大日本印刷株式会社  
 ・「アフリカ・リミックス」(学芸員レポート)／『アートスケープ』6月1日号(インターネットマガジン)／大日本印刷株式会社  
 ・「シドニー・ビエンナーレ」(学芸員レポート)／『アートスケープ』9月1日号(インターネットマガジン)／大日本印刷株式会社  
 ・「オーストラリア・レポート」(学芸員レポート)／『アートスケープ』11月1日号(インターネットマガジン)／大日本印刷株式会社  
 ・「『自転車車輪 マルセル・デュシャン』(「美術館・博物館情報」)／『読売新聞』(夕刊)2月20日／読売新聞社  
 【海外出張】・オーストラリア／7月30日—8月12日／オーストラリア外務貿易省の招聘プログラムによるオーストラリア美術および現代美術に関する調査、ならびに美術関係者との国際交流のため

**平井章一 Shoichi Hirai**

【執筆】・「近代画」としての円」／『現代の眼』558／6月／東京国立近代美術館  
 ・「戦後日本の美術とバリー—1950年代の動向を中心に—」／『異邦人たちのパリ 1900—2005 ポンピドー・センター所蔵作品展』展覧会カタログ／2月／朝日新聞社  
 ・「小さなパリをめざして」／『国立新美術館ニュース』No. 1(1月)／国立新美術館  
 【講演等】・「検証1 ミュージアムとは何であったか」／美術史学会シンポジウム「検証:国公立ミュージアム—官から民へのうねりの中で—」／4月22日／神戸市立博物館  
 【海外出張】・フランス／10月15日—22日／『異邦人たちのパリ 1900—2005 ポンピドー・センター所蔵作品展』出品作品の調査のため  
 ・ドイツ／11月23日—12月2日／ドイツ国内における美術館、画廊、美術大学等、美術関連施設の調査のため

・中国／3月5日—13日／平成20年度企画展「中国現代美術展」(仮称)に向けた調査のため

**長屋光枝 Mitsue Nagaya**

【執筆】・「章解説」[物の流入とアヴァンギャルドの出現—20世紀前半の美術』(第II部第1章)、「作家解説」田中功起、「作家略歴」／『20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—』展覧会カタログ／1月／国立新美術館  
 【海外出張】・中国／3月6日—13日／平成20年度企画展「中国現代美術展」(仮称)に向けた調査のため

**宮島綾子 Ayako Miyajima**

【執筆】・「章解説」[物を描く—静物画の革命』(第I部第1章)、「作家解説」マイケル・クレイグ=マーティン、シムリン・ギル、「作家略歴」／『20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—』展覧会カタログ／1月／国立新美術館  
 【海外出張】・デンマーク／10月11日—18日／美術館教育・普及事業に関する調査のため

**本橋弥生 Yayoi Motohashi-Maki-Mantila**

【執筆】・「作家解説」コーネリア・バーカー、「作家略歴」／『20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—』展覧会カタログ／1月／国立新美術館  
 【海外出張】・アメリカ／11月7日—20日／平成19年度企画展「スキンプォンズ—1980年代の建築とファッション」の事前協議および出品作品の調査のため

**室屋泰三 Taizo Muroya**

【執筆】・「特集 絵画芸術と色彩科学・色彩技術」絵画の色彩変化の計量の試み」／『日本色彩学会誌』第31巻／3月／日本色彩学会  
 【講演等】・「絵画の色彩変化の計量の試み」／公開シンポジウム「色で結ぶ美術と科学」／12月16日／国立新美術館  
 【研究発表】・「色変化の方向を保存する波長分析の一提案」／日本色彩学会第37回全国大会／5月20日／京都工芸繊維大学  
 ・「色変化の方向を考慮した色彩画像の波長分析」／カラーフォーラム JAPAN2006／11月29日／工学院大学

**小林光夫(客員研究員) Mitsuo Kobayashi (Visiting Fellow)**

デジタル・アーカイブ構築に関する調査研究  
 【執筆】・「<特集 絵画芸術と色彩科学・色彩技術>絵画の色彩美と数理的分析の基礎」／『日本色彩学会誌』第31巻／3月／日本色彩学会  
 【講演等】・「科学の眼で観る絵画の色彩」／公開シンポジウム「色で結ぶ美術と科学」／12月16日／国立新美術館

**中島理壽(客員研究員) Masatoshi Nakajima (Visiting Fellow)**

日本の近代美術資料に関する調査研究  
 ・「作家略歴・年表監修」／『20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—』展覧会カタログ／1月／国立新美術館

# 10

## 記録

Records

### 10-1 予算

Expenditure

### 10-2 国際交流

International Exchanges

### 10-3 名簿

Board of Trustees and Staff

## 10-1 予算 Expenditure

## 平成18年度当初支出予算

事項	(単位:千円)
一般管理費	2,025,357
展示事業費	221,604
教育普及費	148,035
調査研究費	10,000
計	2,404,996

※人件費は除く

## 10-2 国際交流 International Exchanges

## 平成18年度招聘者 Guests April 2006 - March 2007

アントニー・ジェラルド・スウィーニー Antony Gerard Sweeney  
オーストラリア映像センター館長  
オーストラリア  
9月28日～10月11日  
日豪アート交流フォーラム参加

コーネリア・パーカー Cornelia Parker  
作家  
イギリス  
11月28日～12月6日  
『20世紀美術探検』展作品展示

マイケル・クレイグ＝マーティン Michael Craig-Martin  
作家  
イギリス  
12月4日～12月11日  
『20世紀美術探検』展作品展示  
1月19日～1月22日  
『20世紀美術探検』展開會式出席並びにアーティスト・トーク出演

ダニエル・ジャクソン Daniel Jackson  
エンジニア  
イギリス  
12月4日～12月11日  
『20世紀美術探検』展マイケル・クレイグ＝マーティン作品展示

ジム・カンター Jim Kanter  
作家(アンドレア・ジッテル)アシスタント  
アメリカ合衆国  
12月6日～12月10日  
『20世紀美術探検』展アンドレア・ジッテル作品展示

シムリン・ギル Simryn Gill  
作家  
オーストラリア  
12月7日～12月13日  
『20世紀美術探検』展作品展示  
1月18日～1月24日  
『20世紀美術探検』展開會式出席並びにアーティスト・トーク出演

ミルカ・クナウフ Mirka Knauff  
シュブレンゲル美術館キュレトリアル・アシスタント  
ドイツ  
1月9日～1月14日  
『20世紀美術探検』展作品輸送・展示指導

コーラ・ローズヴェア Cora Rosevear  
ニューヨーク近代美術館絵画彫刻部門アソシエイト・キュレーター  
アメリカ合衆国  
1月11日～1月23日  
『20世紀美術探検』展作品輸送・展示指導、及び同展開會式出席

ロザンナ・ヘメリック Rosanna Hemerick  
ロサンゼルス現代美術館シニア・アソシエイト・レジストラ  
アメリカ合衆国  
1月12日～1月16日  
『20世紀美術探検』展作品輸送・展示指導

[凡例]  
氏名 Name  
肩書  
国・地域  
滞在期間  
来館目的

リア・ハイネ Ria Heine  
シュブレンゲル美術館グラフィック部門修復技術者  
ドイツ  
3月18日～3月23日  
『20世紀美術探検』展作品輸送・展示指導

アリソン・ニードル Allison Needle  
ニューヨーク近代美術館所蔵品担当アシスタント・レジストラ  
アメリカ合衆国  
3月21日～3月26日  
『20世紀美術探検』展作品輸送・展示指導

ロバート・ホリスター Robert Hollister  
ロサンゼルス現代美術館作品管理部長  
アメリカ合衆国  
3月22日～3月26日  
『20世紀美術探検』展作品輸送・展示指導

ダレル・ディ＝フィオーレ Darrell Di Fiore  
ボンビドー・センター所蔵品管理部  
フランス  
1月17日～1月24日  
『異邦人たちのパリ 1900-2005』展作品輸送・展示指導

クレール・デュケ Claire Duqué  
ボンビドー・センター所蔵品管理部  
フランス  
1月17日～1月24日  
『異邦人たちのパリ 1900-2005』展作品輸送・展示指導

ナタリー・エルヌー Nathalie Ernoul  
ボンビドー・センター学芸補佐  
フランス  
1月18日～1月25日  
『異邦人たちのパリ 1900-2005』展作品輸送・展示指導

ジャック・ウリエール Jacque Hourrière  
ボンビドー・センター修復部長  
フランス  
1月19日～1月25日  
『異邦人たちのパリ 1900-2005』展作品輸送・展示指導

ノエル・ヴィラール Noël Virard  
ボンビドー・センター所蔵品管理部長  
フランス  
1月23日～2月3日  
『異邦人たちのパリ 1900-2005』展作品輸送・展示指導

ロラン・メル Laurent Melloul  
ボンビドー・センター金属作品修復・設置部  
フランス  
1月23日～2月3日  
『異邦人たちのパリ 1900-2005』展作品輸送・展示指導

ジャン＝ポール・アムリン Jean-Paul Ameline  
ボンビドー・センター主任学芸員  
フランス  
1月23日～2月12日  
『異邦人たちのパリ 1900-2005』展監修並びに開会式出席

アルフレッド・バックマン Alfred Pacquement  
ボンビドー・センター館長  
フランス  
2月6日  
『異邦人たちのパリ 1900-2005』展開会式出席

ブルーノ・ラシーヌ Bruno Racine  
ボンビドー・センター総裁  
フランス  
2月6日  
『異邦人たちのパリ 1900-2005』展開会式出席

## 平成18年度来館者 Visitors April 2006 - March 2007

リチャード・J・ウッド Richard J. Wood  
ジャパン・ソサエティー理事長  
アメリカ  
7月14日  
視察

セルジュ・ルモワヌ Serge Lemoine  
オルセー美術館長  
フランス  
9月26日  
林田館長との面談

アリソン・キャロル Alison Carroll 他15名  
メルボルン大学、アジアリンク  
オーストラリア  
9月29日  
日豪アート交流フォーラム関係者会議出席

ポール・スミス Paul Smith  
ファッション・デザイナー  
イギリス  
10月10日  
視察

ガエ・アウレンティ Gae Aulenti  
建築家  
イタリア  
10月13日  
林田館長との面談・視察

マハムドウル・ハック Mahmudul Haque  
バングラデシュ国立博物館長  
バングラデシュ  
10月26日  
林田館長との面談・視察

黄 才郎 Tsai-lang Huang  
台北市立美術館長  
台湾  
11月8日  
林田館長との面談・視察

アナス・フォー・ラスムセン Anders Fogh Rasmussen  
デンマーク首相  
デンマーク  
11月21日  
視察

クラドック・モートン Craddock Morton  
オーストラリア国立博物館長  
オーストラリア  
11月29日  
林田館長との面談・視察

セダン・ベニングトン Seddon Bennington  
ニュージーランド国立博物館テ・パパ・トンガレワ館長  
ニュージーランド  
1月23日  
林田館長との面談・視察

マハラ・オケロア Hon Mahara Okeroa  
ニュージーランド芸術・文化副大臣  
ニュージーランド  
1月25日  
林田館長との面談・視察

マッシモ・ダレマ Massimo D'Alema  
イタリア外務大臣兼副総理  
イタリア  
2月1日  
視察

グレン・ラウリィ Glenn D. Lowry  
ニューヨーク近代美術館長  
アメリカ  
2月9日  
視察

アルフレッド・パクマン Alfred Pacquement  
ボンビドー・センター国立近代美術館長  
フランス  
2月9日  
視察

ニコラス・セロータ Nicholas Serota  
テート・ギャラリー館長  
イギリス  
2月9日  
視察

ペーター＝クラウス・シュースター Peter-Klaus Schuster  
ベルリン国立博物館群総館長  
ドイツ  
2月9日  
視察

ヴェンツェル・ヤコブ Wenzel Jacob  
ドイツ近代美術展示館館長  
ドイツ  
2月9日  
視察

ノーマン・ローゼンタール Norman Rosenthal  
ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ芸術監督  
イギリス  
2月9日  
視察

デヴィッド・エリオット David Elliott  
イスタンブール・モダン館長  
トルコ  
2月9日  
視察

イ・ホン・ラヒ Lee Hong Rahee  
リウム・サムスン美術館長  
韓国  
2月9日  
視察

ホン・ラヤン Hong Rayoung  
リウム・サムスン美術館副館長  
韓国  
2月9日  
視察

カリン・ポベスク・タリチェアヌ Călin Popescu Tăriceanu  
ルーマニア首相  
ルーマニア  
2月23日  
視察

ズラブ・コンスタンチノビッチ・ツェレテリ Zurab K. Tsereteli  
ロシア美術アカデミー総裁  
ロシア  
2月28日  
林田館長との面談・視察

金 紅男 Hongnam Kim  
韓国国立中央博物館館長  
韓国  
3月1日  
林田館長との面談・視察

シルヴィア王妃陛下 H. M. Queen Silvia  
スウェーデン王妃  
スウェーデン  
3月27日  
視察

ラースロー・バーン László Báán  
ブダペスト国立西洋美術館長  
ハンガリー  
3月30日  
林田館長との面談・視察

他 多数

### 10-3 名簿 Board of Trustees and Staff

#### 評議員名簿 Board of Trustees

新井光風	(社)日展理事、謙慎書道会理事長、書家
今井 渉	サントリー美術館支配人
梅原幸雄	東京芸術大学美術学部絵画科日本画専攻教授、日本画家
逢坂恵理子	水戸芸術館現代美術センター芸術監督
奥谷禮子	(株)ザ・アール代表取締役社長
熊倉純子	東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科助教授
酒井忠康	世田谷美術館長、神奈川県立近代美術館顧問
桜井 武	美術評論家、慶應義塾大学大学院非常勤講師
澄川喜一	(社)日本美術家連盟理事、島根県芸術文化センター長、彫刻家
高階秀爾	大原美術館長、(財)西洋美術振興財団理事長
高橋信也	森美術館ジェネラルマネージャー、森ビル株式会社取締役
田中通孝	大阪学院大学国際学部国際学科教授
塗師祥一郎	(社)日展常務理事、日洋会常任委員、洋画家
塙 義一	日産自動車株式会社名誉会長
馬淵明子	日本女子大学人間社会学部文化学科教授
山本 貞	(社)二紀会理事長、(社)日本美術家連盟理事、洋画家
横里幸一	(株)NHKプロモーション代表取締役社長

平成18(2006)年9月13日時点 17名

#### 職員名簿 Staff

館長	林田英樹		
副館長	三木哲夫		
[運営管理部]		[学芸課]	
運営管理部長/室長(管理)	石垣鉄也	学芸課長/教育普及室長	福永 治
係長(庶務)	森田浩司	企画室長(主任研究員)	南 雄介
一般職員(庶務)	福田武史	研究員(企画)	長屋光枝
事務補佐員	浅井倫子	研究員(企画)	宮島綾子
係長(会計)	松本武彦	研究補佐員	植田彩芳子
一般職員(会計)	澁井将紀	研究補佐員	久保田恭子
事務補佐員	中曽根映里	研究補佐員	長谷川珠緒
事務補佐員	河野正美	研究補佐員	加藤 絢
事務補佐員	三谷知子	事務補佐員	小島 佳
室長(運営)/係長(事業)	西田佳二	研究員(教育普及)	西野華子
一般職員(事業)	小澤孝明	研究員(教育普及)	本橋弥生
事務補佐員	竹之内千夏	研究補佐員	吉澤菜摘
事務補佐員	松田真理	研究補佐員	鳥居 茜
		情報資料室長(主任研究員)	平井章一
		研究員(情報資料)	室屋泰三
		情報研究補佐員	小野寺啓
		研究補佐員	浅野智子
		研究補佐員	白鳥真理子
		研究補佐員	橘川英規
		研究補佐員	宮田有香
		事務補佐員	草野鏡子
		事務補佐員	奥村嘉子
		客員研究員	小林光夫
		客員研究員	中島理壽

平成19(2007)年3月末時点 39名

平成18年度 国立新美術館 年報

発行者: 林田英樹

発行: 国立新美術館

東京都港区六本木7-22-2

電話03-6812-9900

印刷: 印象社

発行日: 平成19年5月31日(非売品)

**ANNUAL REPORT**

April 2006 - March 2007

The National Art Center, Tokyo

Publisher: HAYASHIDA Hideki

Published by: The National Art Center, Tokyo ©2007

7-22-2 Roppongi, Minato-ku, Tokyo 106-8558, Japan

Printed by: Insho-sha Co., Ltd.

新 国立新美術館  
THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO